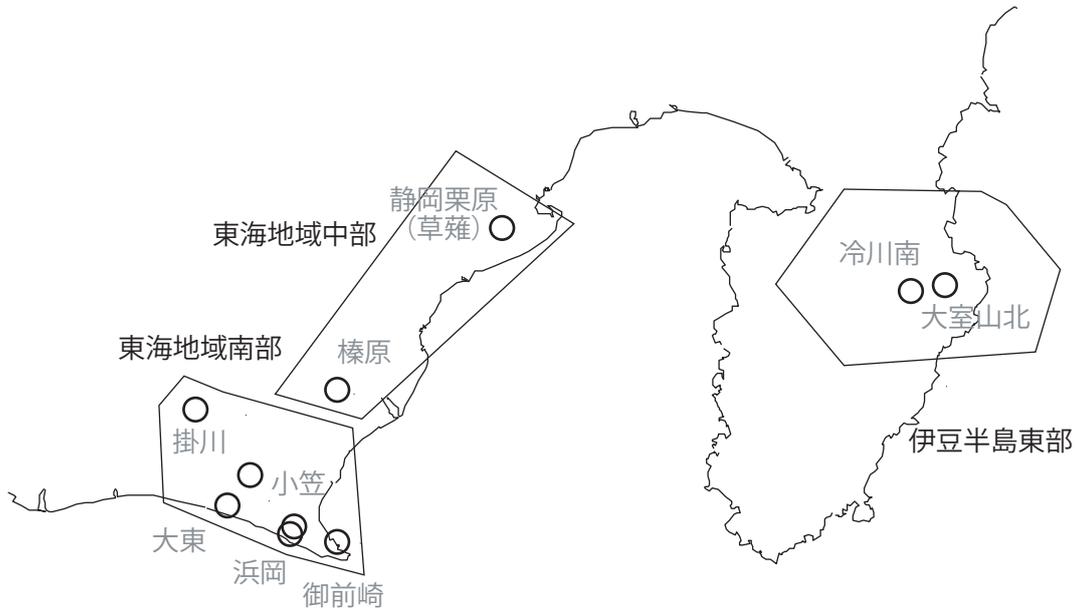


東海・伊豆地域等の地下水観測結果

産業技術総合研究所地下水観測井配置図
(東海・伊豆地域テレメータ連続観測)

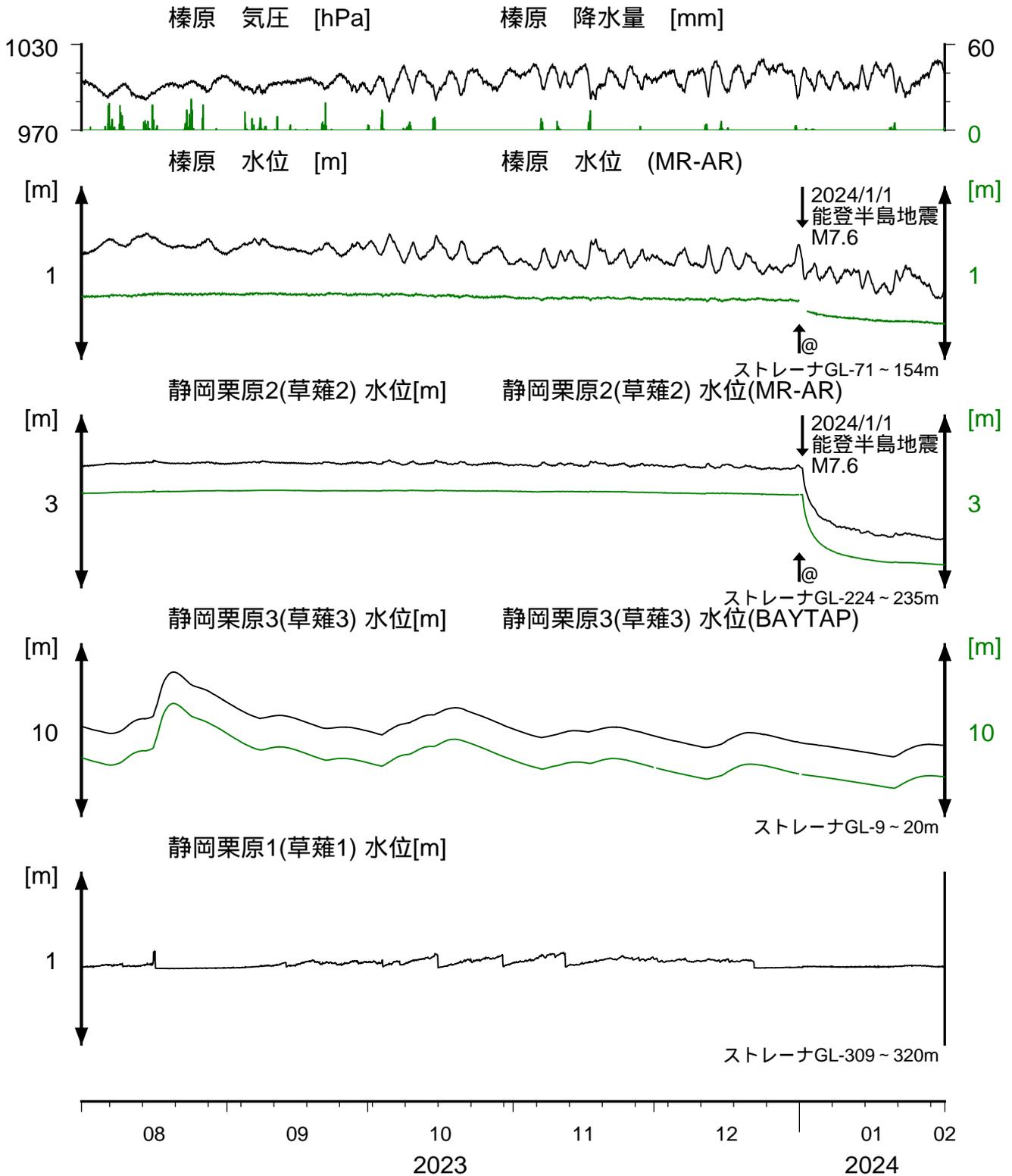


【資料目次】

表紙

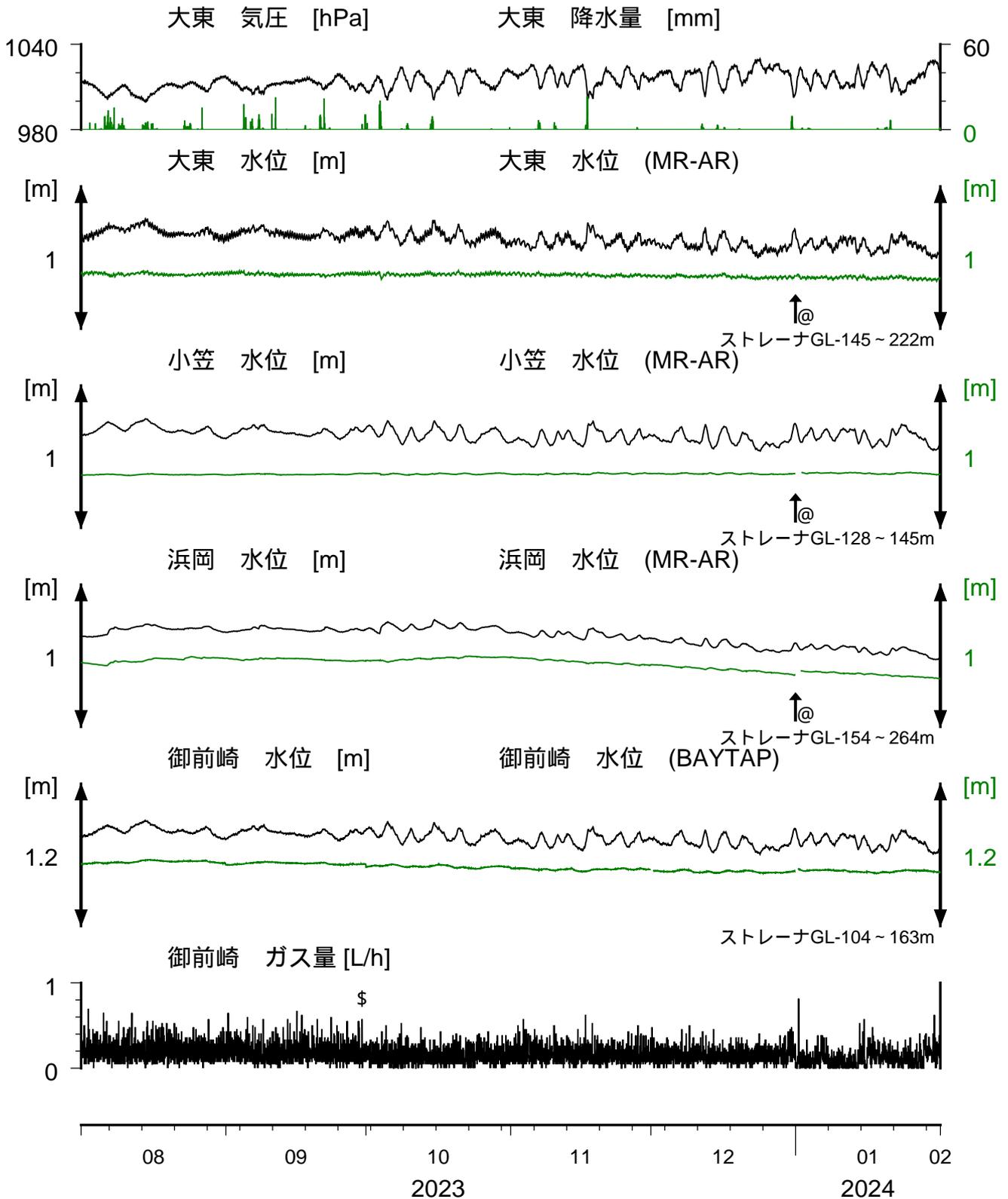
1. 東海地域中部 [榛原, 静岡栗原 (草薙)] 地下水
2. 東海地域南部 [大東, 小笠, 浜岡, 御前崎] 地下水
3. 東海地域南部 [掛川] 地下水・沈下
4. 伊豆半島東部 [大室山北, 冷川南] 地下水
5. 関東地域 [つくば] 地下水

東海地域中部 [榛原, 静岡栗原] 地下水 (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



コメント：\$;保守. ?;不明.
 @;月初めの補正值のギャップは、解析プログラムの見かけ上のものである。
 2015年4月中旬に静岡栗原1の水位が井戸管の広い部分まで上昇したので、
 それ以降の水位変化が小さくなっている。

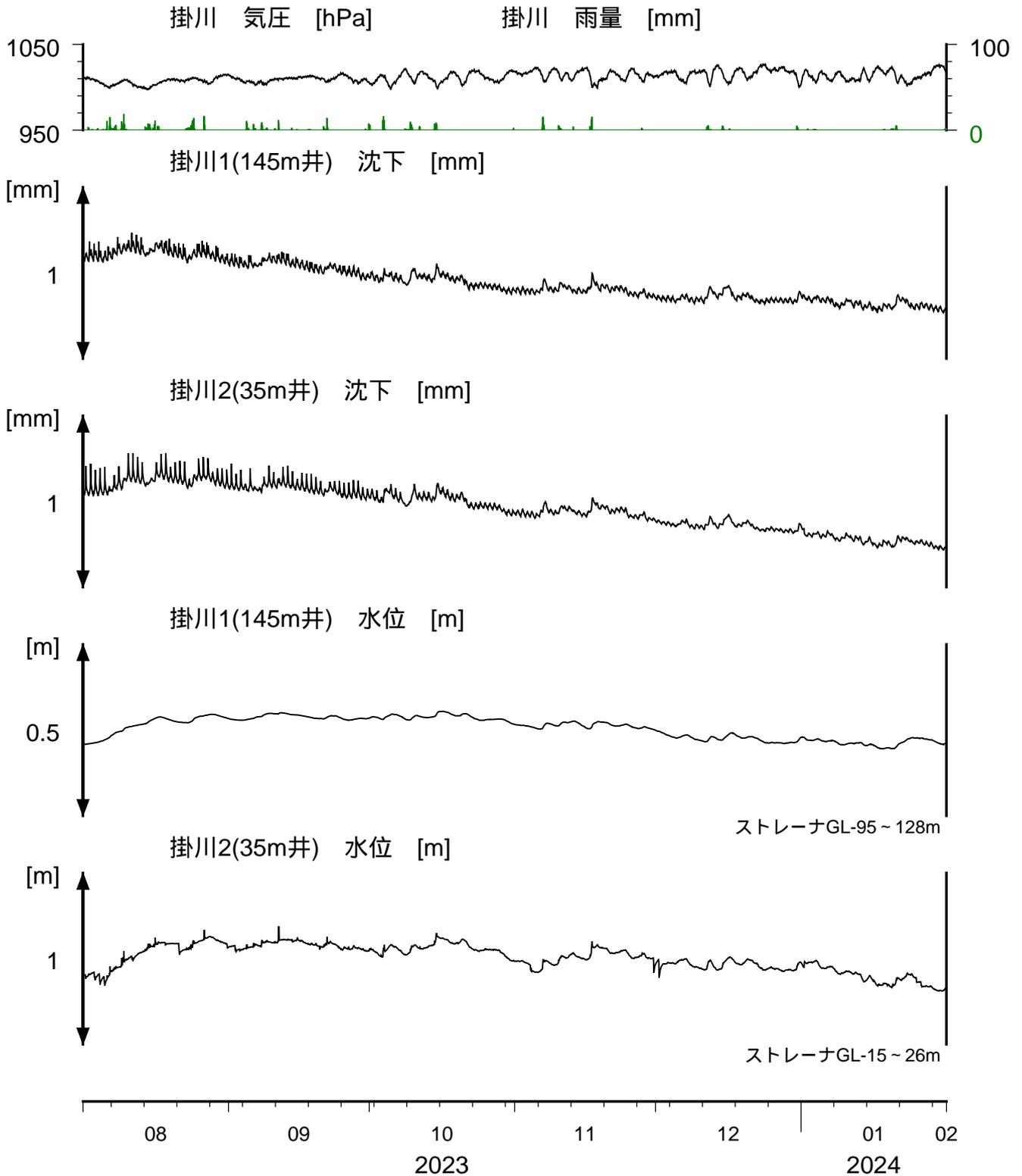
東海地域南部 [大東,小笠,浜岡,御前崎] 地下水 (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



コメント：\$;保守.;?;不明.

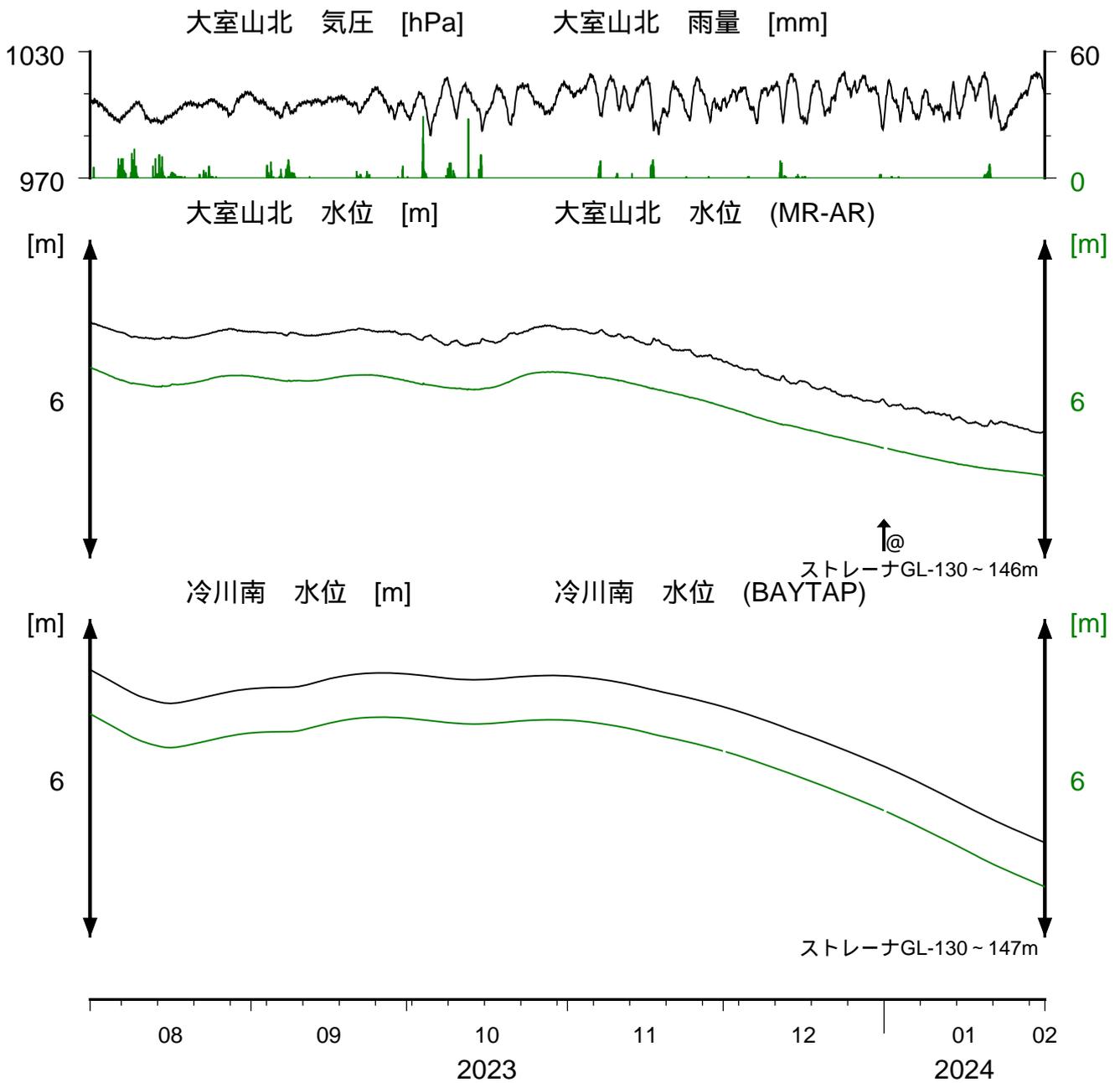
@;月初めの補正值のギャップは、解析プログラムの見かけ上のものである.

東海地域南部 [掛川] 地下水・沈下 (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



コメント：\$;保守.?;不明.

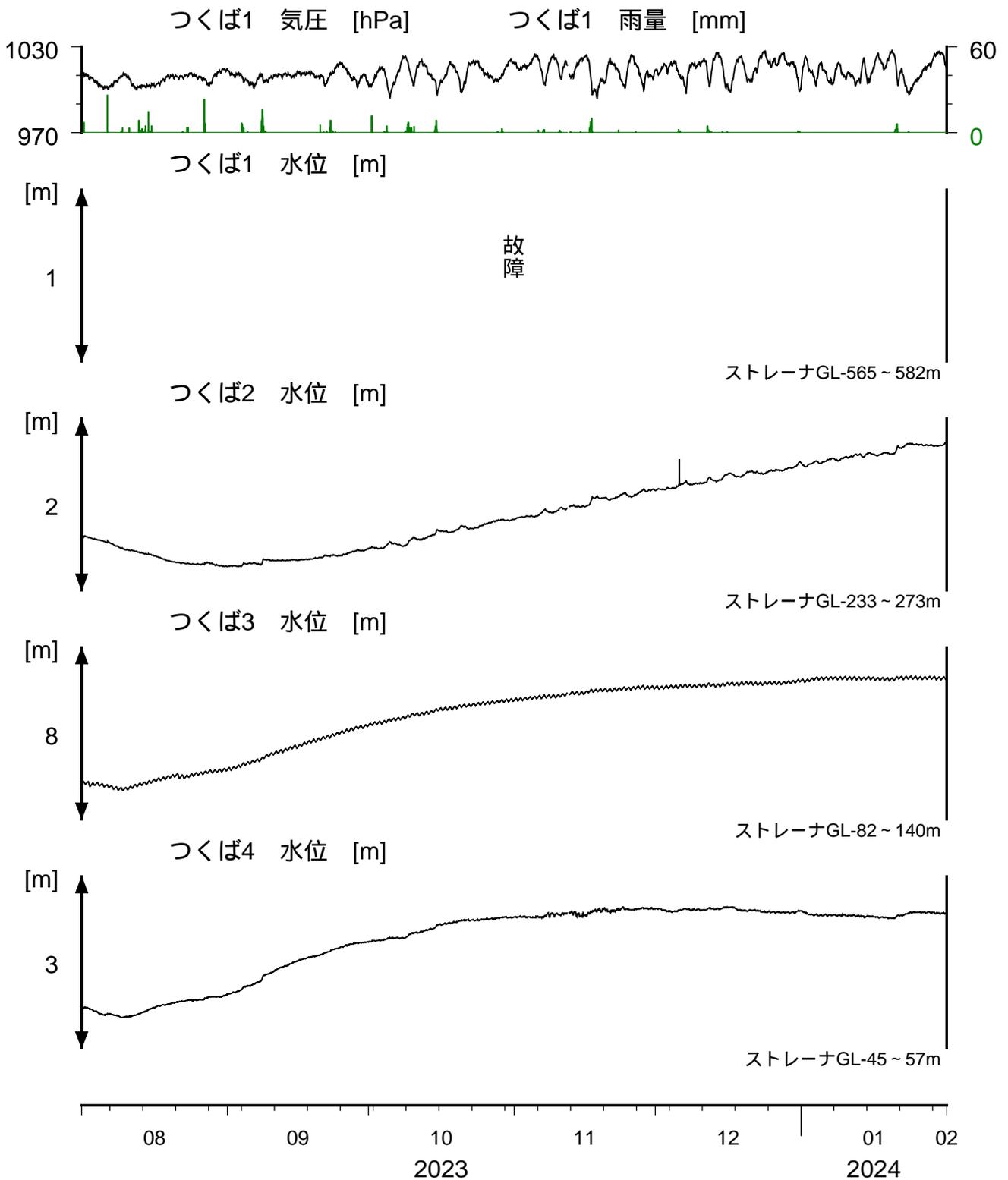
伊豆半島東部 [大室山北 , 冷川南] 地下水 (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



コメント：\$;保守. ?;不明.

@;月初めの補正值のギャップは，解析プログラムの見かけ上のものである．

関東地域 [つくば] 地下水 (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



コメント：\$;保守.?;不明.

紀伊半島～四国の地下水・歪観測結果（2023年11月～2024年1月）

東海・紀伊半島・四国における短期的スロースリップイベント（2023年11月～2024年1月）

産業技術総合研究所

産業技術総合研究所（産総研）では、東海・紀伊半島・四国の地下水等総合観測施設 19 点において、歪・地下水等の観測を行っている。観測点配置図を第 1 図に示す。

第 2～32 図には、2023 年 8 月～2024 年 1 月における歪・傾斜・地下水位の 1 時間値の生データ（上線）と補正值（下線）を示す。歪・傾斜の図において「N120E」などと示してあるのは、歪・傾斜の測定方向が北から 120 度東方向に回転していることを示す。HKS 以外の補正值は、潮汐解析プログラム BAYTAP-G[Tamura *et al.*, 1991]によって、気圧・潮汐・不規則ノイズの影響を除去した結果である。歪・傾斜のグラフについては、直線トレンド（1次トレンド）を除去している。HKS の補正值は時系列解析プログラム MR-AR によって、気圧・潮汐・降雨の影響を除去した結果である。

歪・傾斜・地下水の変化から推定される短期的スロースリップイベント（SSE）の断層モデルについて、その解析結果を報告する。解析方法は解析結果の後に示す。

2023 年 11 月 30 日午後から 12 月 6 日にかけて、四国地域で深部低周波地震が観測された（第 33 図）。第 34 図は周辺の産総研・防災科研の観測点における歪・傾斜の観測結果である。これらの結果は BAYTAP-G により気圧応答成分、潮汐成分およびホワイトノイズ成分を取り除き、2023 年 12 月 23 日から 12 月 30 日午前のデータを用いて 1 次トレンドを除去したものである。

第 35 図は第 34 図[A]の変化を説明する短期的 SSE の断層モデルの推定結果（Mw 5.6）である。第 34 図[A]に続く期間の活動は東西に分かれる。第 36, 37 図は第 34 図[B1], [B2]（東側）の、第 38, 39 図は第 34 図[C1], [C2]（西側）の変化を説明する短期的 SSE の断層モデルの推定結果（東側は Mw 5.6, 5.5, 西側は Mw 5.8, 6.0）である。今回の活動域付近における最近の短期的 SSE は、2023 年 5 月 15 日午後から 5 月 21 日午前（Mw 5.9, 5.6；第 35-39 図の灰色矩形 1, 2）、2023 年 7 月 1 日午後から 7 月 10 日午前（順に Mw 5.9, 5.8；同 3, 4）、2023 年 8 月 15 日から 8 月 20 日（順に Mw 6.0, 5.5；同 5, 6）である。

2023 年 12 月 23 日から 2024 年 1 月 6 日午前にかけて、愛知県から紀伊半島にかけて深部低周波地震が観測された（第 40 図）。第 41 図は周辺の産総研・気象庁・静岡県・防災科研の観測点における歪・傾斜の観測結果である。これらの結果は BAYTAP-G により気圧応答成分、潮汐成分およびホワイトノイズ成分を取り除き、2023 年 12 月 16 日から 12 月 22 日のデータを用いて 1 次トレンドを除去したものである。

第 42-48 図はそれぞれ第 41 図[A], [B], [C], [D1], [D2], [E], [F]の変化を説明する短期的 SSE の断層モデルの推定結果（順に Mw 5.9, 5.9, 5.6, 5.8, 5.7, 5.8, 5.6）である。なお、第 41 図[D1]（北側）、[D2]（南側）の期間は南北で同時期に別々の活動が発生したと考えられる。今回の活動域付近における最近の短期的 SSE は、2022 年 10 月 16 日から 10 月 23 日午前（順に Mw 5.8, 5.9；第 42-48 図の灰色矩形 1, 2）、2023 年 8 月 3 日から 8 月 5 日（Mw 5.8；同 3）、2023 年 8 月 23 日午後から 8 月 25 日午前（Mw 5.5；同 4）、2023 年 9 月 15 日から 9 月 17 日（Mw 5.8；同 5）、2023 年 10 月 20 日午後から 10 月 23 日（Mw 5.8；同 6）、2023 年 10 月 20 日午後から 23 日（Mw 5.8；同 7）、2022 年 5 月 28 日から 5 月 30 日（Mw 5.8；同 8）、2023 年 10 月 11 日から 10 月 12 日（Mw 5.3；同 9）である。

2023 年 12 月 24 日から 12 月 31 日午前にかけて、四国地域で深部低周波地震が観測された（第 49 図）。第 50 図は周辺の産総研・防災科研の観測点における歪・傾斜の観測結果である。これらの結果は BAYTAP-G により気圧応答成分、潮汐成分およびホワイトノイズ成分を取り除き、2023 年 12 月

17日から12月23日のデータを用いて1次トレンドを除去したものである。

第51図は第50図[A]の変化を説明する短期的SSEの断層モデルの推定結果(Mw 6.0)である。今回の活動域付近における最近の短期的SSEは、2023年5月15日午後から5月21日午前(Mw 5.9, 5.6; 第50図の灰色矩形1, 2), 2023年7月1日午後から7月10日午前(順にMw 5.9, 5.8; 同3, 4), 2023年8月15日から8月20日(順にMw 6.0, 5.5; 同5, 6), 2023年11月30日午後から12月6日(順にMw 5.6, 5.6, 5.5; 同7-9)である。

解析方法

短期的SSEの断層面推定には、それぞれの観測点の水平歪4成分(一部の気象庁観測点では8成分)・体積歪・地下水圧・傾斜2成分の記録を用いる。地下水圧は、O1およびM2分潮の振幅をBAYTAP-G [Tamura et al., 1991]により計算し、GOTIC2 [Matsumoto et al., 2001]により推定した地球固体潮汐および海洋荷重潮汐(O1およびM2分潮)との振幅比を用いて、体積歪に変換する。歪・地下水・傾斜ともに、観測波形からBAYTAP-Gにより、気圧応答成分、潮汐成分およびホワイトノイズ成分を取り除く。また、イベント直前の期間を用いて1次トレンドも取り除く。深部低周波地震活動も参考にして、数時間～半日単位で活動開始・終了時期を判断し、その期間の変化量を短期的SSEによる変化量とする。その際、歪についてはMatsumoto et al. [2010]の手法で理論潮汐歪を用いてキャリブレーションを行っている。

断層面の推定は、計算時間の短縮と、推定された結果の一意性を確認するために2段階で行う。断層面推定は板場ほか[2012]の手法を用いた。フィリピン海プレート境界面上[弘瀬ほか, 2007]に多数の断層面を仮定してグリッドサーチにより推定する。仮定した断層面上のすべりによって各観測点で期待される歪変化の計算にはOkada [1992]のプログラムを用いる。1段階目には、断層面のサイズは固定(幅・長さ共に20km)、断層面の位置(0.1°間隔)およびすべり量(1~100mmの間で1mm間隔)のみ可変として広範囲で計算を行う。1段階目の結果を示す図では、それぞれの断層面において最適なすべり量を与えたときの、観測値と計算値(期待値)との残差分布を示している。これにより、短期的SSEが生じている可能性が高い領域を絞り込むとともに、推定された結果の任意性を確認することが出来る。2段階目には、1段階目で絞り込んだ領域(=残差が小さい領域)付近で、位置及びすべり量に加えて、断層面の長さを10~80km、幅を10~50km、それぞれ1km間隔で可変として計算を行なう。その結果、観測値との残差が最小となる断層面が1つ計算されるが、計算に使用している観測点数が少ない場合や、断層面と観測点配置の関係によっては任意性が高くなるので注意が必要である。なお、異種観測値を統合して解析するため、観測点ごとに残差をノイズレベルによって規格化している。ノイズレベルは、気圧応答、潮汐成分およびホワイトノイズ成分を取り除いた後(微動活動が活発な期間および周辺の日雨量50mmを超える時期を除く)の24時間階差の 2σ とした。

謝辞

短期的SSEの断層モデル推定には、防災科研Hi-net高感度加速度計(傾斜計)および気象庁、静岡県のも成分歪計および体積歪計の記録を使用しました。気象庁の歪計データを解析する際には、気象庁によるキャリブレーション係数を使用しました。深部低周波地震の震央位置表示には、気象庁の一元化カタログを使用しました。ここに記して感謝します。

(落唯史・板場智史・矢部優・北川有一・松本則夫・木口努)

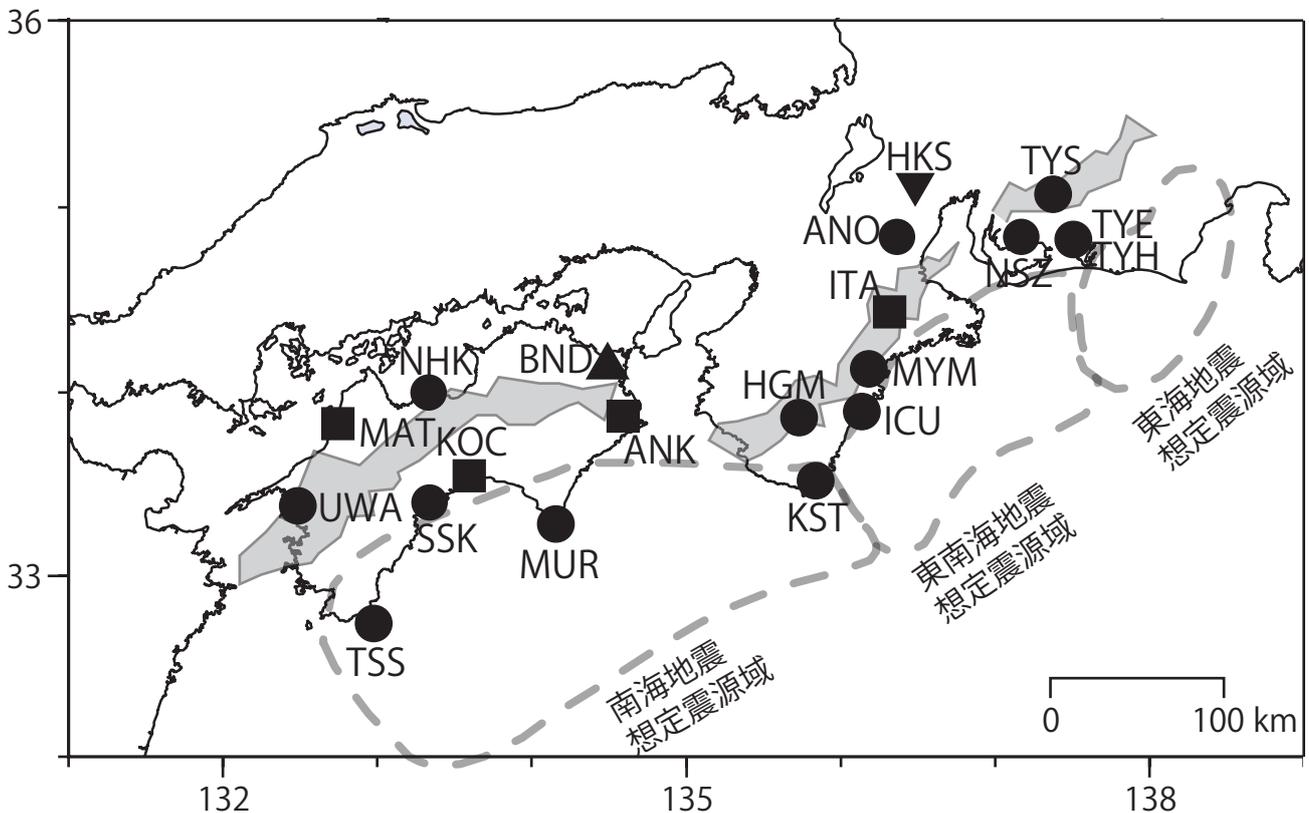
参考文献

- 弘瀬冬樹, 中島淳一, 長谷川昭 (2007), Double-Difference Tomography法による西南日本の3次元地震波速度構造およびフィリピン海プレートの形状の推定, *地震* **2**, **60**, 1-20.
- 板場智史, 松本則夫, 北川有一, 小泉尚嗣, 松澤孝紀, 歪・傾斜・地下水統合解析による短期的スロースリップイベントのモニタリング, *日本地球惑星連合2012年大会*, 千葉, 5月, 2012.
- Matsumoto, K., T. Sato, T. Takanezawa, and M. Ooe, GOTIC2: A Program for Computation of Oceanic Tidal Loading Effect, *J. Geod. Soc. Japan*, **47**, 243-248, 2001.
- Matsumoto, N., O. Kamigaichi, Y. Kitagawa, S. Itaba, and N. Koizumi (2010), In-situ Calibration of

Borehole Strainmeter Using Green's Functions for Surface Point Load at a Depth of Deployment, *Eos, Trans. AGU*, Abstract G11A-0626.

Okada, Y. (1992), Internal deformation due to shear and tensile faults in a half-space, *Bull. Seismol. Soc. Am.*, **82**, 1018-1040.

Tamura, Y., T. Sato, M. Ooe and M. Ishiguro (1991), A procedure for tidal analysis with a Bayesian information criterion, *Geophys. J. Int.*, **104**, 507-516.

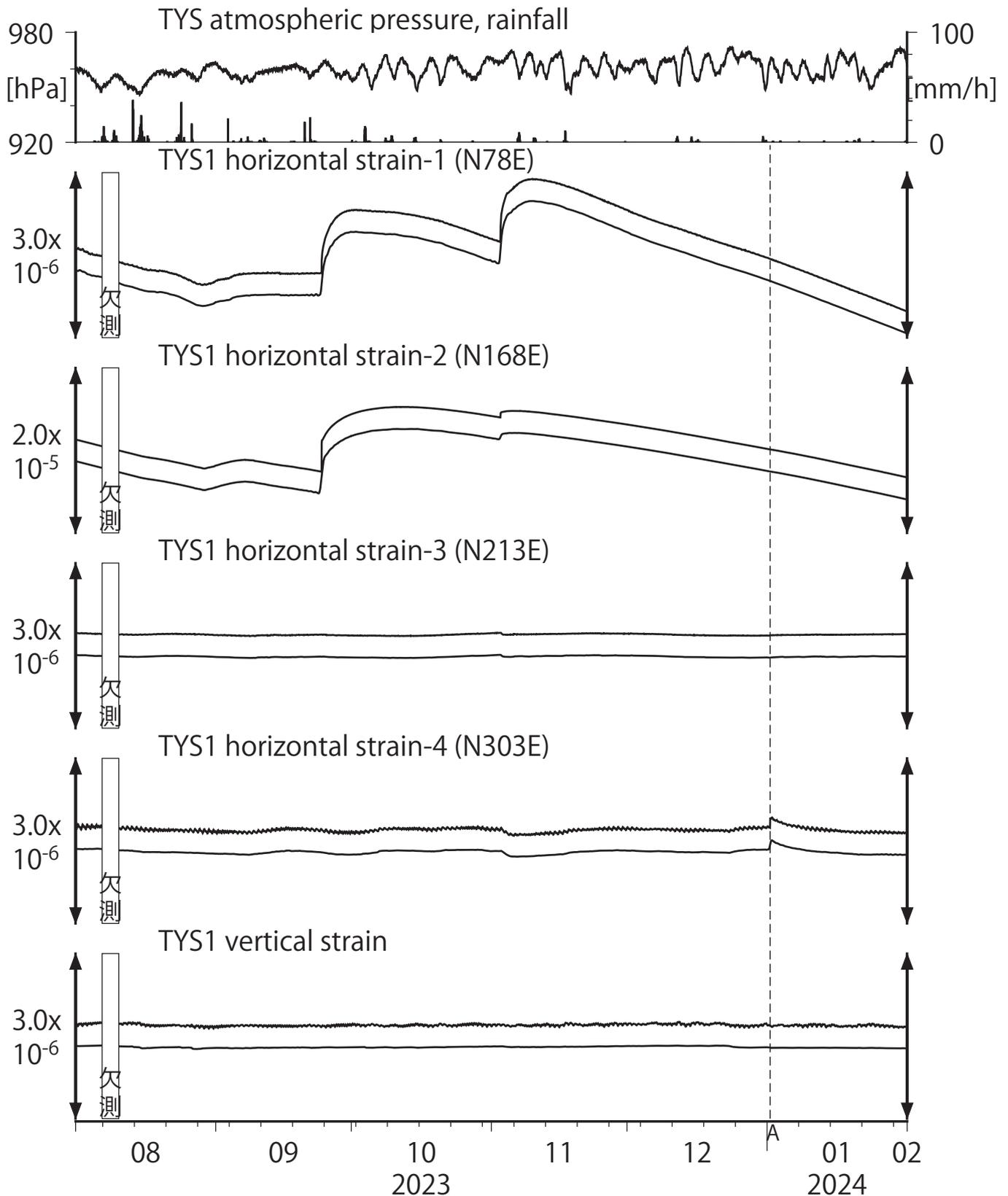


第1図: 産総研の地殻変動・地下水観測点の分布図 (●・■・▲・▼)。それぞれの観測点に設置されている機器は次のとおり。●はボアホール歪・傾斜計 (デジタル) および水位計。■は傾斜計および水位計。▲はボアホール歪計 (アナログ) および水位計。▼は水位計。灰色の領域は短期的SSEおよび深部低周波微動が定常的に発生していると考えられる地域。

第1表: 産総研観測点の新名称。平成23年1月17日から「市町村名」+「町・字名等」を基本とする名称に変更している。なお、3文字コードは変更していない。

3文字コード (変更無し)	旧名称		新名称	新名称ふりがな	市区町村	図
TYS	豊田下山	→	豊田神殿	とよたかんの	愛知県豊田市	2,3
NSZ	西尾善明	変更無し	西尾善明	にしおぜんみょう	愛知県西尾市	4,5
TYE	豊橋東	→	豊橋多米	とよはしため	愛知県豊橋市	6,7
HKS	北勢	変更無し	北勢	ほくせい	三重県いなべ市	9
ANO	安濃	→	津安濃	つあのを	三重県津市	8,9
ITA	飯高赤桶	→	松阪飯高	まつさかいいたか	三重県松阪市	10
MYM	海山	→	紀北海山	きほくみやま	三重県北牟婁郡紀北町	11,12
ICU	井内浦	→	熊野磯崎	くまのいそざき	三重県熊野市	13,14
HGM	本宮三越	→	田辺本宮	たなべほんぐう	和歌山県田辺市	15,16
KST	串本津荷	変更無し	串本津荷	くしもとつが	和歌山県東牟婁郡串本町	17,18
BND	板東	→	鳴門大麻	なるとおおあさ	徳島県鳴門市	19
ANK	阿南桑野	変更無し	阿南桑野	あなんくわの	徳島県阿南市	20
MUR	室戸	→	室戸岬	むろとみさき	高知県室戸市	21,22
KOC	高知市	→	高知五台山	こうちごだいさん	高知県高知市	23
SSK	須崎	→	須崎大谷	すさきおおたに	高知県須崎市	24,25
TSS	土佐清水	→	土佐清水松尾	とさしみずまつお	高知県土佐清水市	26,27
UWA	宇和	→	西予宇和	せいようわ	愛媛県西予市	28,29
MAT	松山	→	松山南江戸	まつやまみなみえど	愛媛県松山市	30
NHK	新居浜黒島	変更無し	新居浜黒島	にいはまくろしま	愛媛県新居浜市	31,32

第2図 Crustal strains at TYS (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



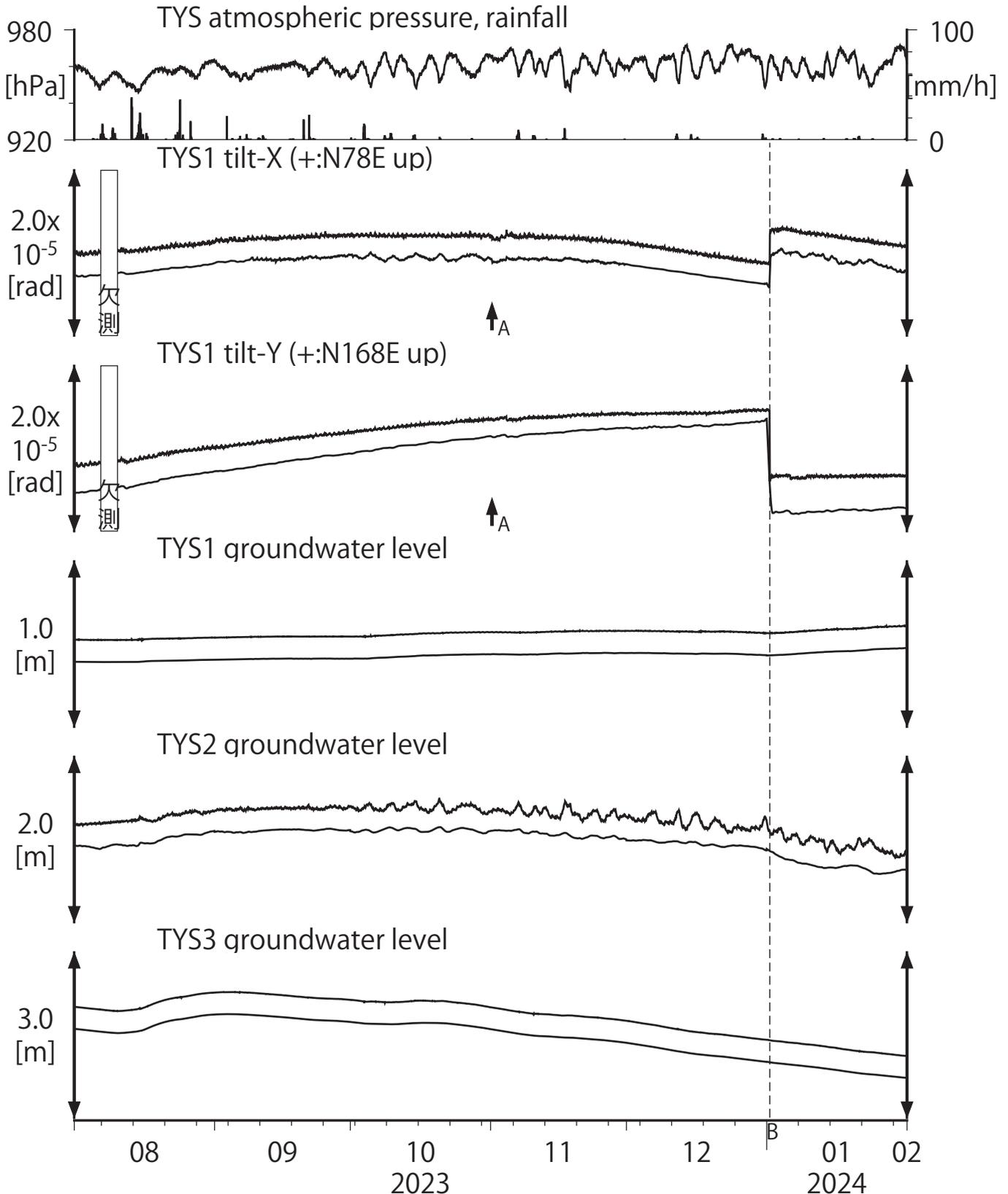
Strainmeter depth = 586.7-588.1 [GL-m]

A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

上: 1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第3図 Tilt and groundwater level at TYS (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))

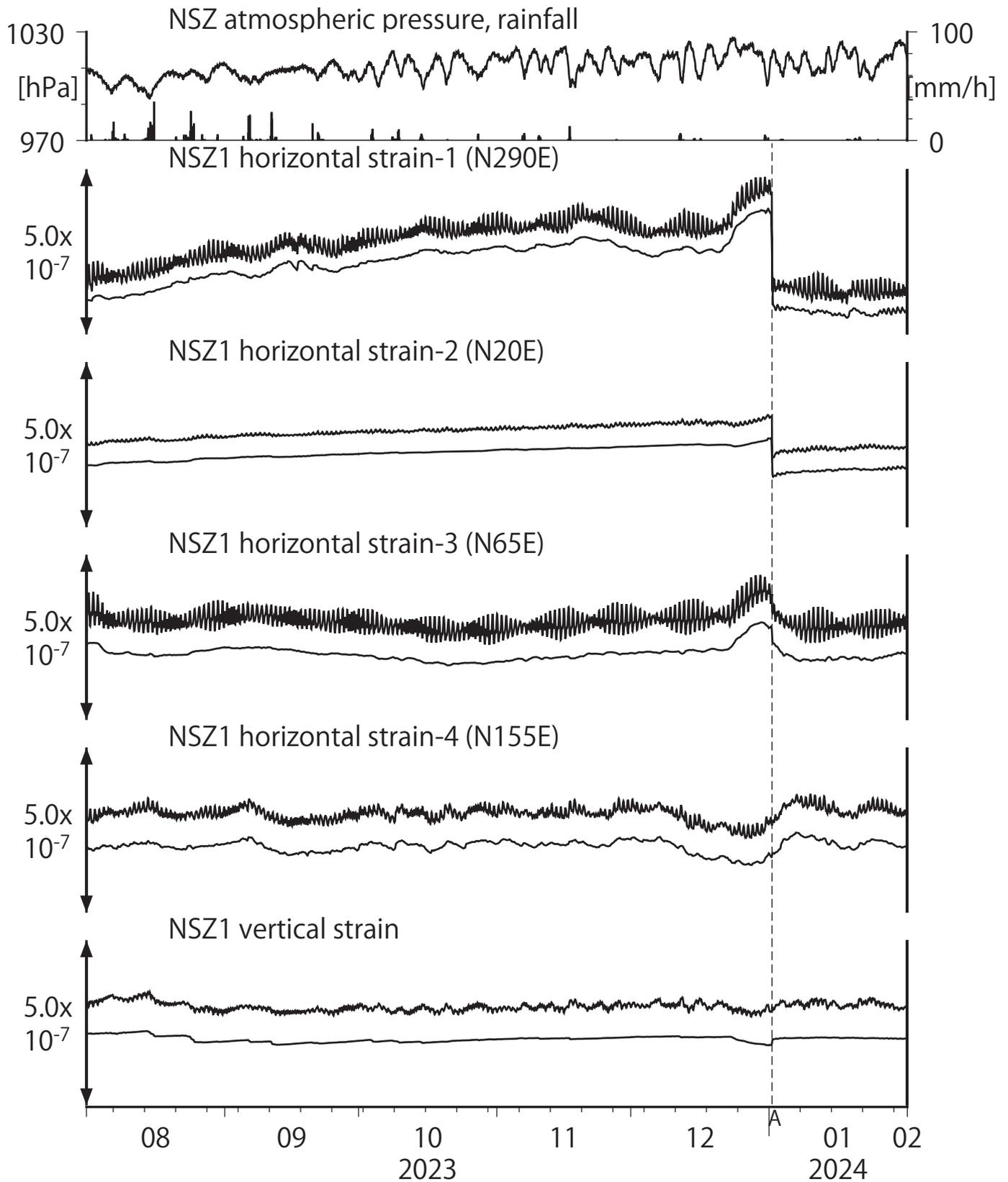


Tiltmeter depth = 585.9-586.7 [GL-m]
 TYS1 : Screen depth = 404.8-426.7 [GL-m]
 TYS2 : Screen depth = 148.8-154.3 [GL-m]
 TYS3 : Screen depth = 26.8-32.3 [GL-m]

A:2023/11/01 紀伊水道の地震 M4.9
 B:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

上: tiltは1次トレンド除去
 下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・
 ノイズ成分除去、tiltは1次トレンドも除去

第4図 Crustal strains at NSZ (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



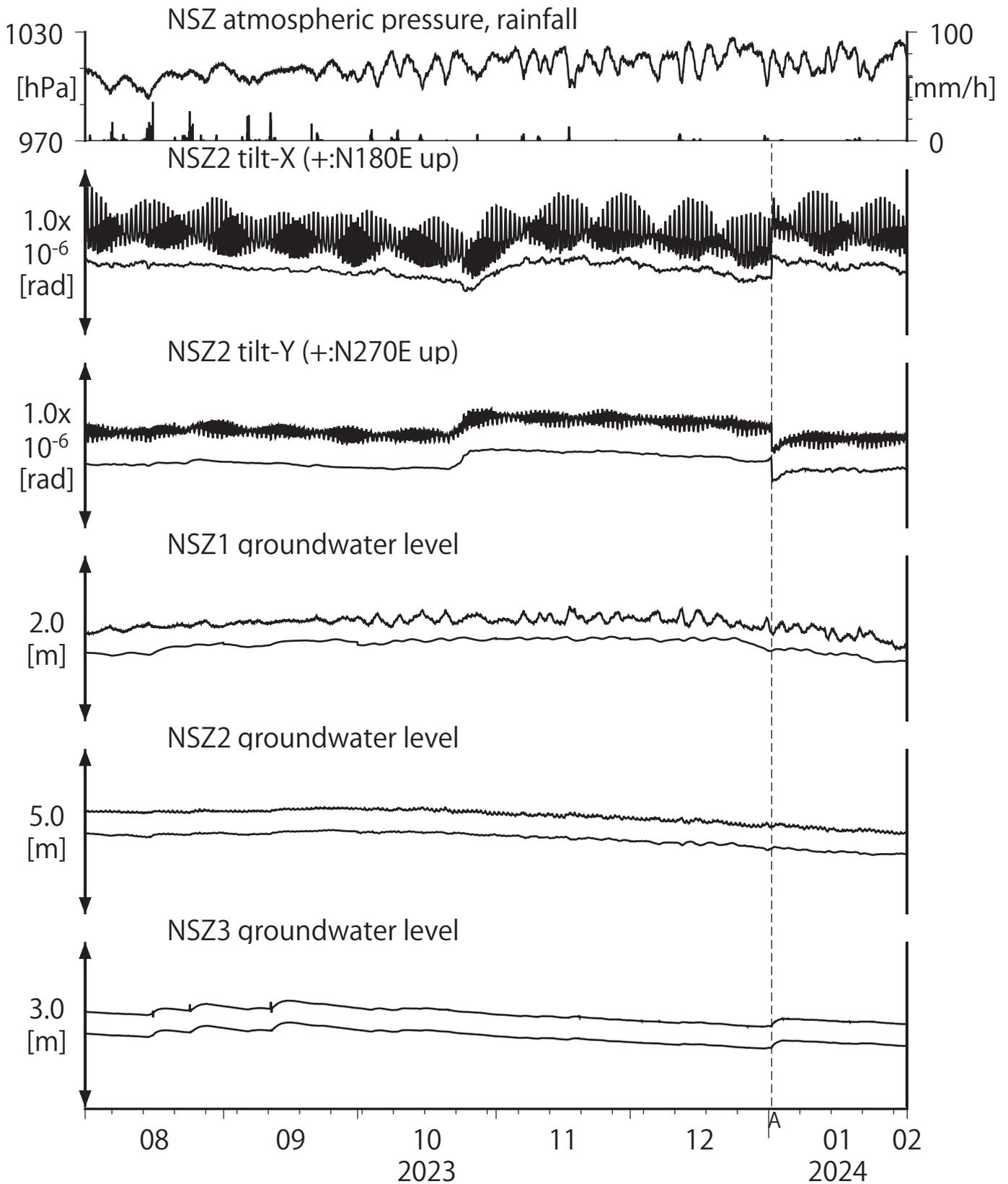
Strainmeter depth = 582.3-584.3 [GL-m]

A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

上: 1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第5図 Tilt and groundwater level at NSZ (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



Tiltmeter depth = 194.7-195.3 [GL-m]

A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

NSZ1 : Screen depth = 398.3-409.2 [GL-m]

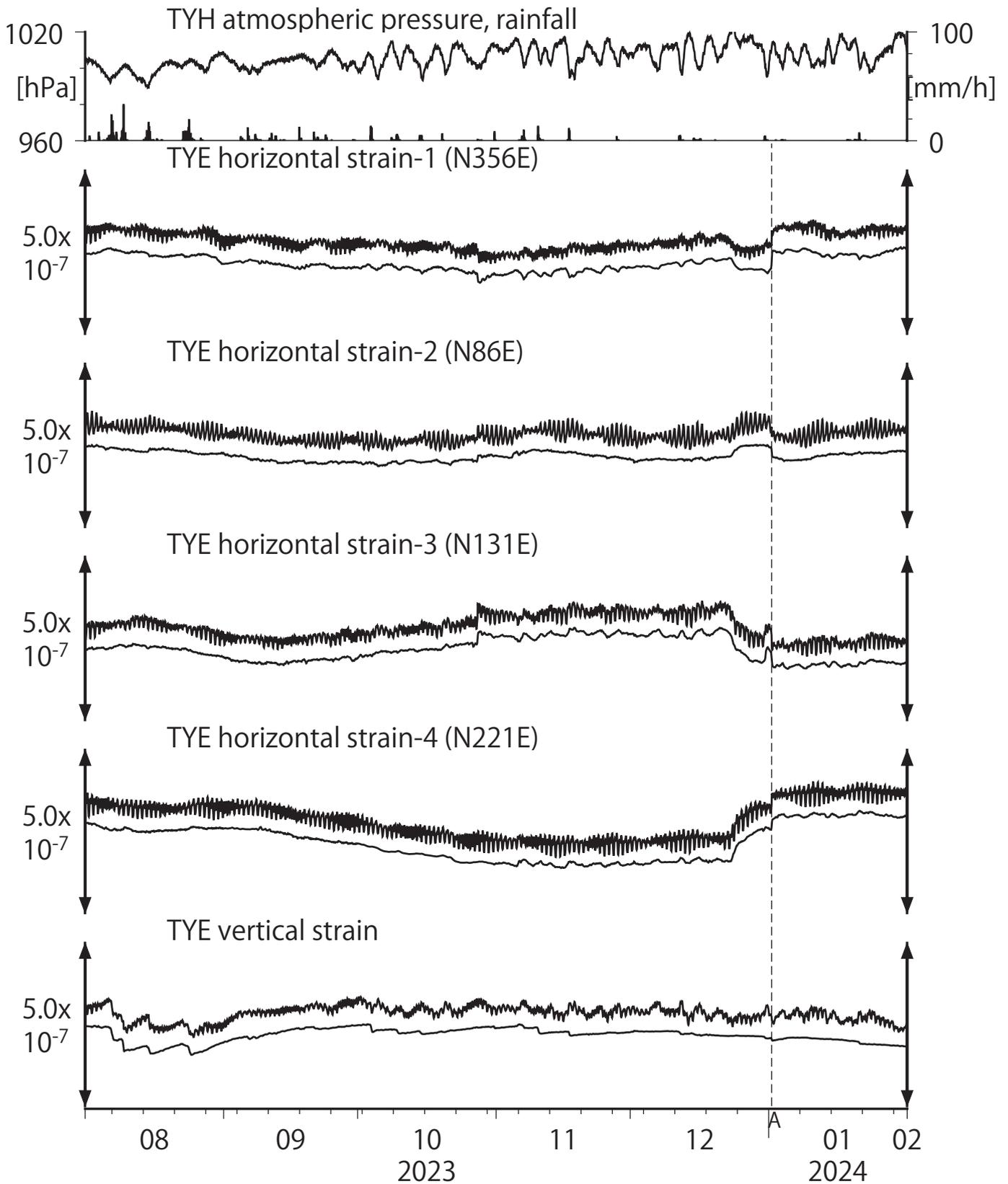
NSZ2 : Screen depth = 149.3-160.2 [GL-m]

NSZ3 : Screen depth = 25.6-31.1 [GL-m]

上: tiltは1次トレンド除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答成分除去、tiltは1次トレンドも除去

第6図 Crustal strain at TYE (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



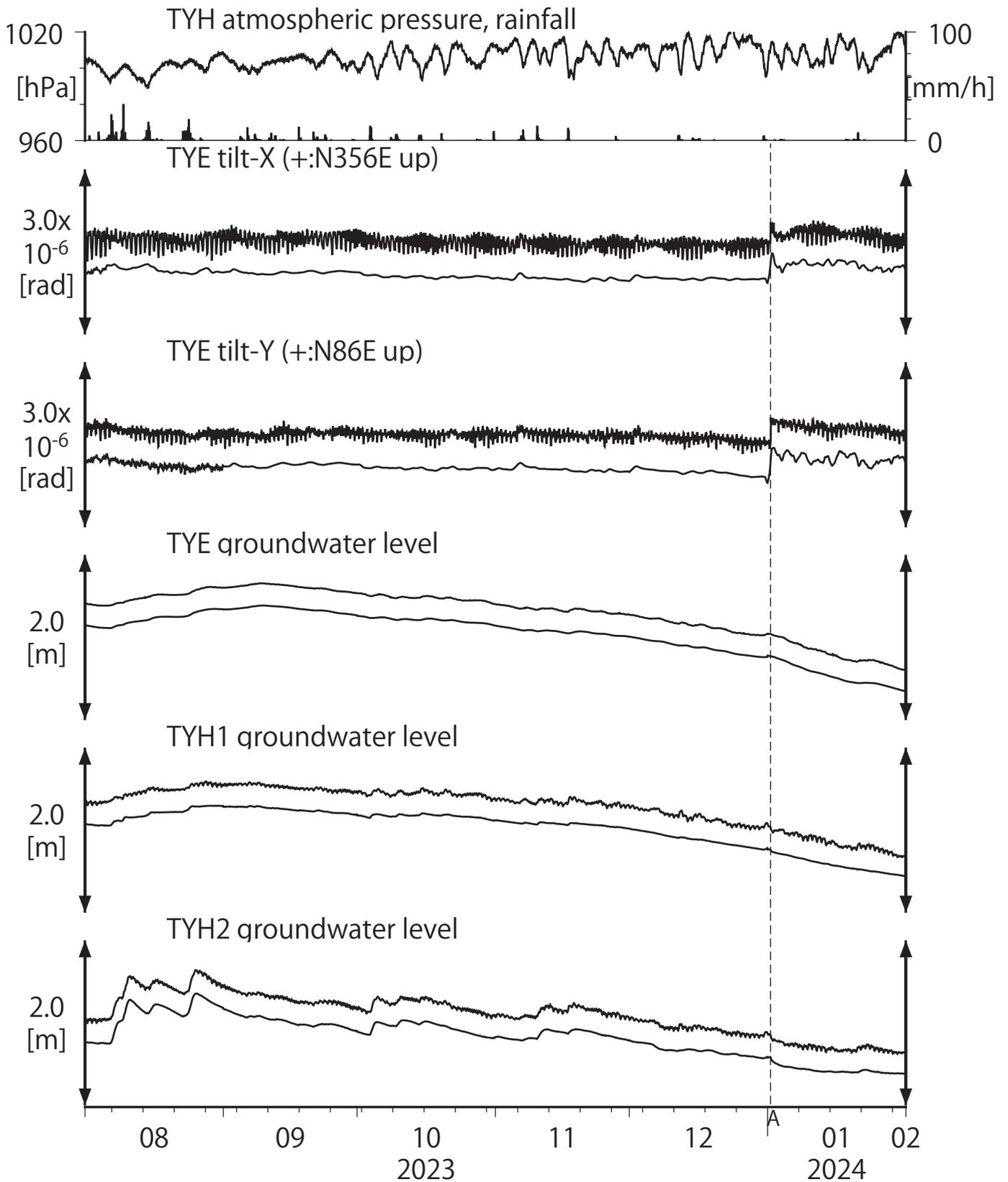
Strainmeter depth = 266.5-267.9 [GL-m]

A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

上: 1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第7図 Tilt and groundwater level at TYE and TYH (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



Tiltmeter depth = 265.6-266.5 [GL-m]

A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

TYE : Screen depth = 185.9-207.8 [GL-m]

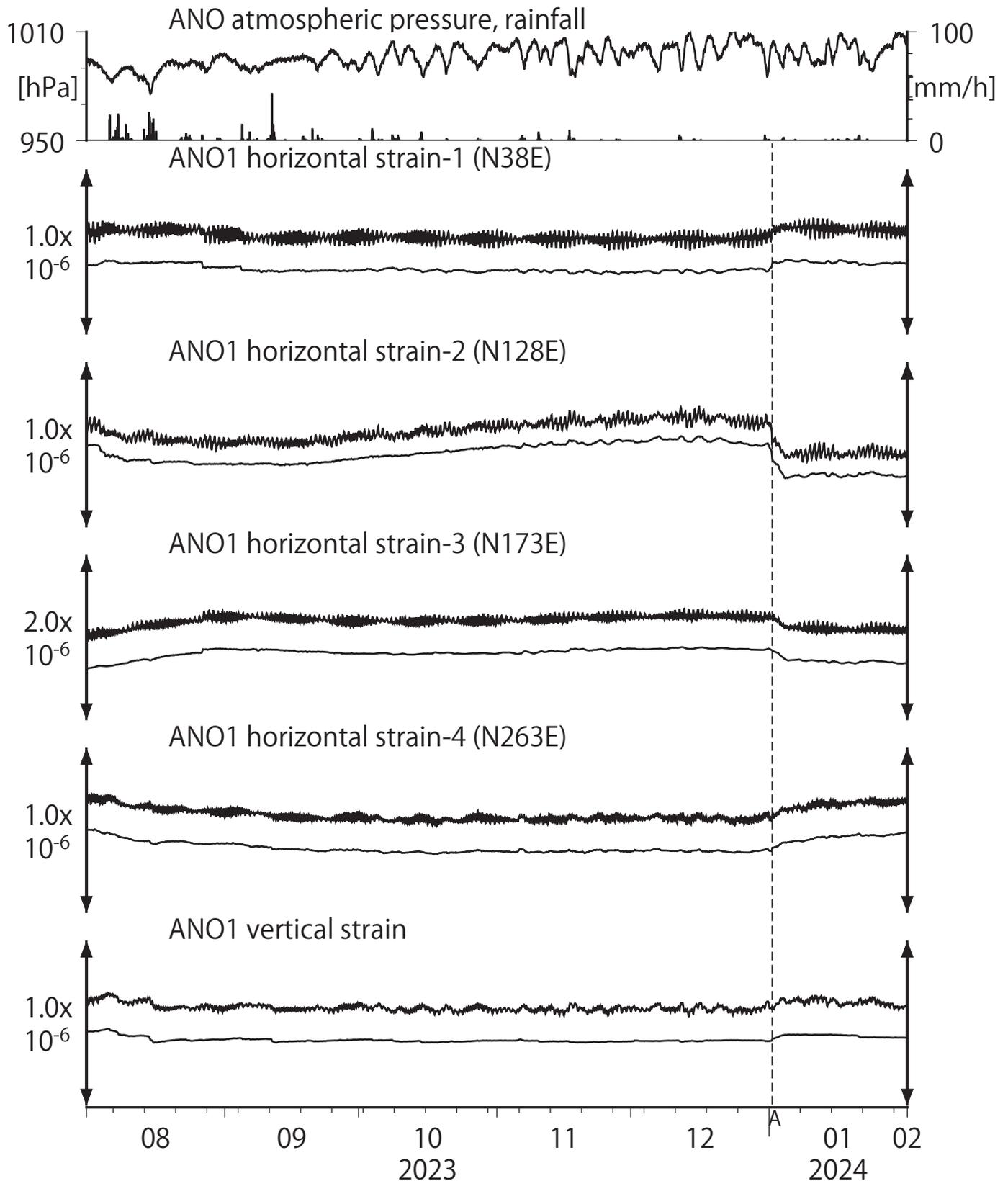
TYH1 : Screen depth = 178.6-200.4 [GL-m]

TYH2 : Screen depth = 133.7-150.0 [GL-m]

上: tiltは1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去、tiltは1次トレンドも除去

第8図 Crustal strains at ANO (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



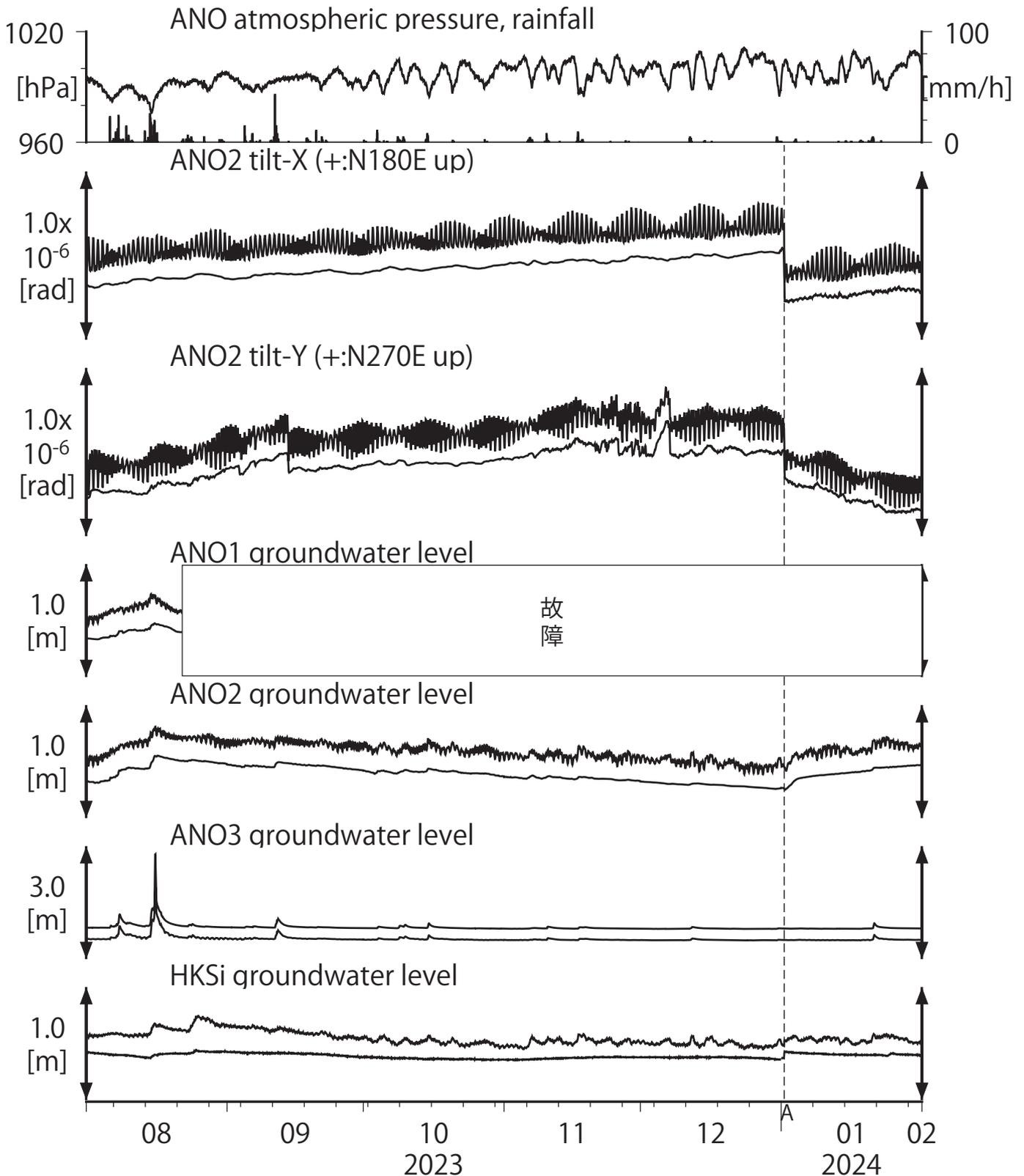
Strainmeter depth = 588.9-590.3 [GL-m]

A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

上: 1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第9図 Tilt and groundwater level at ANO and HKS (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



Tiltmeter depth = 236.6-237.3 [GL-m]

A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

ANO1 : Screen depth = 502.9-513.8 [GL-m]

ANO2 : Screen depth = 197.5-208.5 [GL-m]

ANO3 : Screen depth = 12.0-22.9 [GL-m]

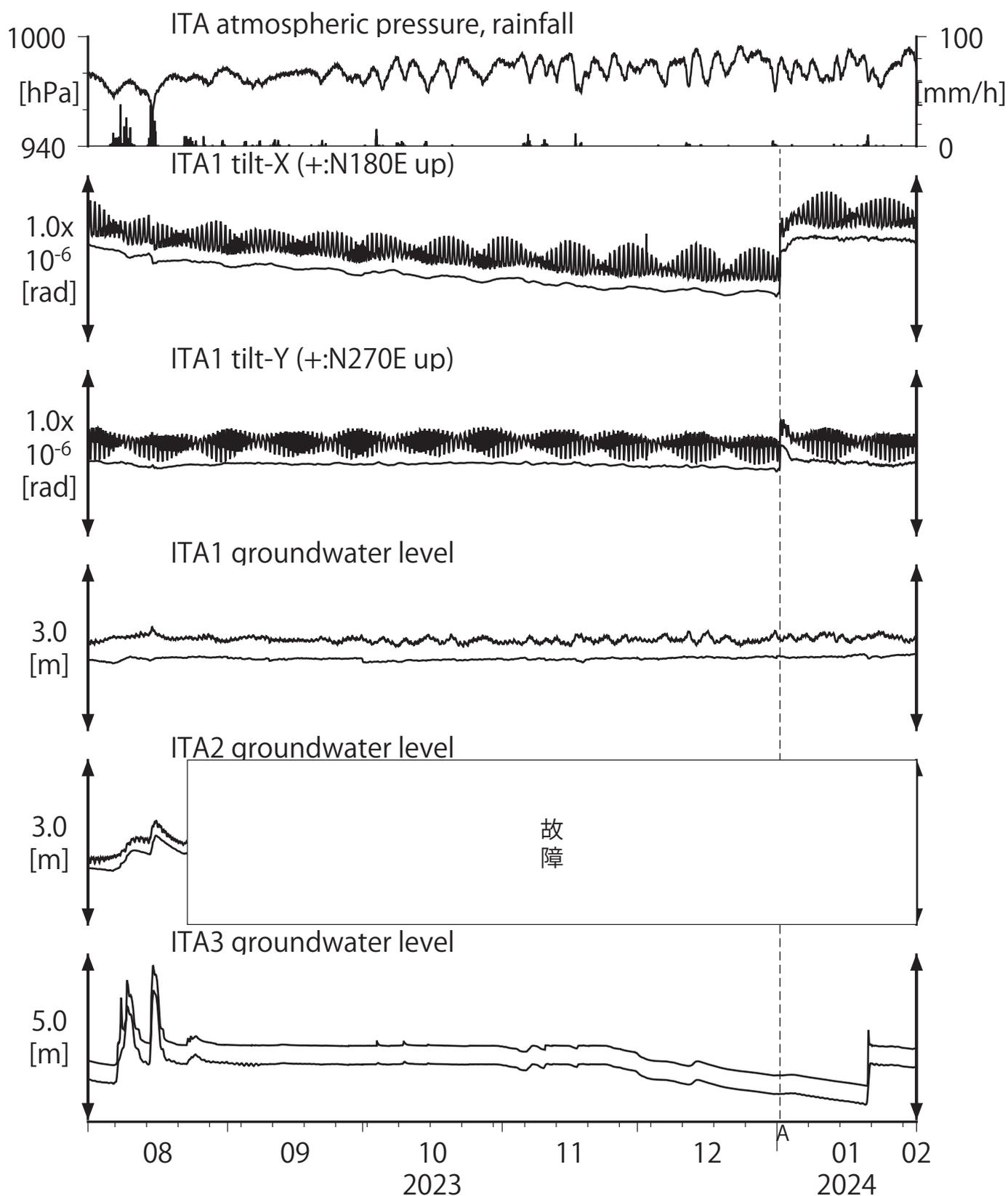
HKS: Screen depth = 429.0-439.1 [GL-m]

上: tiltは1次トレンド除去

下: ANO では、BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分除去、tiltは1次トレンドも除去

HKS:では、MR-ARにより潮汐・気圧・降雨応答を除去

第10図 Tilt and groundwater level at ITA (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



Tiltmeter depth = 596.7-597.3 [GL-m]

A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

ITA1 : Screen depth = 547.6-558.5 [GL-m]

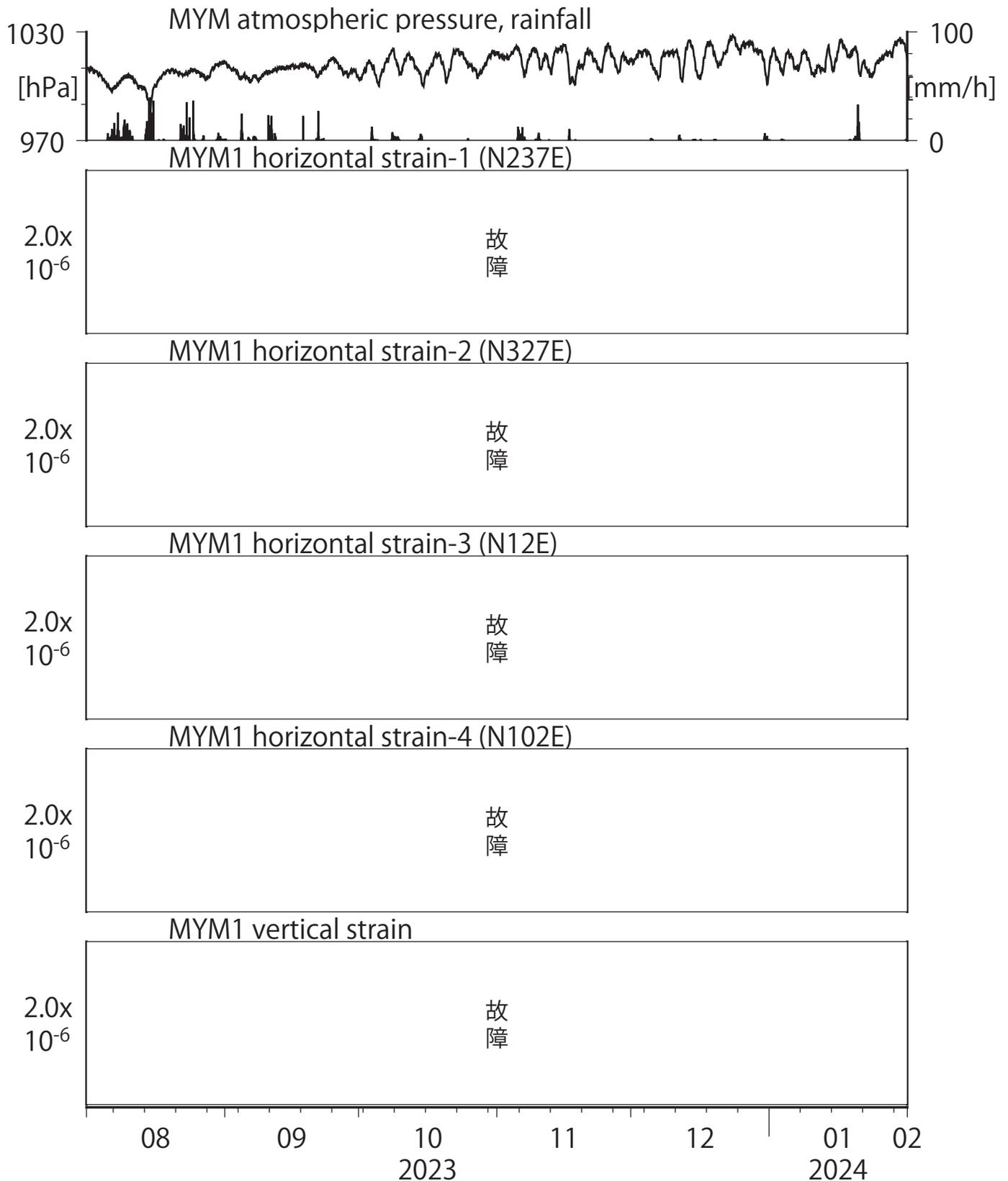
ITA2 : Screen depth = 145.5-156.4 [GL-m]

ITA3 : Screen depth = 10.8-16.3 [GL-m]

上: tiltは1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去

第11図 Crustal strains at MYM (時間値)
(2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))

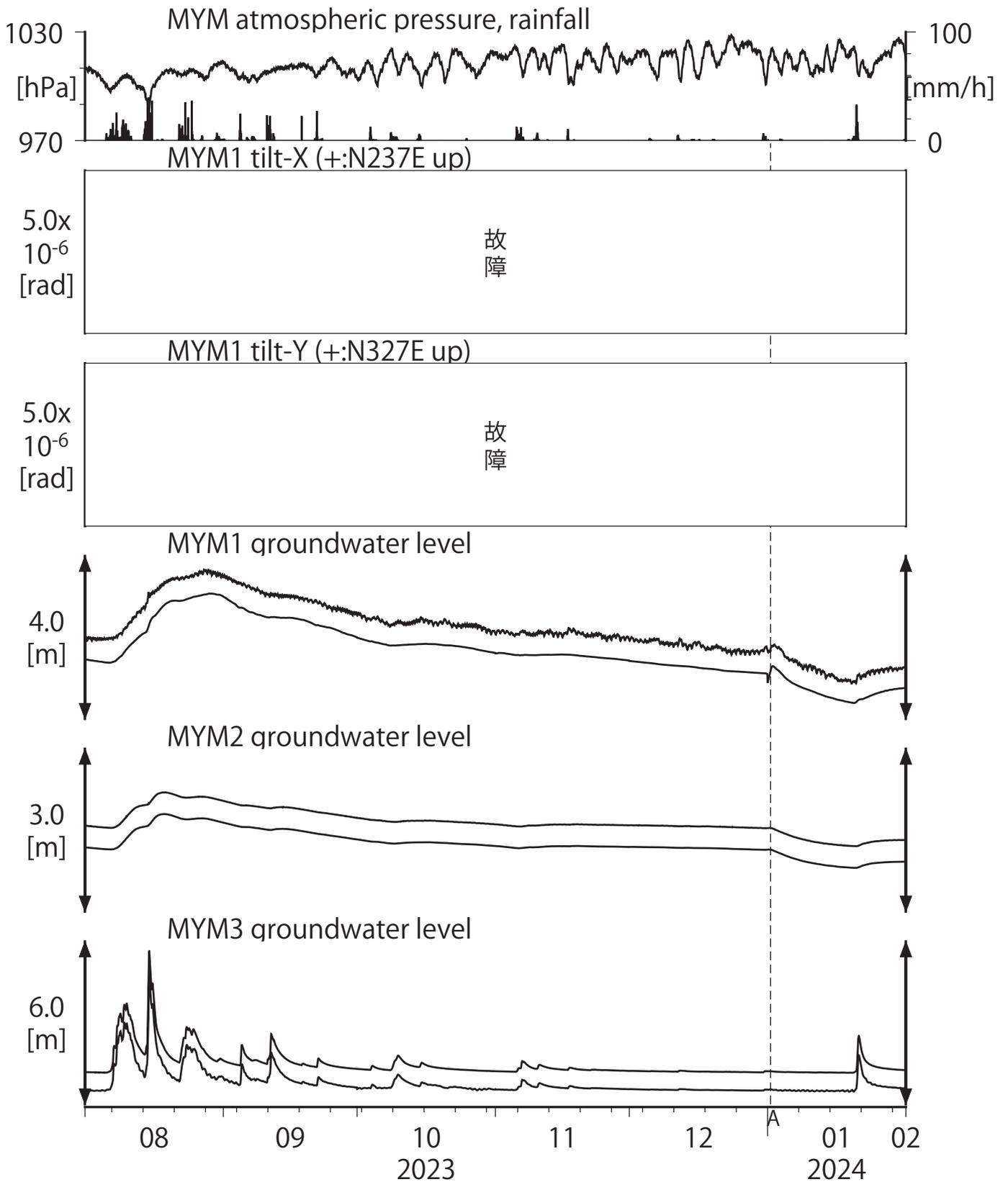


Strainmeter depth = 590.0-591.4 [GL-m]

上: 1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第12図 Tilt and groundwater level at MYM (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



Tiltmeter depth = 589.2-590.0 [GL-m]

A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

MYM1 : Screen depth = 418.9-429.8 [GL-m]

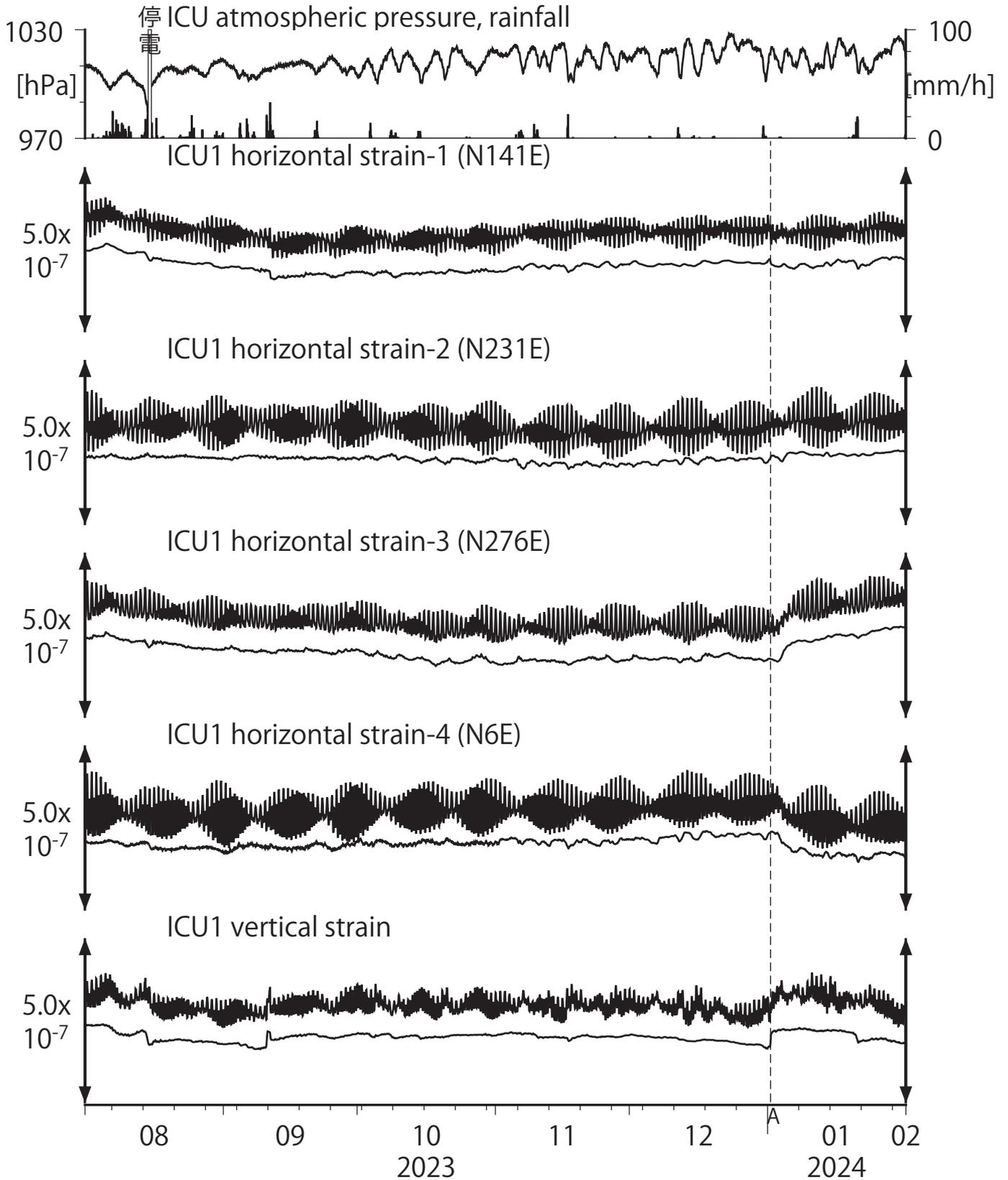
MYM2 : Screen depth = 140.3-151.1 [GL-m]

MYM3 : Screen depth = 19.9-25.3 [GL-m]

上: tiltは1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去

第13図 Crustal strains at ICU (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



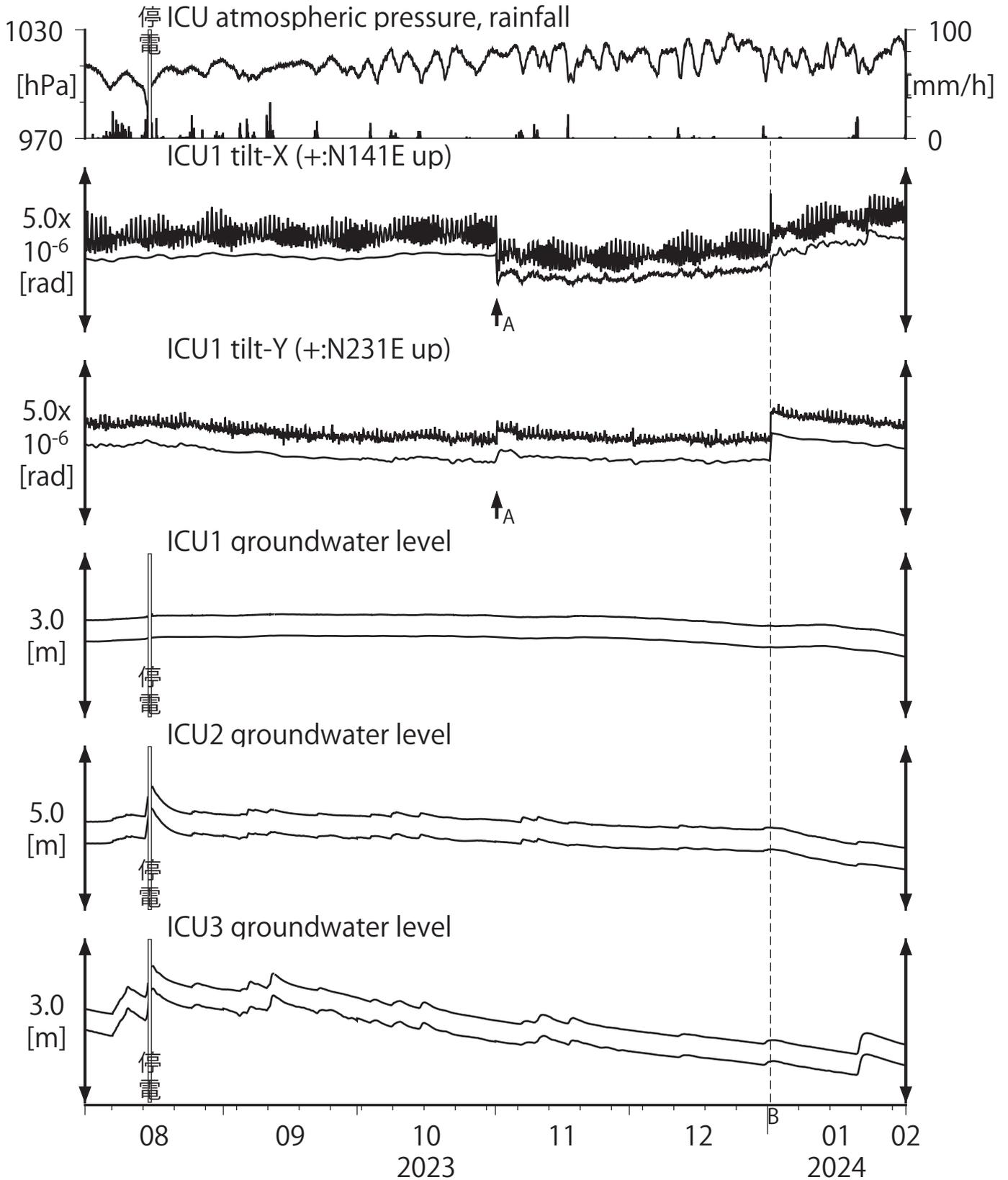
Strainmeter depth = 588.5-589.9 [GL-m]

A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

上: 1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第14図 Tilt and groundwater level at ICU (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



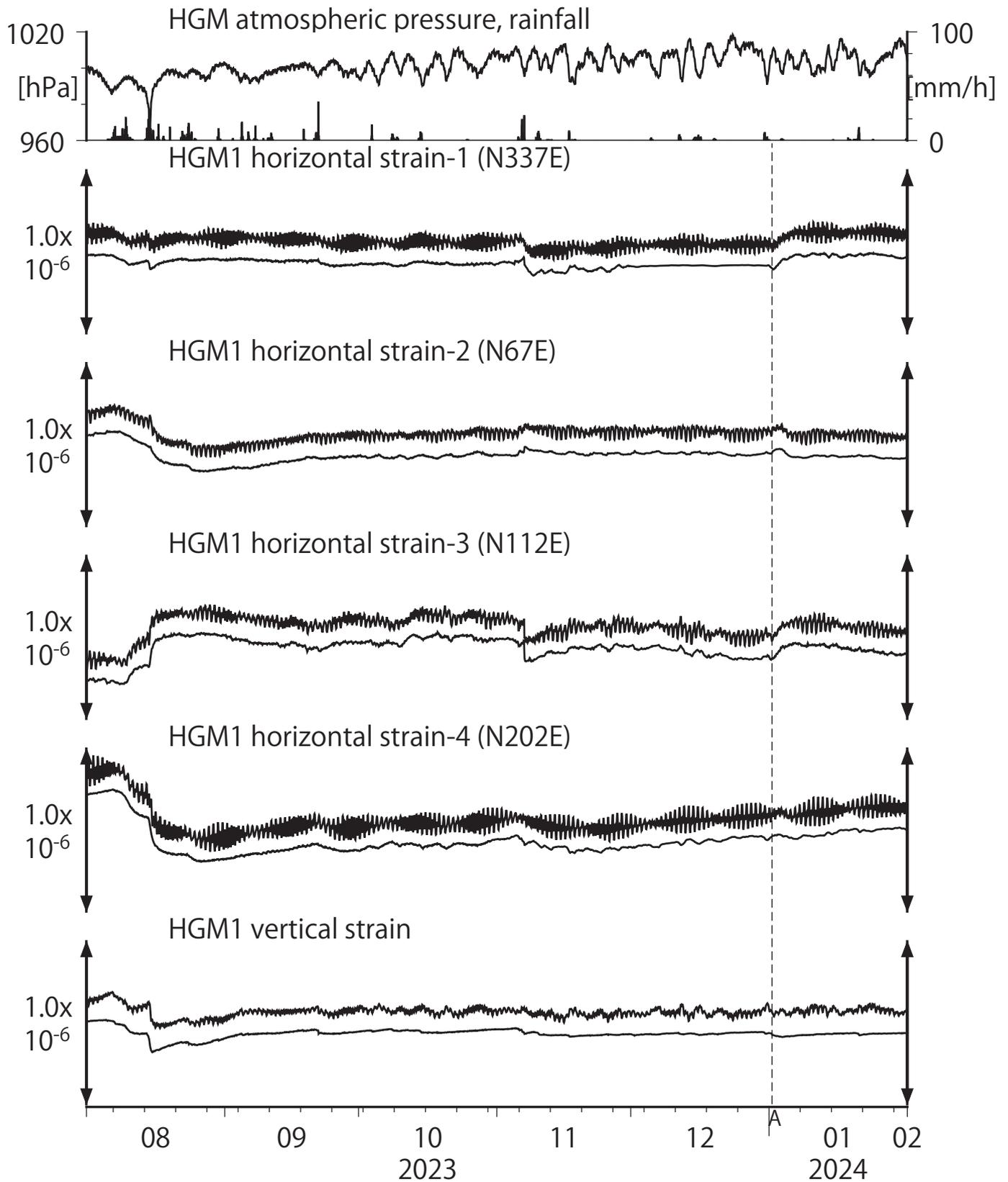
Tiltmeter depth = 587.7-588.5 [GL-m]
 ICU1 : Screen depth = 522.5-533.4 [GL-m]
 ICU2 : Screen depth = 95.7-106.6 [GL-m]
 ICU3 : Screen depth = 13.4-18.8 [GL-m]

A:2023/11/01 紀伊水道の地震 M4.9
 B:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

上: tiltは1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去

第15図 Crustal strains at HGM (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



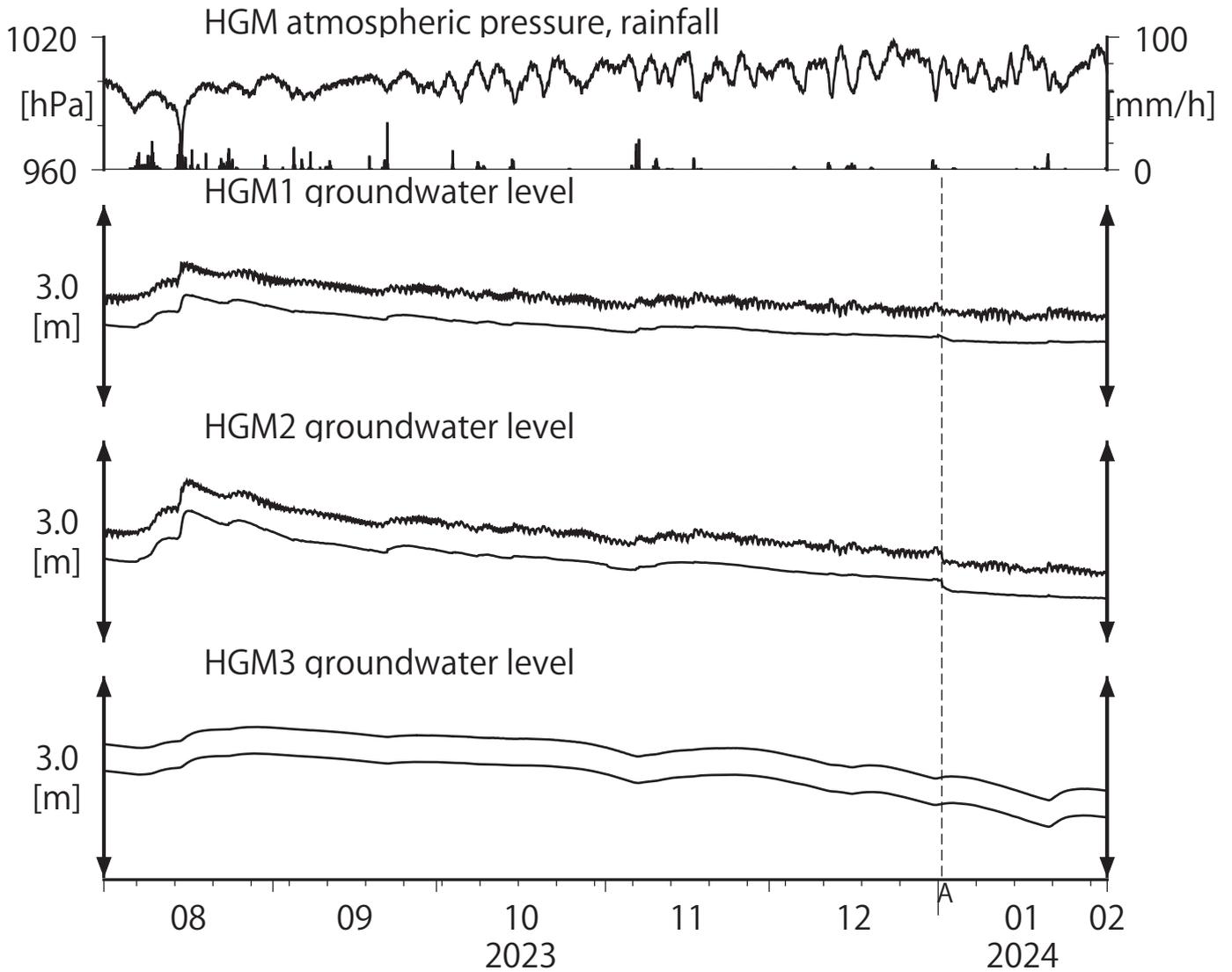
Strainmeter depth = 372.7-374.1 [GL-m]

A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

上: 1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第16図 Tilt and groundwater level at HGM (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



HGM1 : Screen depth = 320.4-331.3 [GL-m]

A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

HGM2 : Screen depth = 180.9-191.8 [GL-m]

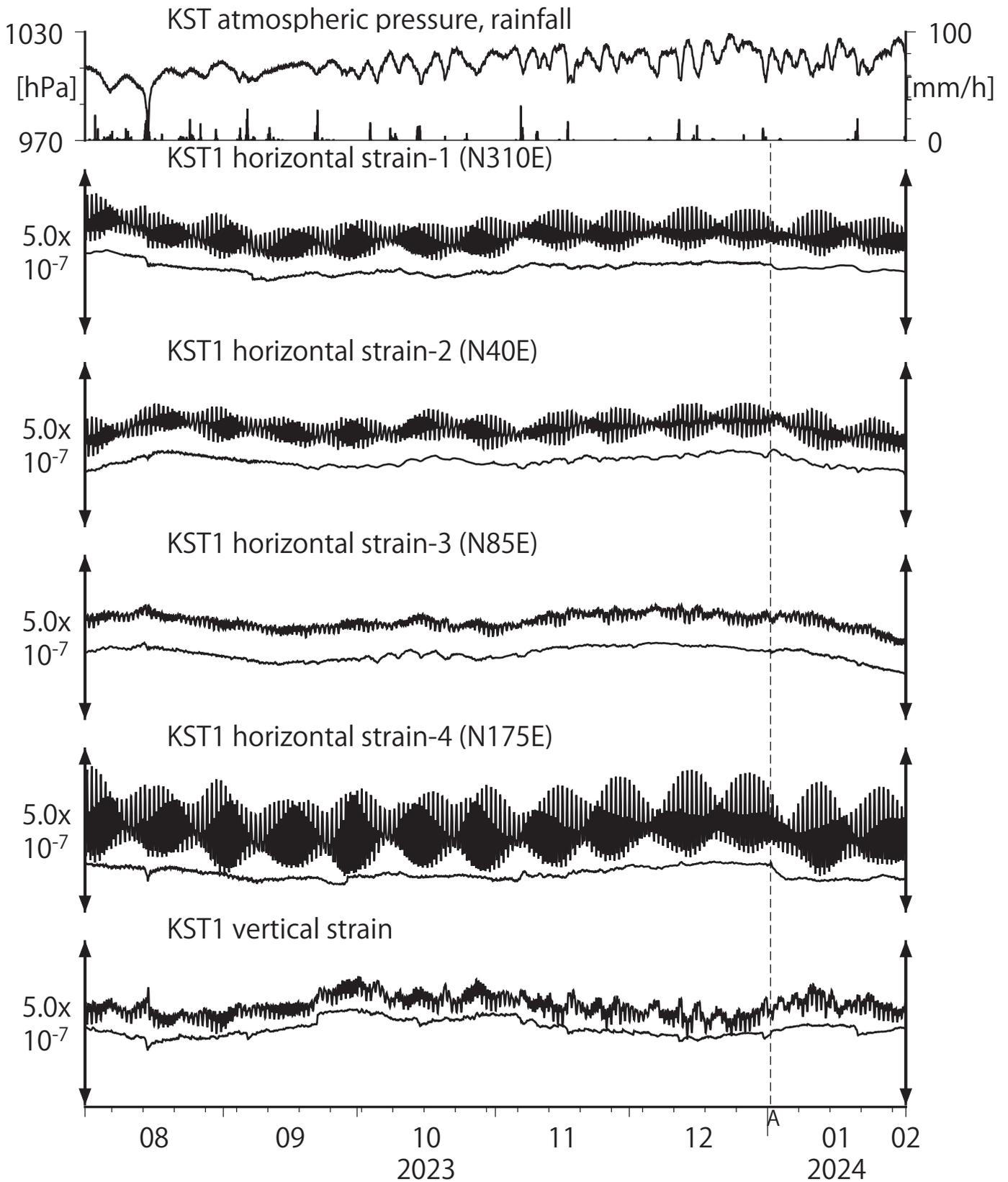
HGM3 : Screen depth = 24.3-29.8 [GL-m]

上: tiltは1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去

tilt-Xは振り切れにより欠測

第17図 Crustal strains at KST (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



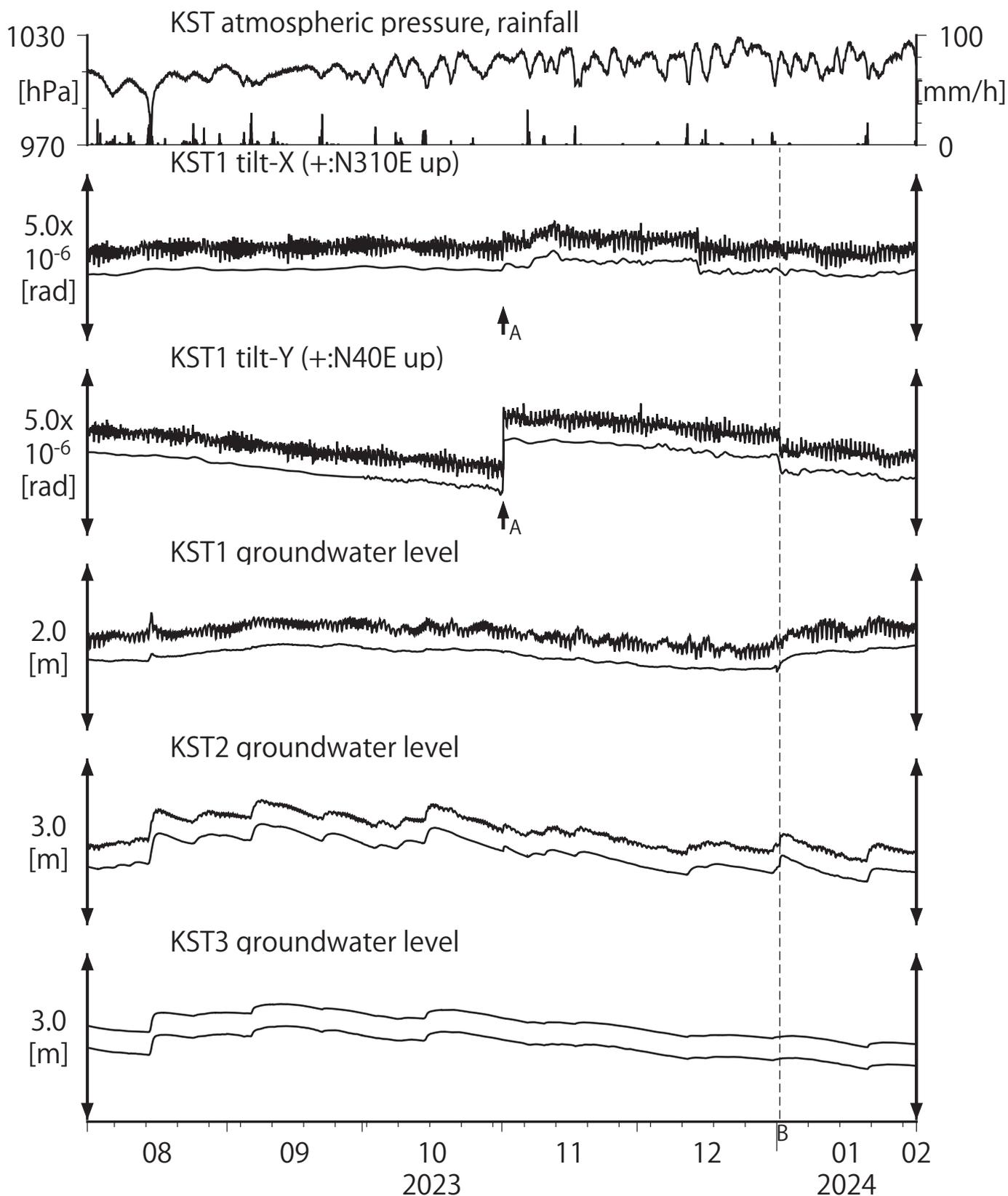
Strainmeter depth = 589.8-591.2 [GL-m]

A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

上: 1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第18図 Tilt and groundwater level at KST (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



Tiltmeter depth = 589.0-589.8 [GL-m]

KST1 : Screen depth = 509.2-520.2 [GL-m]

KST2 : Screen depth = 132.9-143.9 [GL-m]

KST3 : Screen depth = 20.4-30.6 [GL-m]

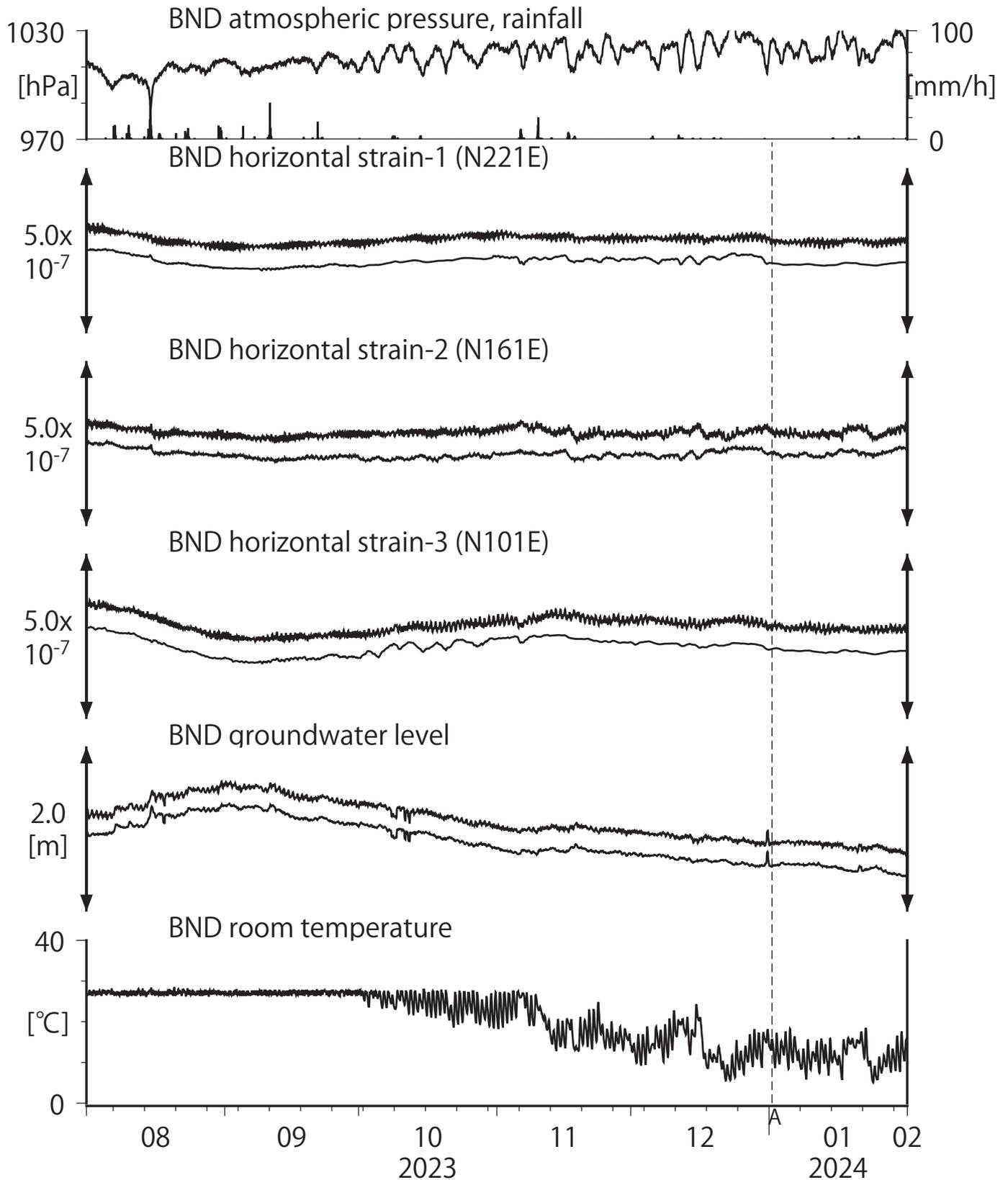
上: tiltは1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去

A:2023/11/01 紀伊水道の地震 M4.9

B:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

第19図 Crustal strains and groundwater level at BND (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



Strainmeter depth = 496.5-496.7 [GL-m]

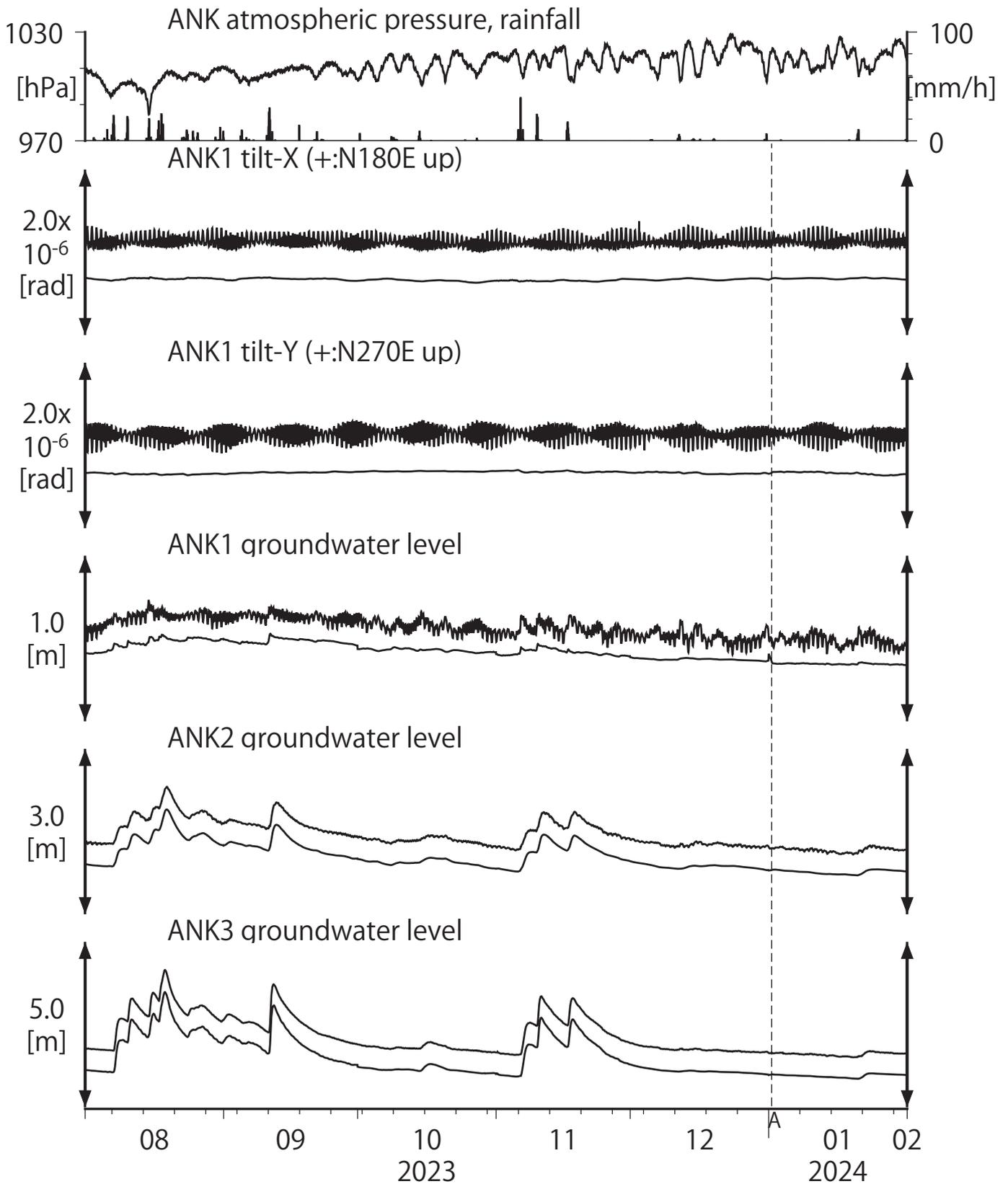
A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

Screen depth = 419.9-430.8 [GL-m]

上: strainは1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、strainは1次トレンドも除去

第20図 Tilt and groundwater level at ANK (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



Tiltmeter depth = 616.7-617.3 [GL-m]

A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

ANK1 : Screen depth = 488.8-516.0 [GL-m]

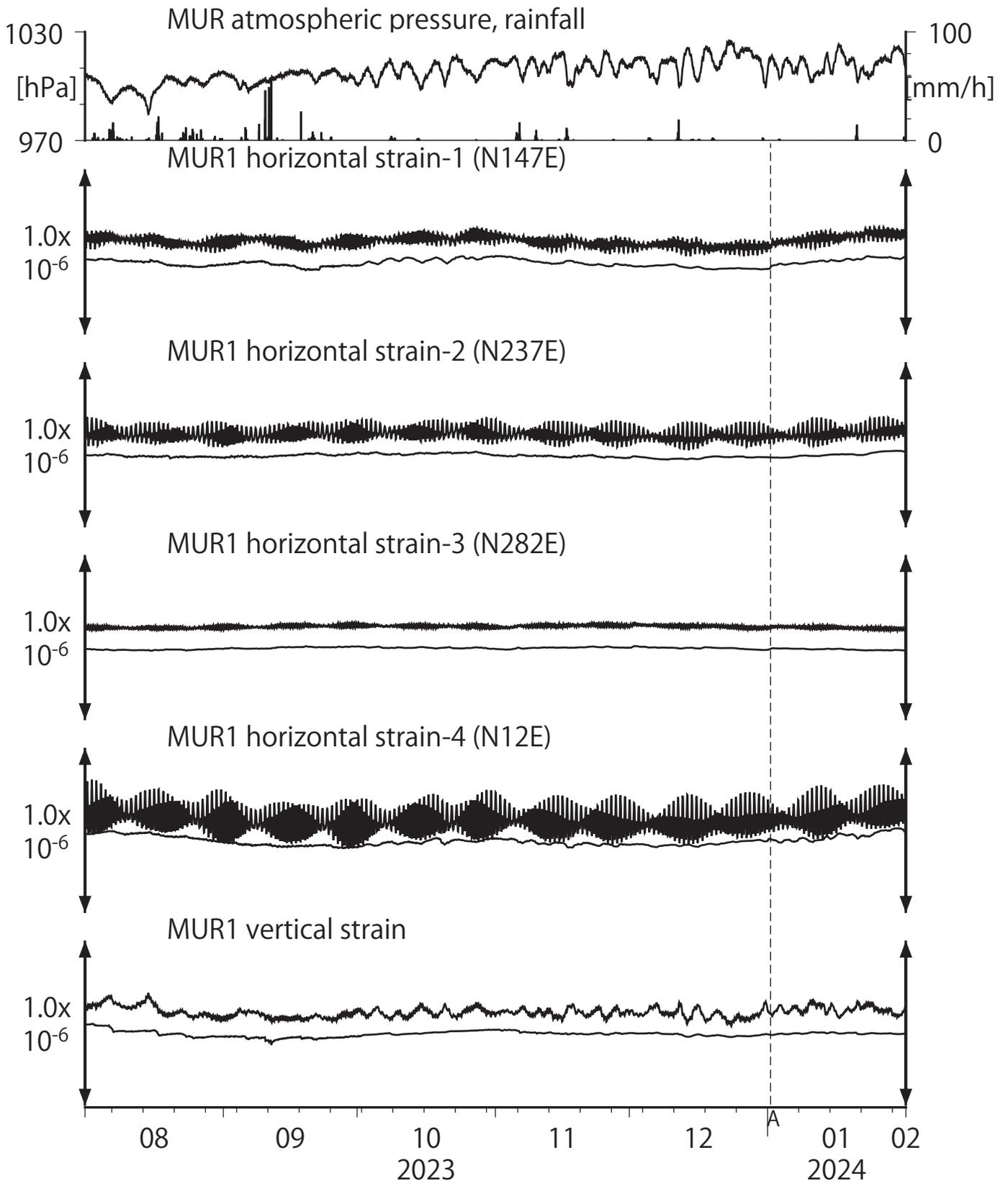
ANK2 : Screen depth = 89.7-100.5 [GL-m]

ANK3 : Screen depth = 16.2-21.6 [GL-m]

上: tiltは1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去

第21図 Crustal strains at MUR (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



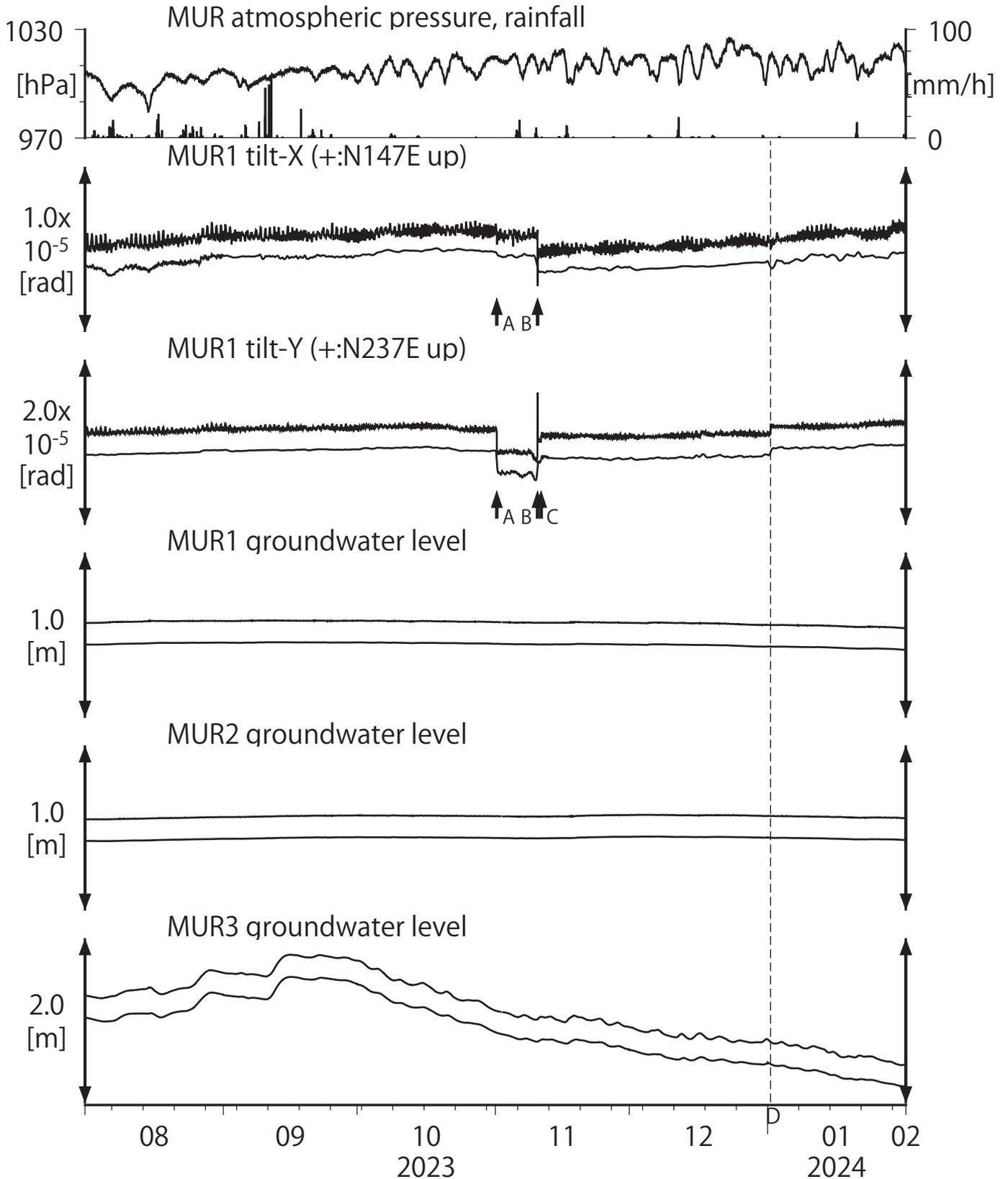
Strainmeter depth = 587.5-588.9 [GL-m]

A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

上: 1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第22図 Tilt and groundwater level at MUR (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))

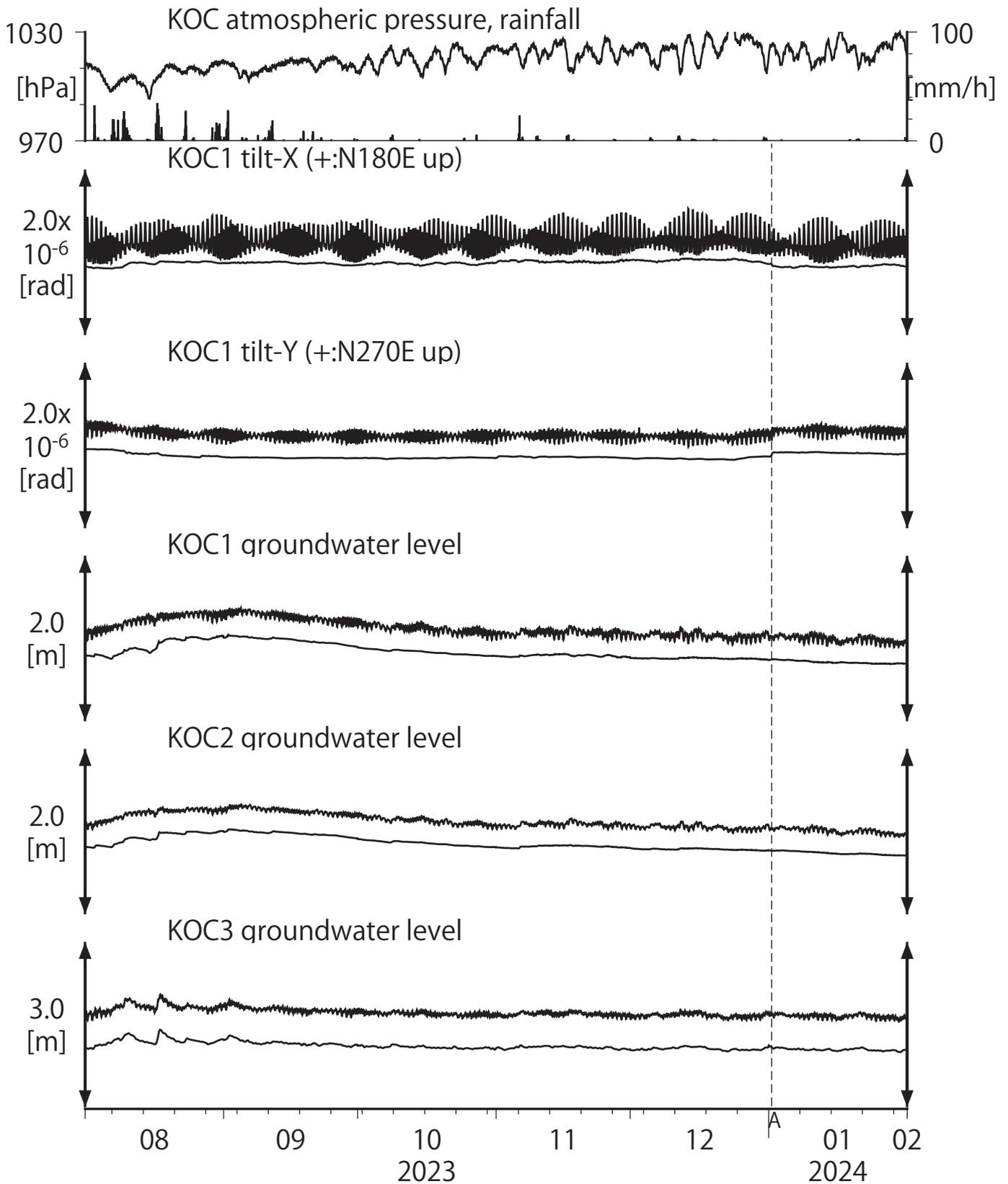


Tiltmeter depth = 586.7-587.5 [GL-m]	A:2023/11/01 紀伊水道の地震 M4.9
MUR1 : Screen depth = 407.5-418.4 [GL-m]	B:2023/11/10 土佐湾の地震 M4.3
MUR2 : Screen depth = 130.1-141.0 [GL-m]	C:2023/11/11 鹿児島湾の地震 M5.0
MUR3 : Screen depth = 19.6-30.5 [GL-m]	D:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

上: tiltは1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去

第23図 Tilt and groundwater level at KOC (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



Tiltmeter depth = 597.1-597.7 [GL-m]

A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

KOC1 : Screen depth = 486.1-507.1 [GL-m]

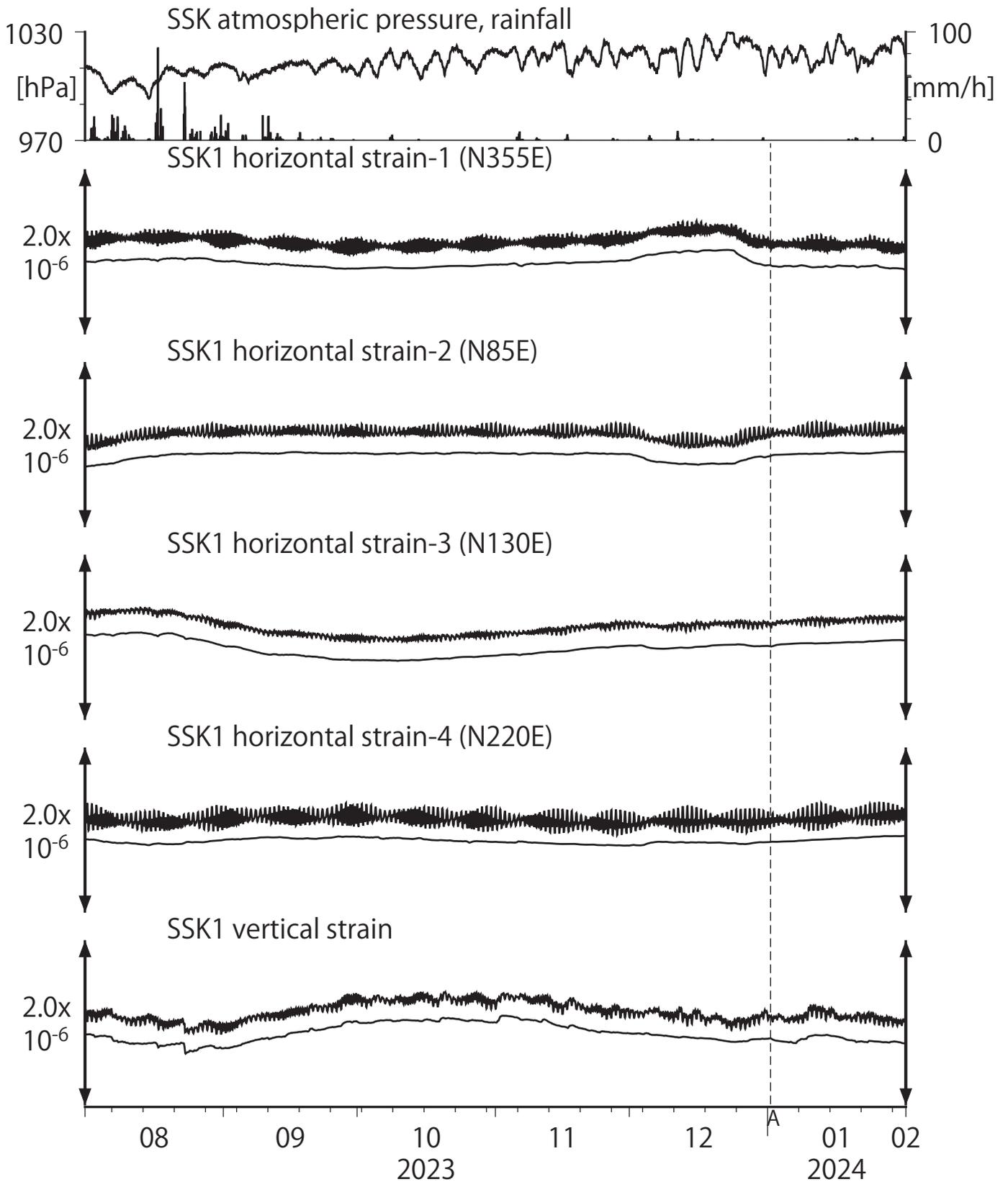
KOC2 : Screen depth = 169.1-173.9 [GL-m]

KOC3 : Screen depth = 20.6-25.4 [GL-m]

上: tiltは1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去

第24図 Crustal strains at SSK (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



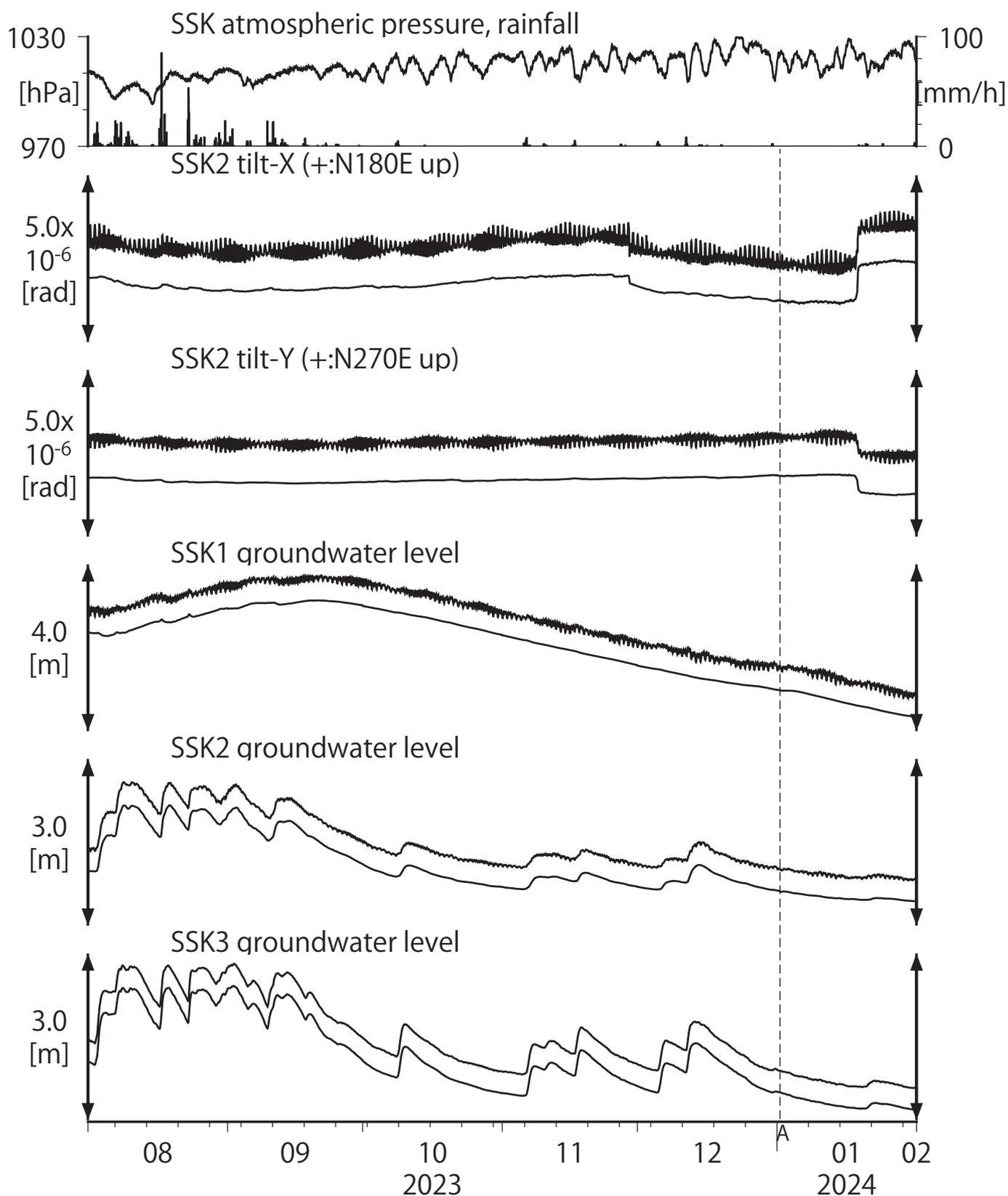
Strainmeter depth = 576.7-578.1 [GL-m]

A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

上: 1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第25図 Tilt and groundwater level at SSK (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



Tiltmeter depth = 201.6-202.2 [GL-m]

A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

SSK1 : Screen depth = 355.5-371.9 [GL-m]

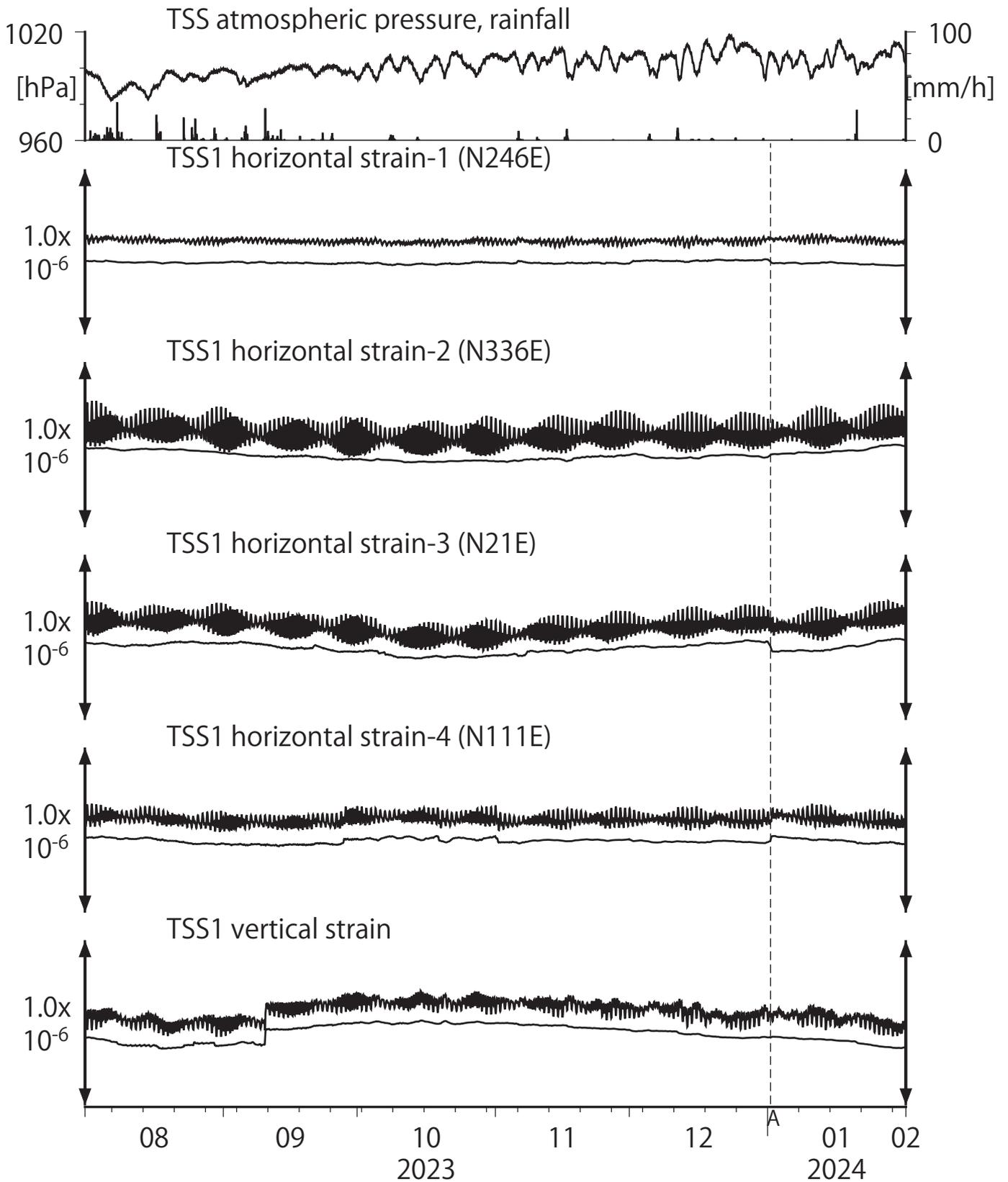
SSK2 : Screen depth = 90.9-101.9 [GL-m]

SSK3 : Screen depth = 16.0-21.5 [GL-m]

上: tiltは1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去

第26図 Crustal strains at TSS (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



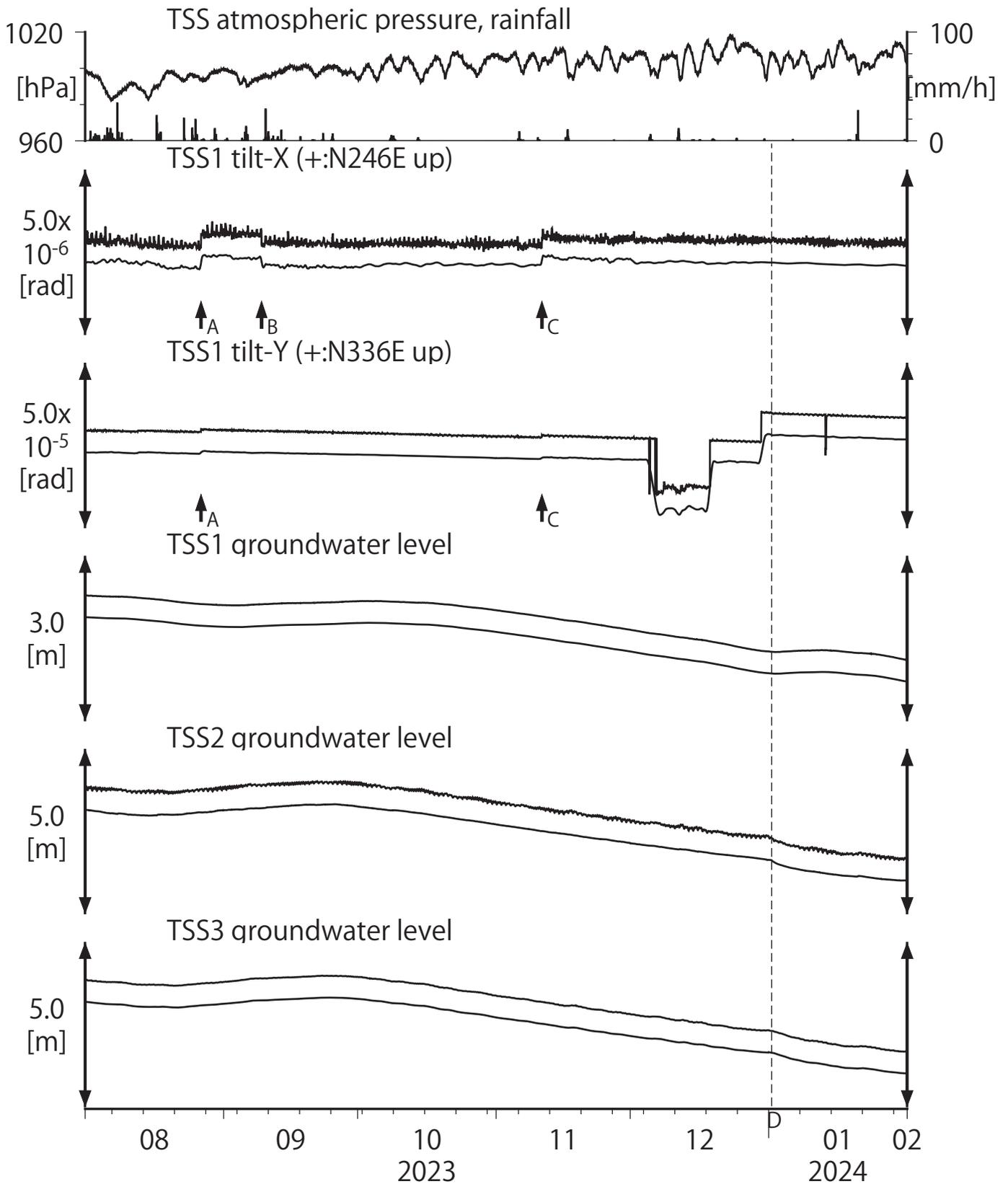
Strainmeter depth = 587.0-588.4 [GL-m]

A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

上: 1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第27図 Tilt and groundwater level at TSS (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



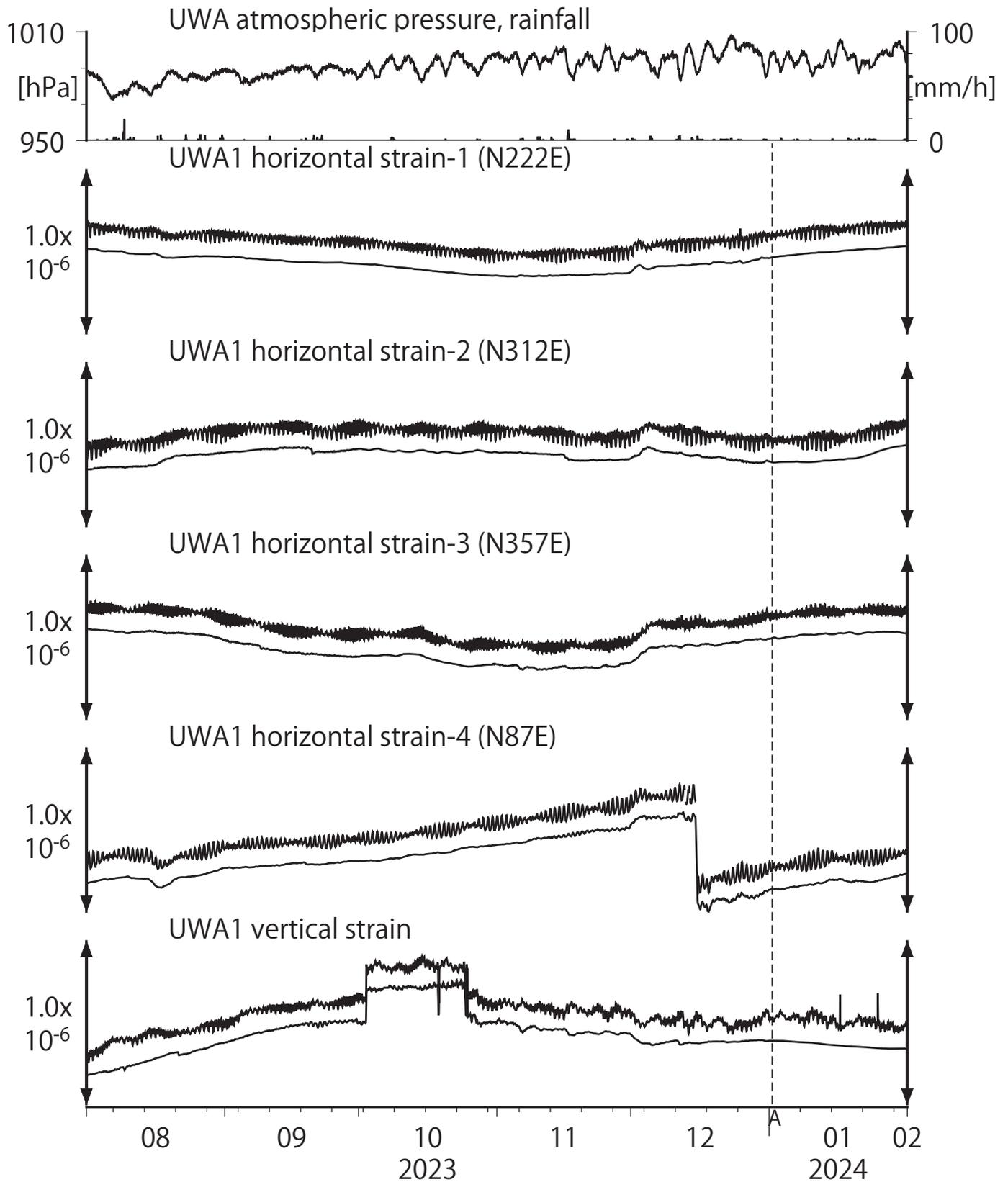
Tiltmeter depth = 586.2-587.0 [GL-m]
 TSS1 : Screen depth = 467.7-473.2 [GL-m]
 TSS2 : Screen depth = 238.9-244.3 [GL-m]
 TSS3 : Screen depth = 129.1-134.6 [GL-m]

A:2023/08/26 周防灘の地震 M4.6
 B:2023/09/09 伊予灘の地震 M4.1
 C:2023/11/11 鹿児島湾の地震 M5.0
 D:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

上: tiltは1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去

第28図 Crustal strains at UWA (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



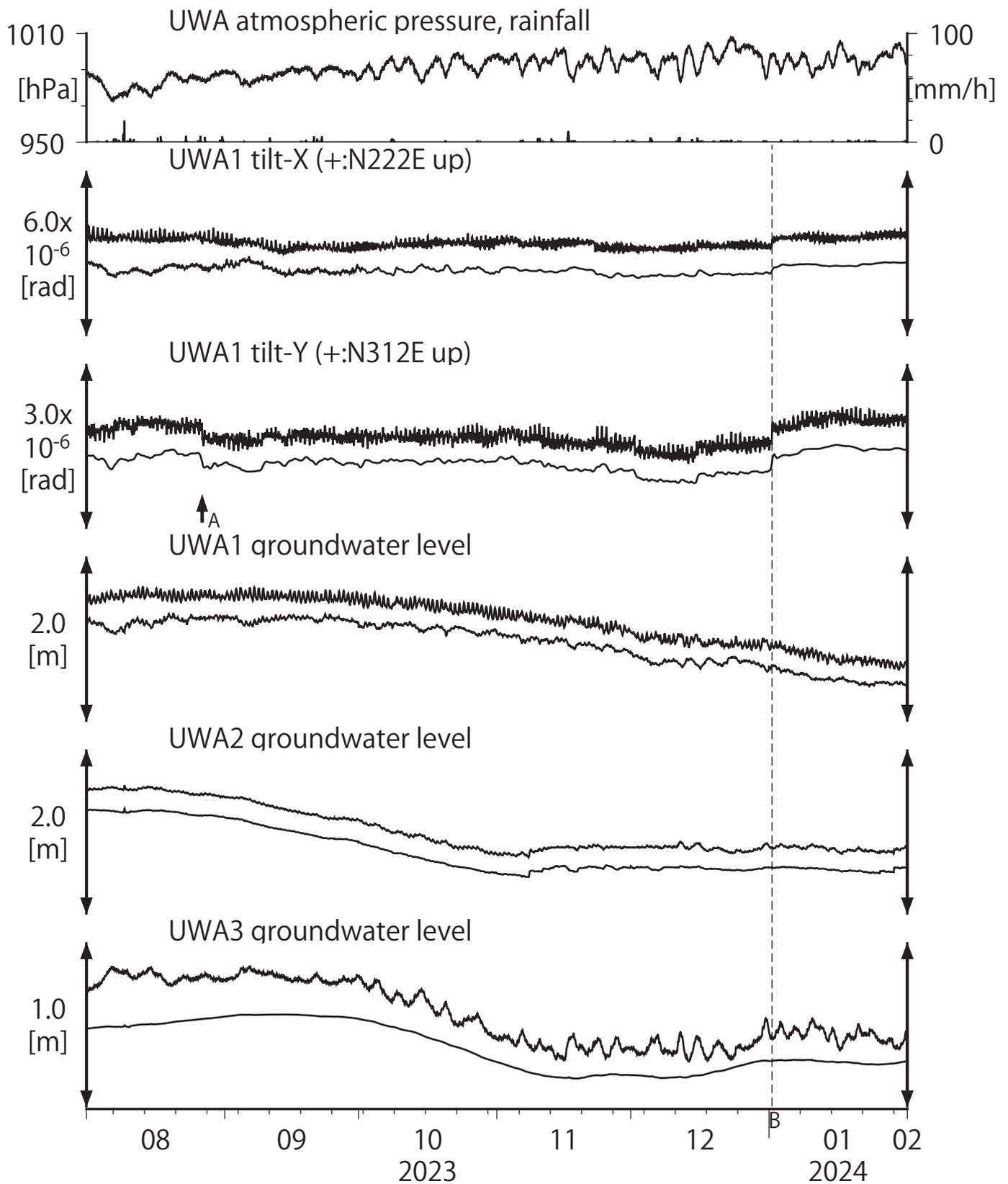
Strainmeter depth = 590.0-591.4 [GL-m]

A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

上: 1次トレンドを除去

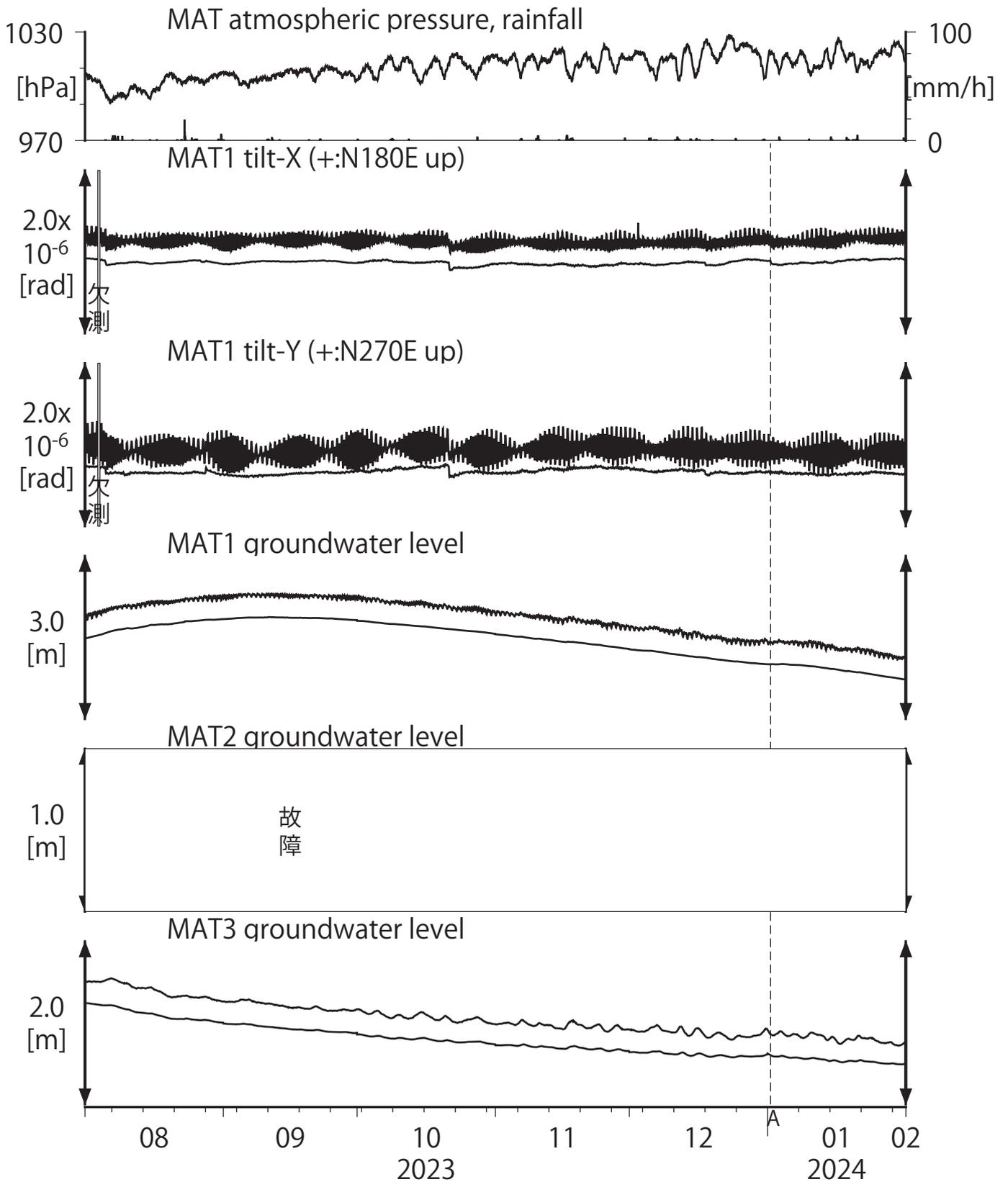
下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第29図 Tilt and groundwater level at UWA (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



Tiltmeter depth = 589.2-590.0 [GL-m] A:2023/08/26 周防灘の地震 M4.6
 UWA1 : Screen depth = 446.4-457.4 [GL-m] B:2024/01/01 能登半島地震 M7.6
 UWA2 : Screen depth = 68.9-79.9 [GL-m]
 UWA3 : Screen depth = 13.6-18.4 [GL-m]
 上: tiltは1次トレンドを除去
 下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去

第30図 Tilt and groundwater level at MAT (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



Tiltmeter depth = 596.7-597.3 [GL-m]

A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

MAT1 : Screen depth = 512.2-528.6 [GL-m]

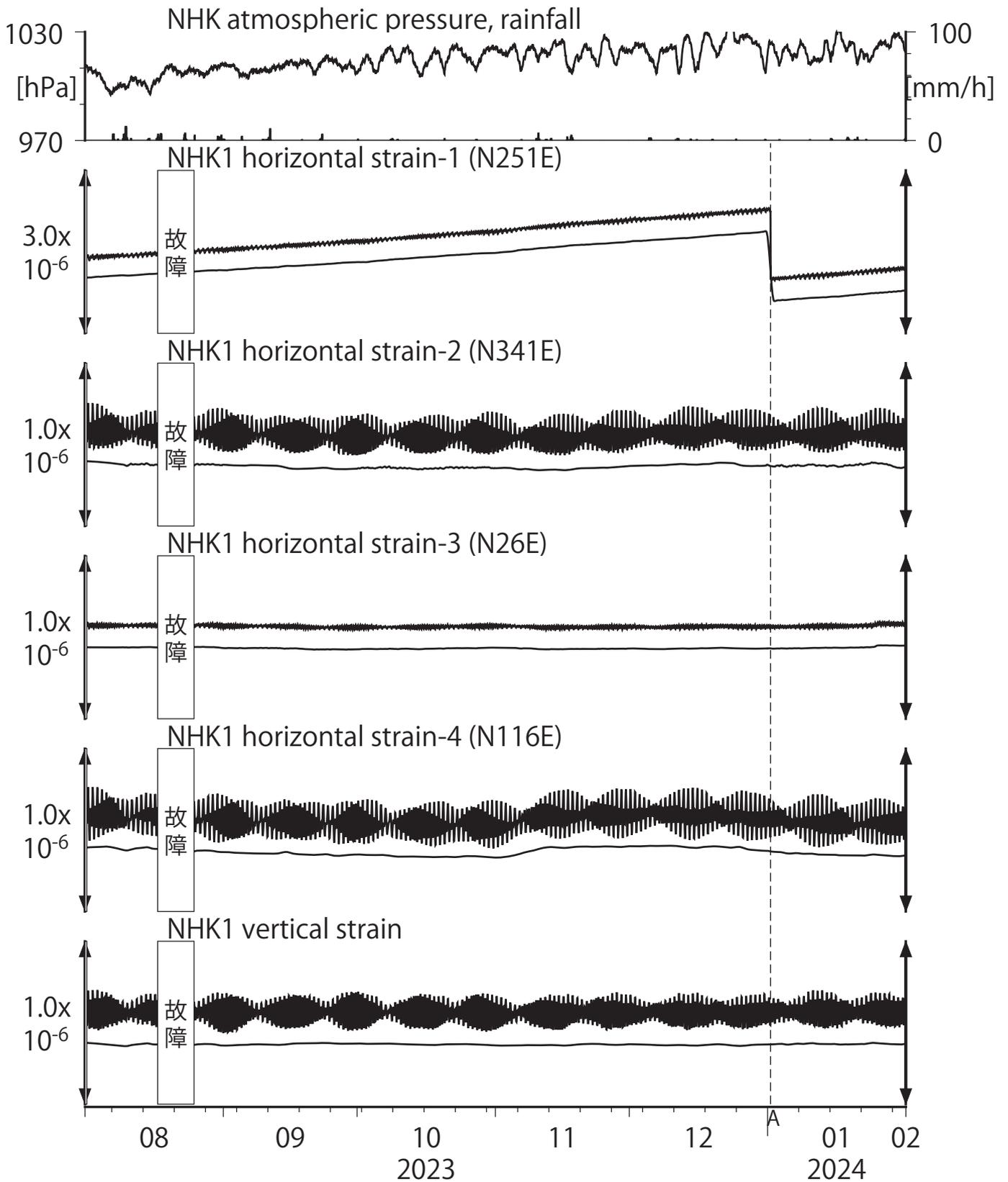
MAT2 : Screen depth = 170.2-181.1 [GL-m]

MAT3 : Screen depth = 17.0-22.5 [GL-m]

上: tiltは1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去

第31図 Crustal strains at NHK (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))



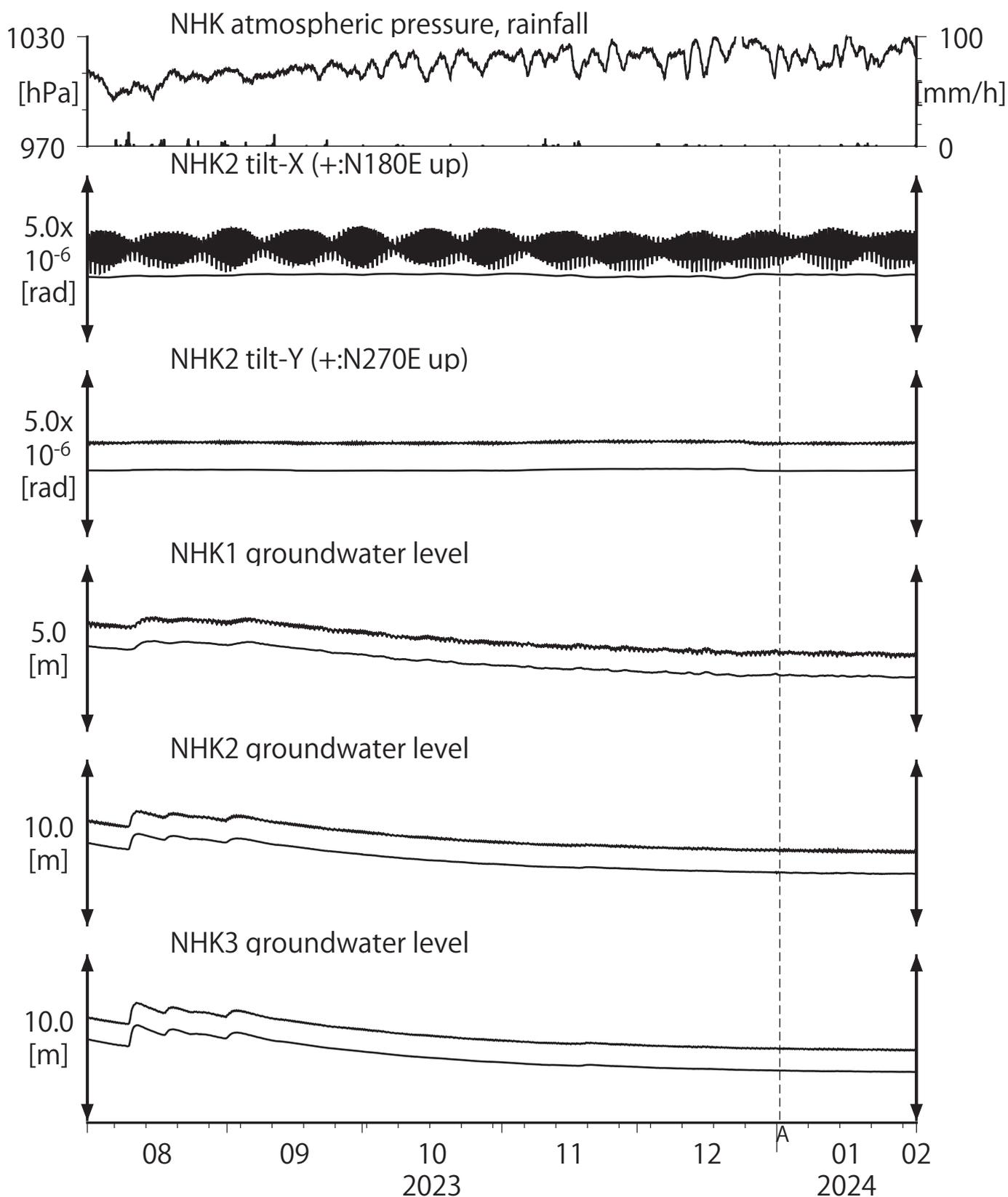
Strainmeter depth = 481.0-483.0 [GL-m]

A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6

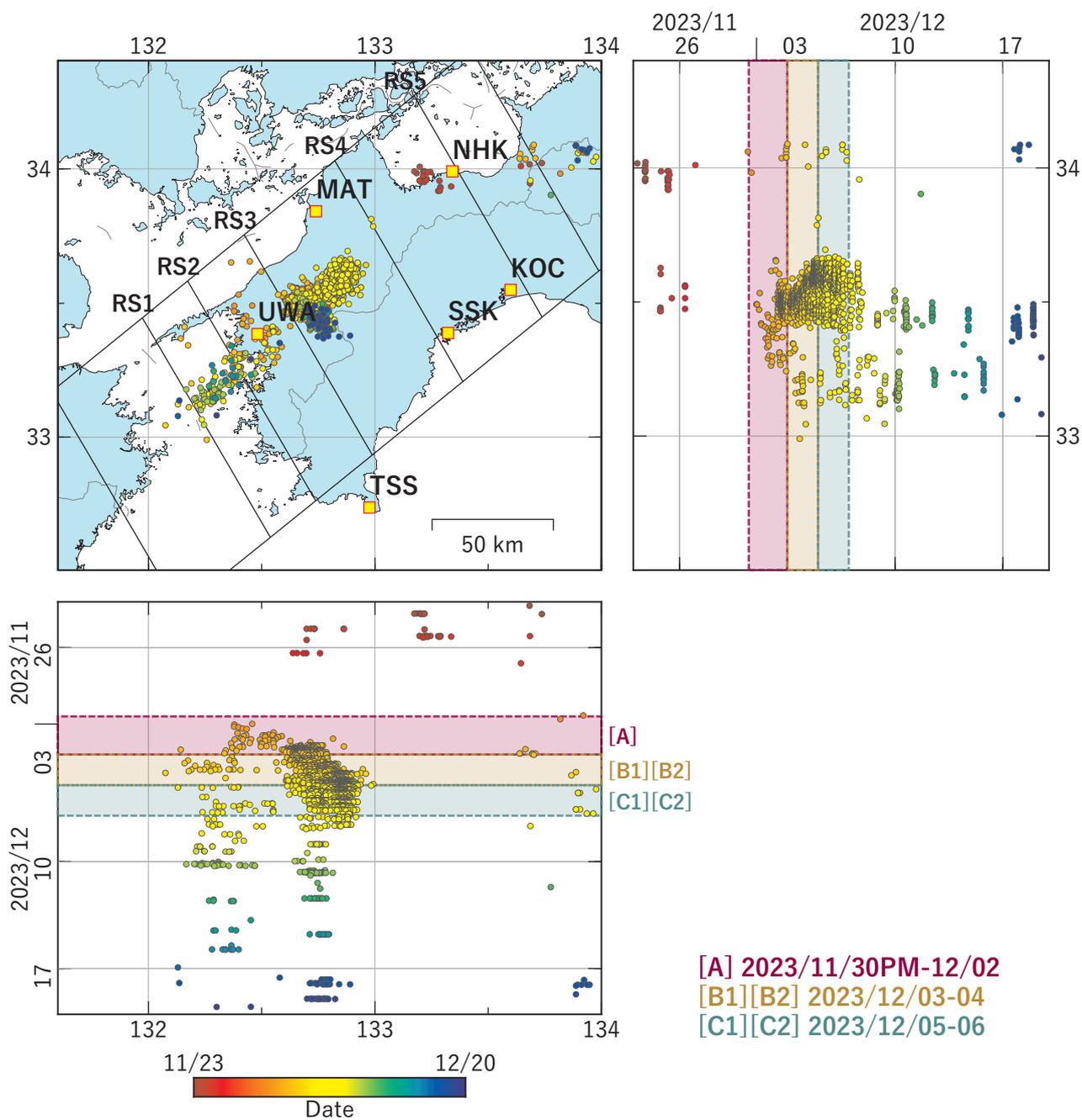
上: 1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第32図 Tilt and groundwater level at NHK (時間値)
 (2023/08/01 00:00 - 2024/02/01 00:00 (JST))

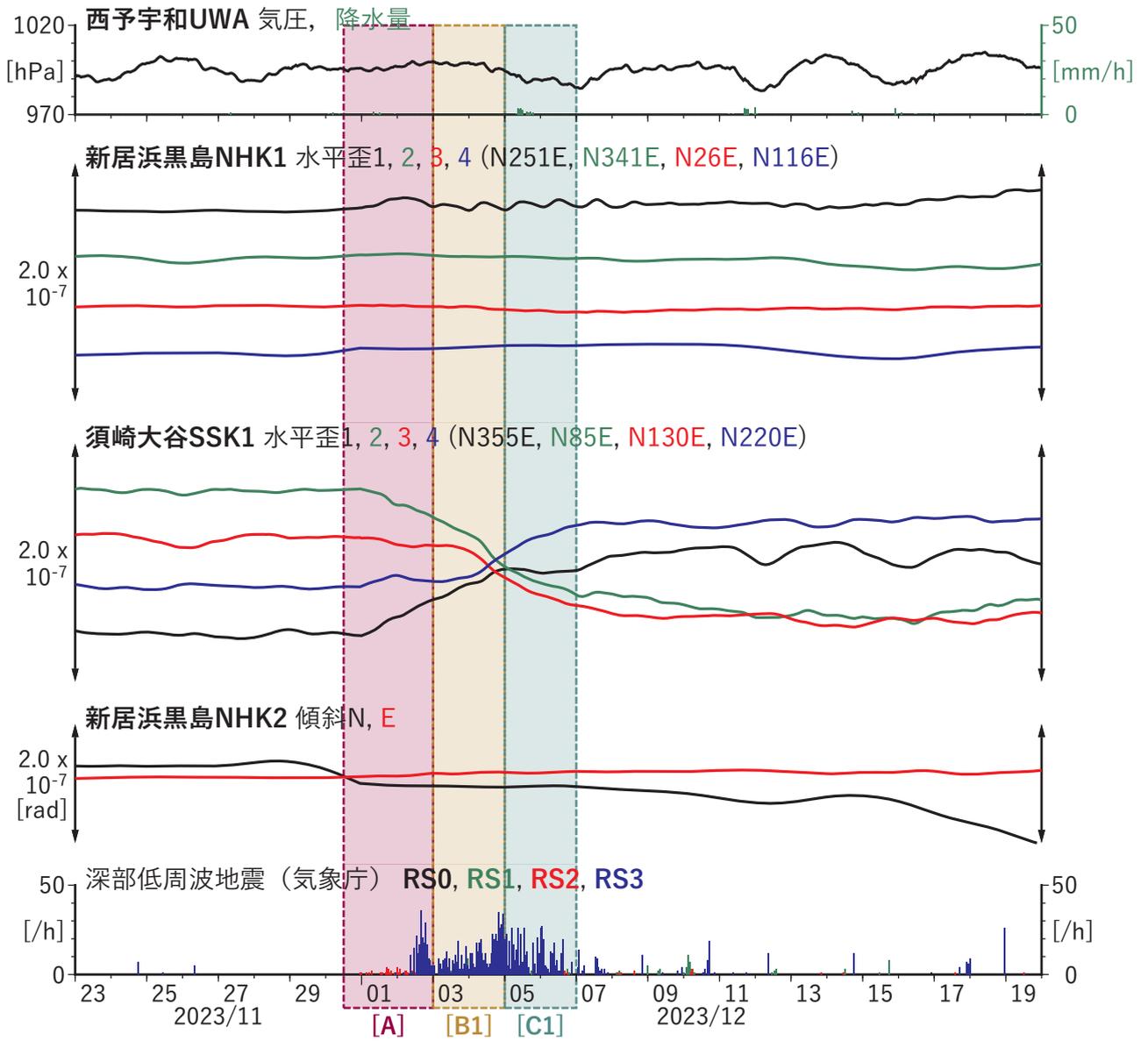


Tiltmeter depth = 196.7-197.3 [GL-m] A:2024/01/01 能登半島地震 M7.6
 NHK1 : Screen depth = 280.1-291.1 [GL-m]
 NHK2 : Screen depth = 79.4-90.4 [GL-m]
 NHK3 : Screen depth = 25.6-36.5 [GL-m]
 上: tiltは1次トレンドを除去
 下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去

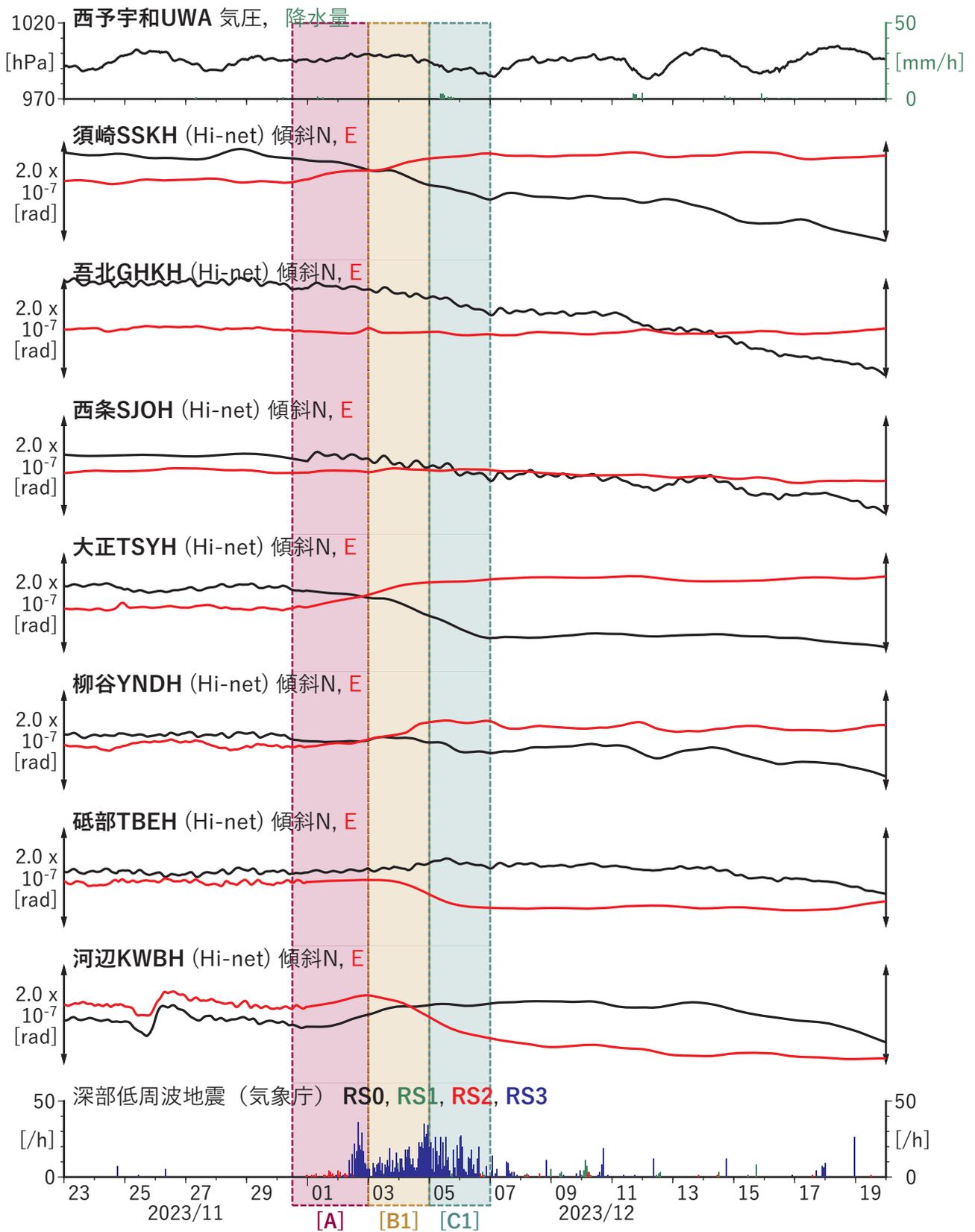


第33図 四国地域における深部低周波地震の時空間分布図 (2023/11/23 00:00:00-2023/12/20 00:00:00 (JST))。気象庁カタログによる。

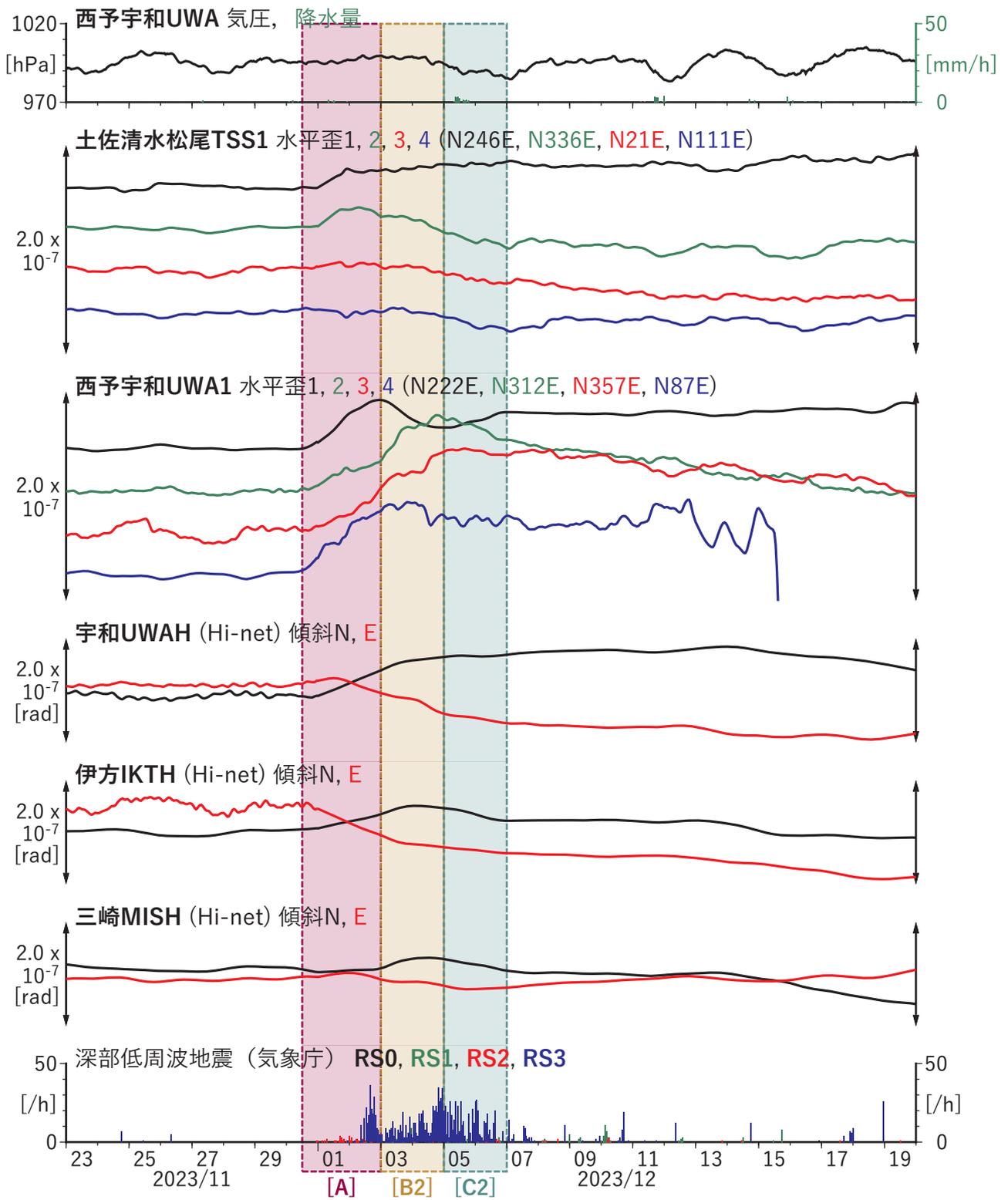
(観測点) NHK: 新居浜黒島, KOC: 高知五台山, SSK: 須崎大谷, MAT: 松山南江戸, TSS: 土佐清水松尾, UWA: 西予宇和



第34図 歪・傾斜の時間変化(1) (2023/11/23 00:00-2023/12/20 00:00 (JST))



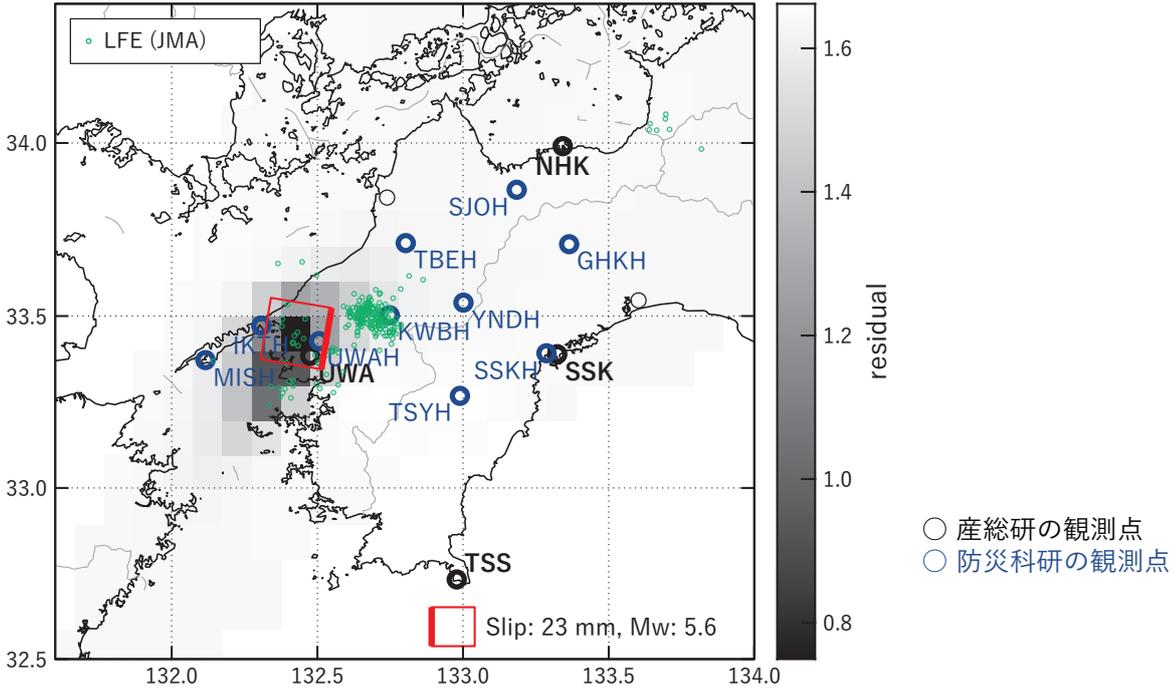
第34図 歪・傾斜の時間変化(2) (2023/11/23 00:00-2023/12/20 00:00 (JST))



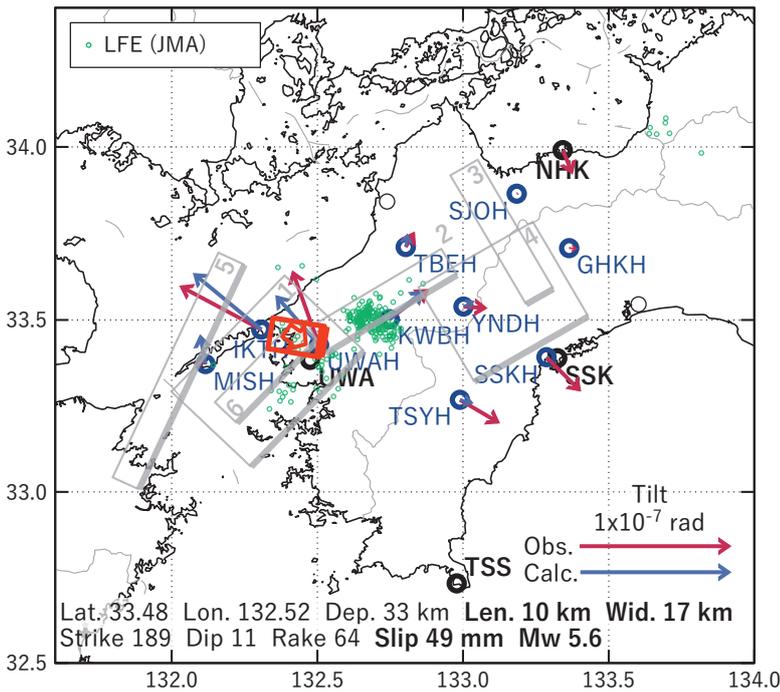
第34図 歪・傾斜の時間変化(3) (2023/11/23 00:00-2023/12/20 00:00 (JST))

[A] 2023/11/30PM-12/02

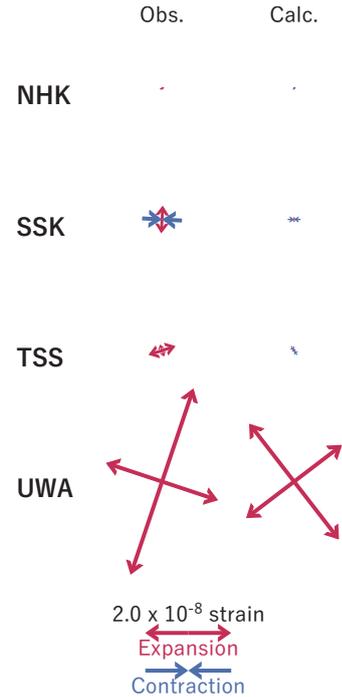
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



第35図 2023/11/30PM-12/02の歪・傾斜変化 (第34図[A]) を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

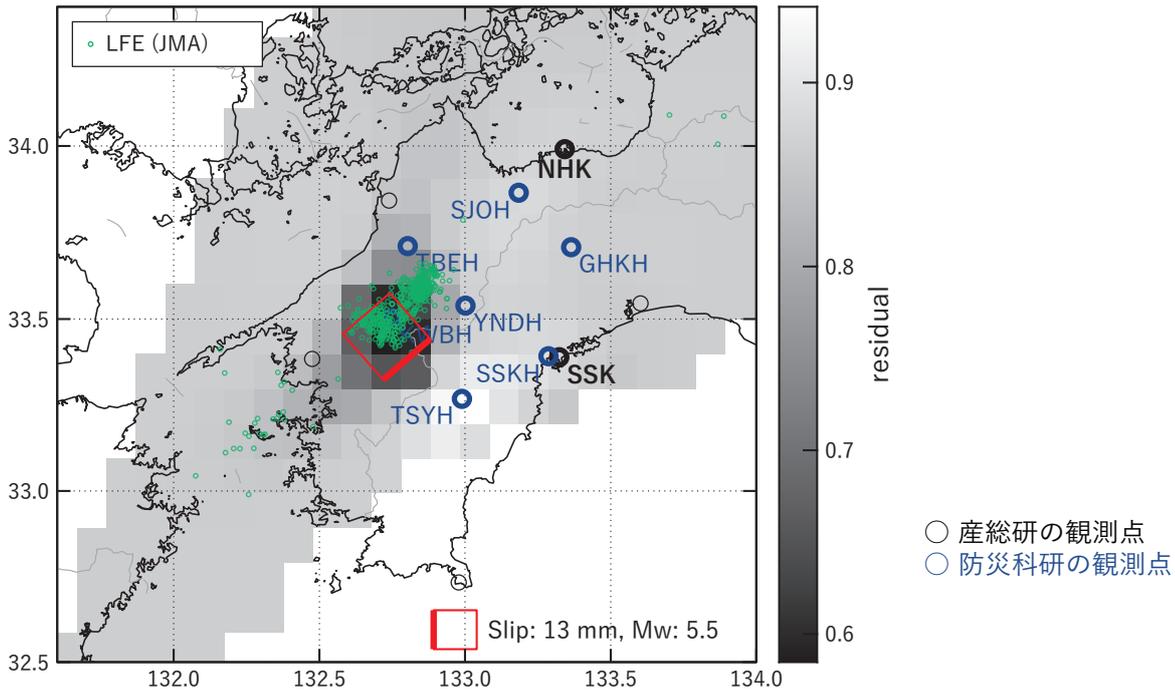
(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面 (赤色矩形) と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。

1: 2023/05/15PM-18AM (Mw 5.9), 2: 2023/05/18PM-21AM (Mw 5.6), 3: 2023/07/01PM-05AM (Mw 5.9), 4: 2023/07/05PM-10AM (Mw 5.8), 5: 2023/08/15-18AM (Mw 6.0), 6: 2023/08/18PM-20 (Mw 5.5)

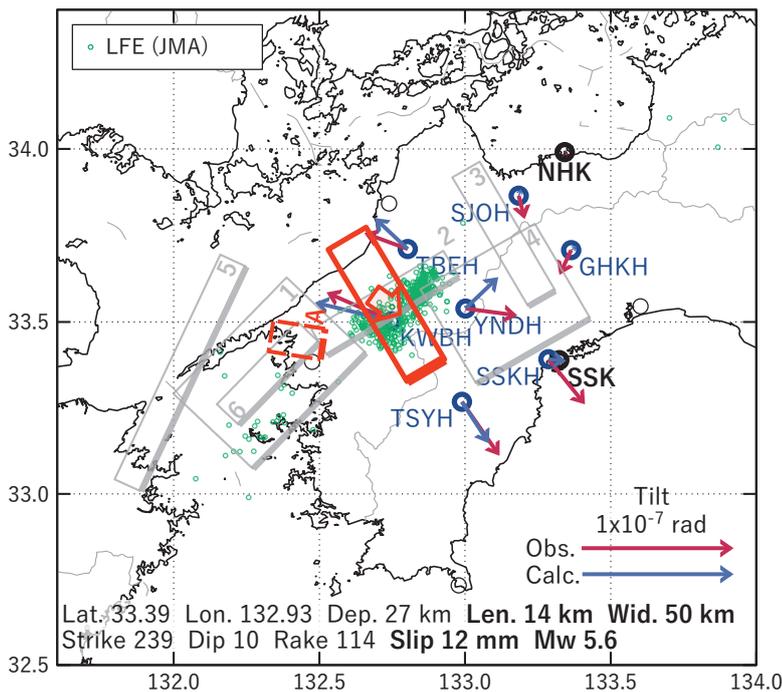
(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[B1] (東側) 2023/12/03-04

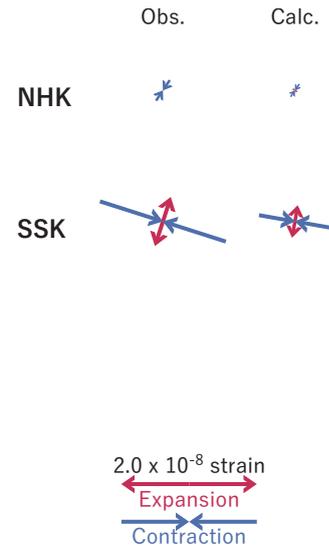
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



第36図 2023/12/03-04 (東側) の歪・傾斜変化 (第34図[B1]) を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面 (赤色矩形) と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。赤色破線矩形は今回の一連のイベント。

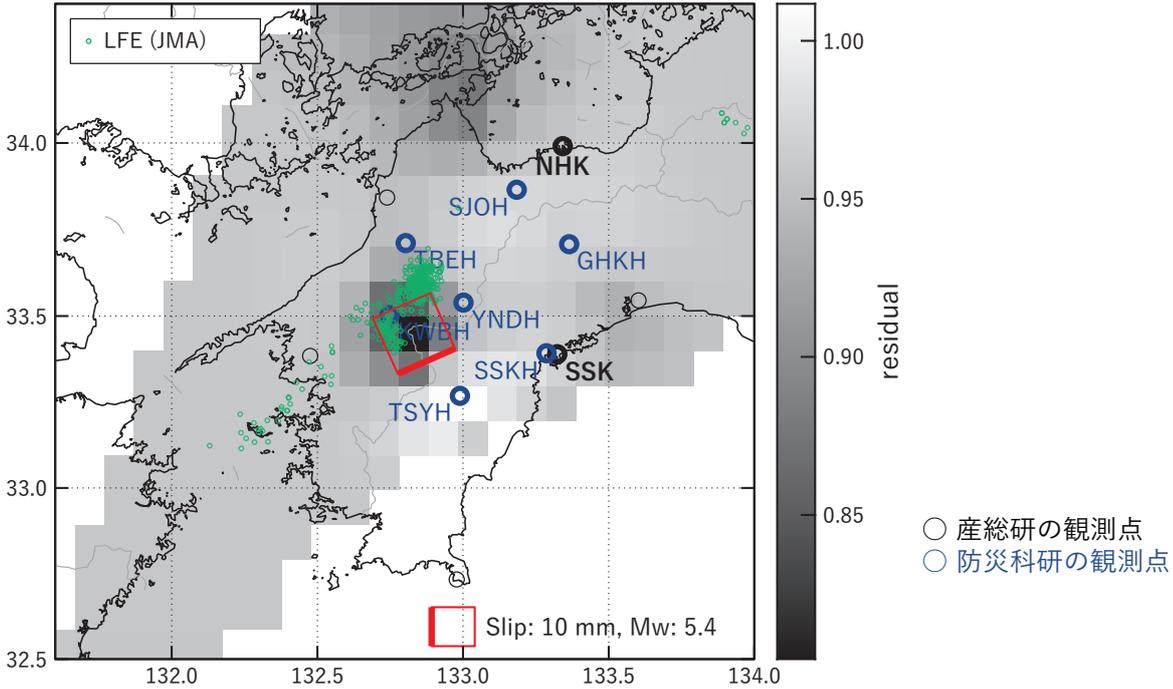
1: 2023/05/15PM-18AM (Mw 5.9), 2: 2023/05/18PM-21AM (Mw 5.6), 3: 2023/07/01PM-05AM (Mw 5.9),
4: 2023/07/05PM-10AM (Mw 5.8), 5: 2023/08/15-18AM (Mw 6.0), 6: 2023/08/18PM-20 (Mw 5.5),

A: 2023/11/30PM-12/02 (Mw 5.6)

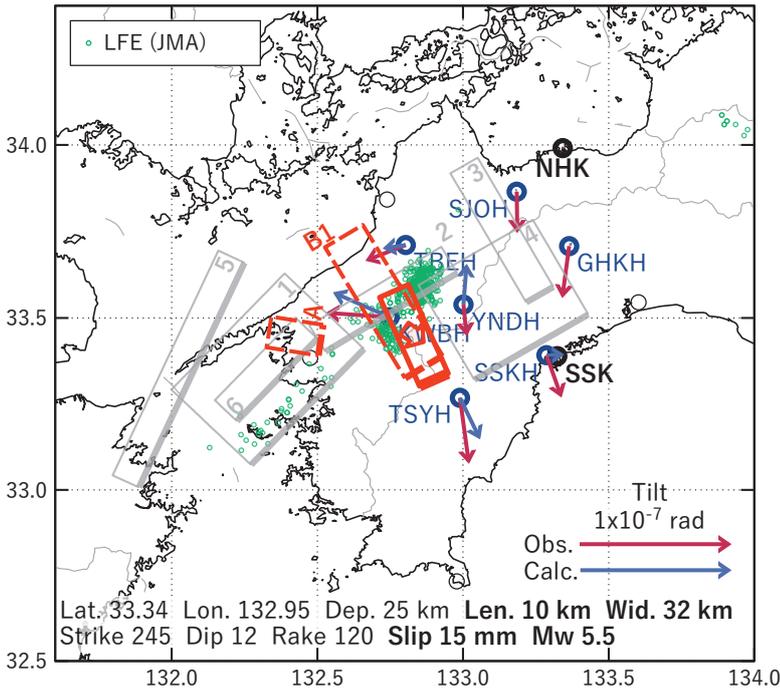
(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[C1] (東側) 2023/12/05-06

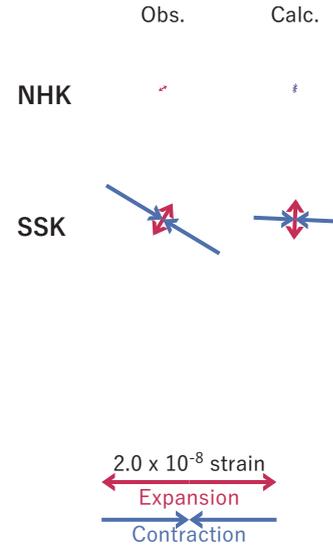
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



第37図 2023/12/05-06 (東側) の歪・傾斜変化 (第34図[C1]) を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面 (赤色矩形) と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。赤色破線矩形は今回の一連のイベント。

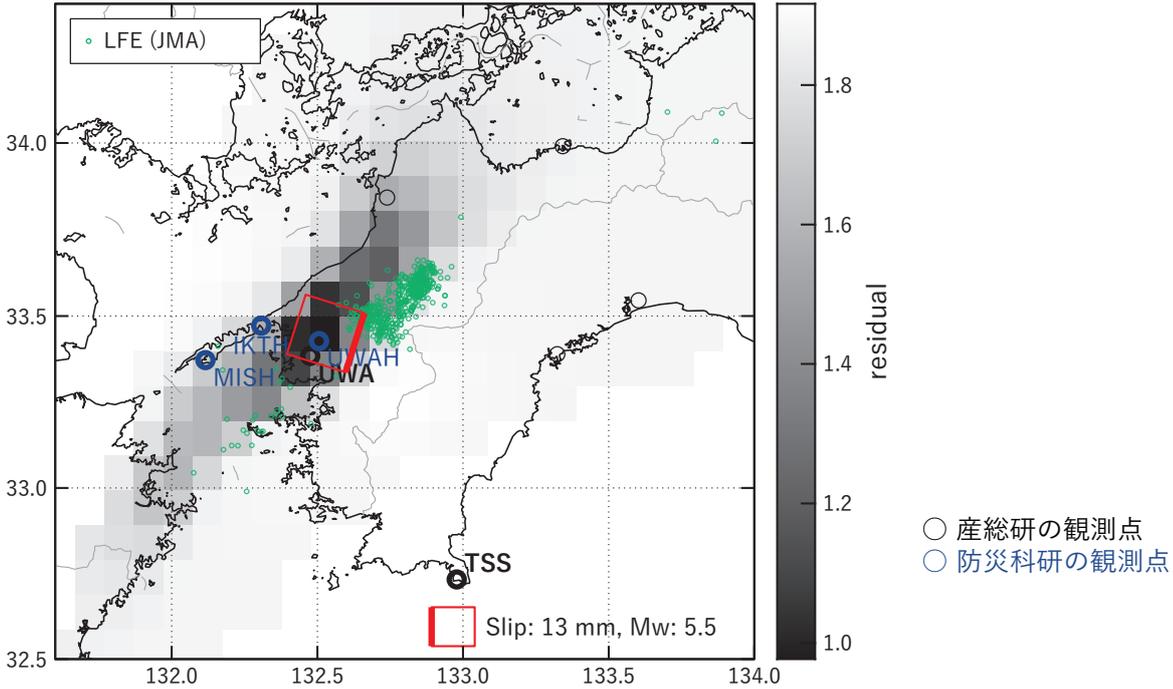
1: 2023/05/15PM-18AM (Mw 5.9), 2: 2023/05/18PM-21AM (Mw 5.6), 3: 2023/07/01PM-05AM (Mw 5.9), 4: 2023/07/05PM-10AM (Mw 5.8), 5: 2023/08/15-18AM (Mw 6.0), 6: 2023/08/18PM-20 (Mw 5.5),

A: 2023/11/30PM-12/02 (Mw 5.6), B1: 2023/12/03-04 (Mw 5.6)

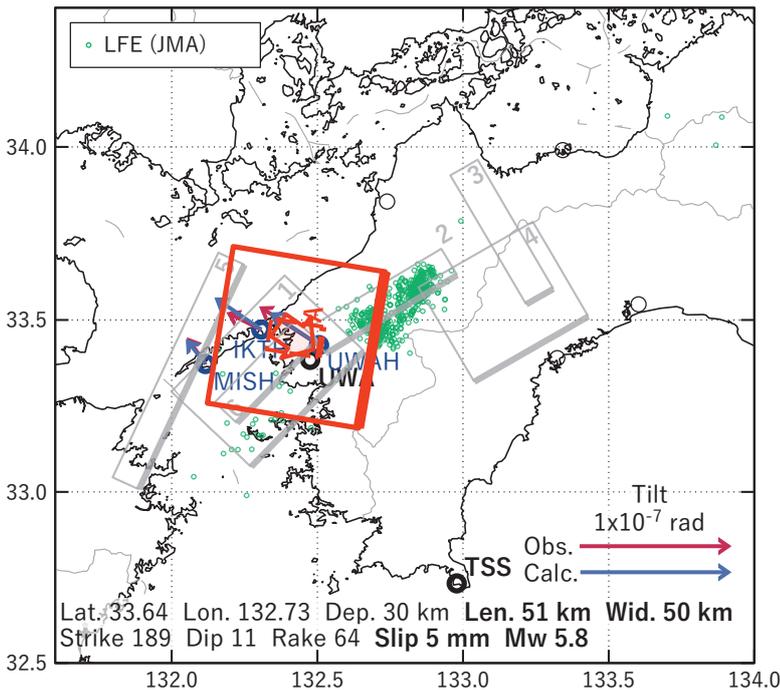
(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[B2] (西側) 2023/12/03-04

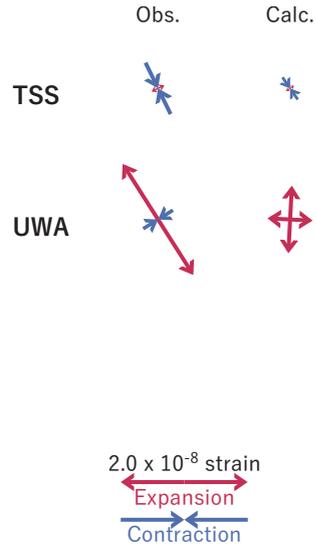
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



第38図 2023/12/03-04 (西側) の歪・傾斜変化 (第34図[B2]) を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

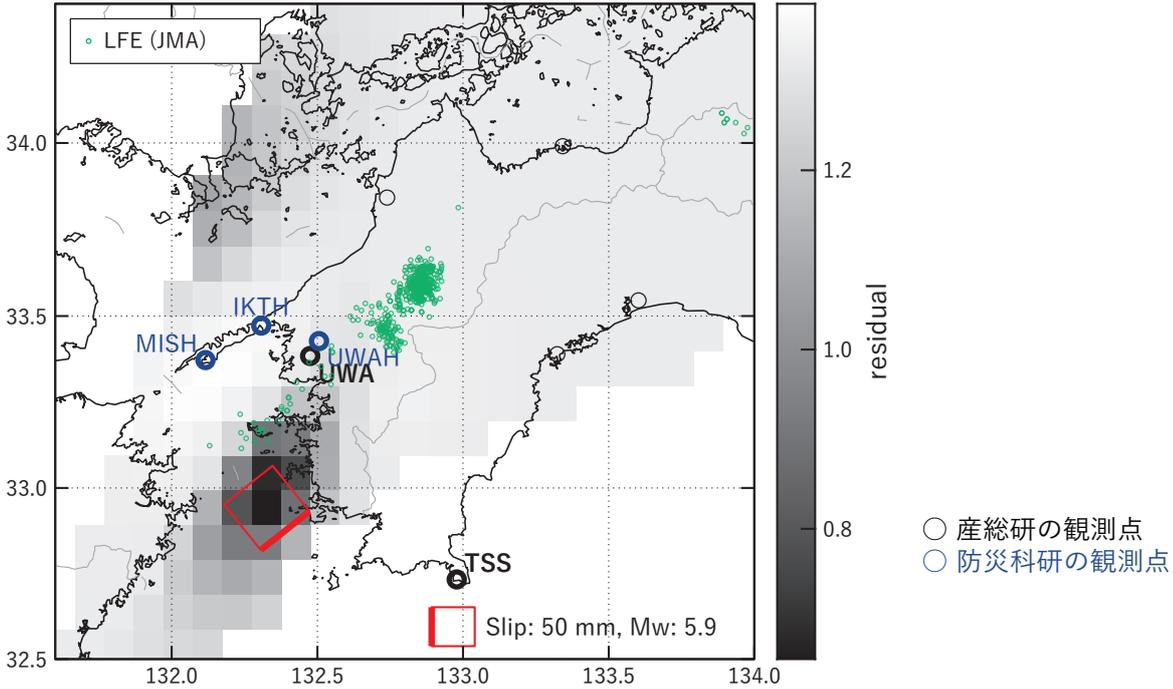
(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面 (赤色矩形) と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。赤色破線矩形は今回の一連のイベント。

- 1: 2023/05/15PM-18AM (Mw 5.9), 2: 2023/05/18PM-21AM (Mw 5.6), 3: 2023/07/01PM-05AM (Mw 5.9),
- 4: 2023/07/05PM-10AM (Mw 5.8), 5: 2023/08/15-18AM (Mw 6.0), 6: 2023/08/18PM-20 (Mw 5.5),
- A: 2023/11/30PM-12/02 (Mw 5.6)

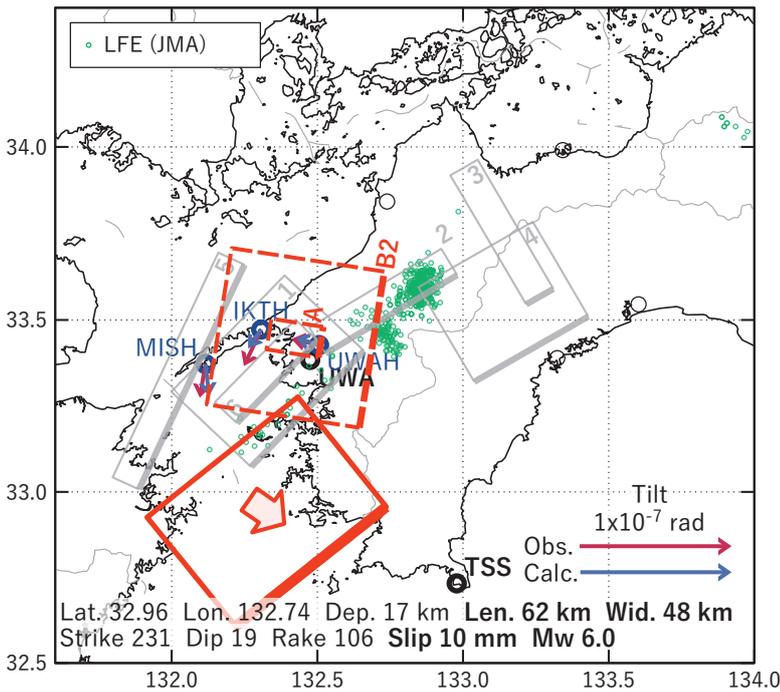
(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[C2] (西側) 2023/12/05-06

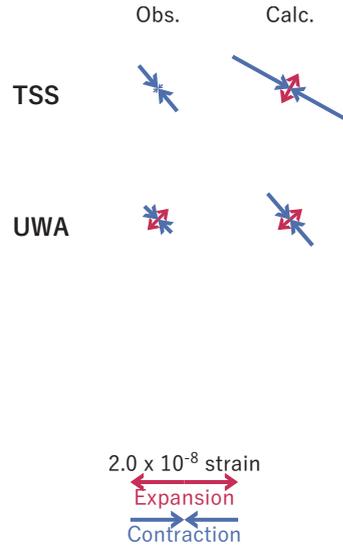
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



第39図 2023/12/05-06 (西側) の歪・傾斜変化 (第34図[C2]) を説明する断層モデル。

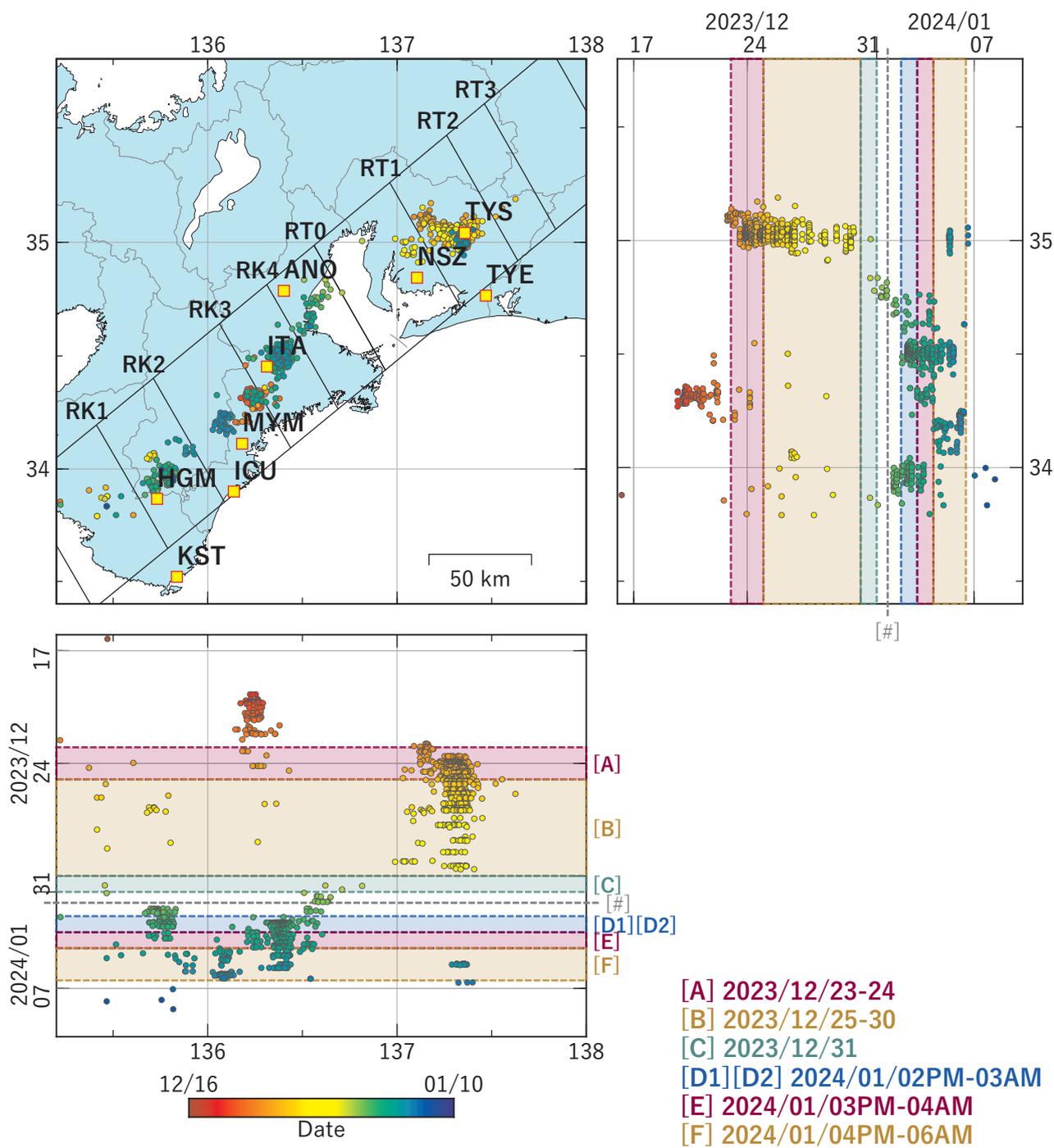
(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面 (赤色矩形) と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。赤色破線矩形は今回の一連のイベント。

1: 2023/05/15PM-18AM (Mw 5.9), 2: 2023/05/18PM-21AM (Mw 5.6), 3: 2023/07/01PM-05AM (Mw 5.9), 4: 2023/07/05PM-10AM (Mw 5.8), 5: 2023/08/15-18AM (Mw 6.0), 6: 2023/08/18PM-20 (Mw 5.5),

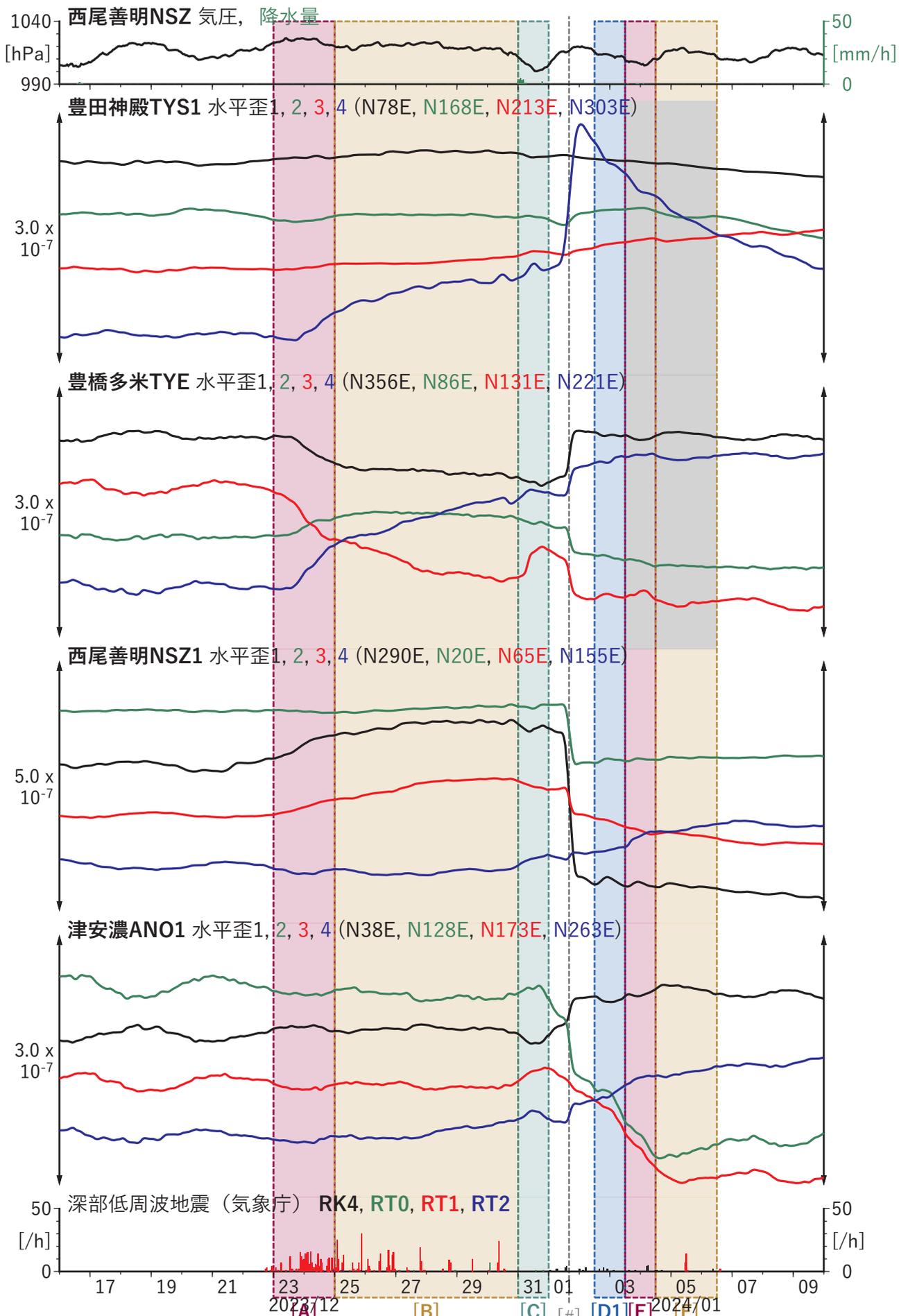
A: 2023/11/30PM-12/02 (Mw 5.6), B2: 2023/12/03-04 (Mw 5.8)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

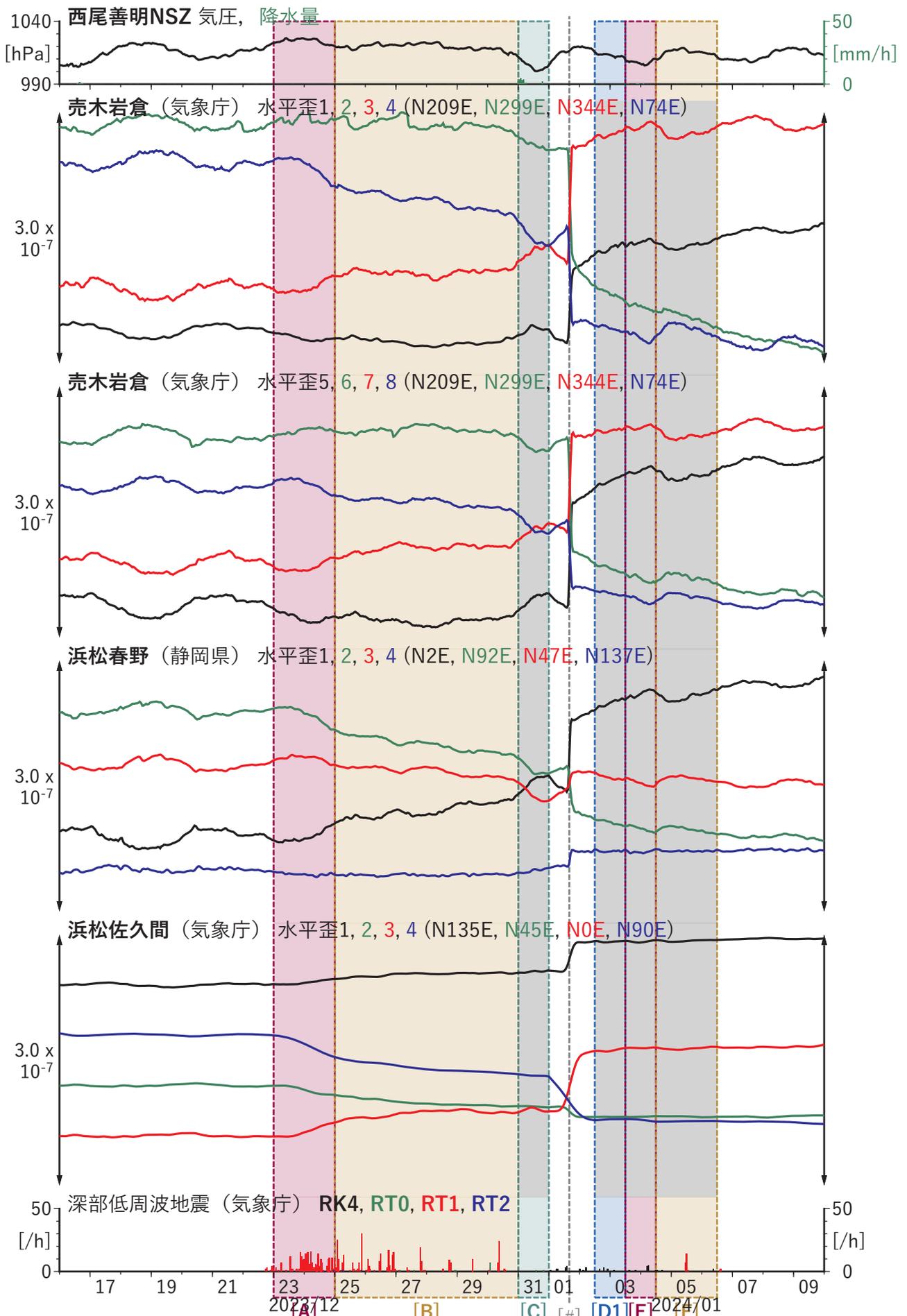


第40図 愛知県～紀伊半島における深部低周波地震の時空間分布図（2023/12/16 00:00:00-2024/01/10 00:00:00 (JST)）。気象庁カタログによる。[#]は令和6年能登半島地震の発生時刻。（第41図も同じ。）

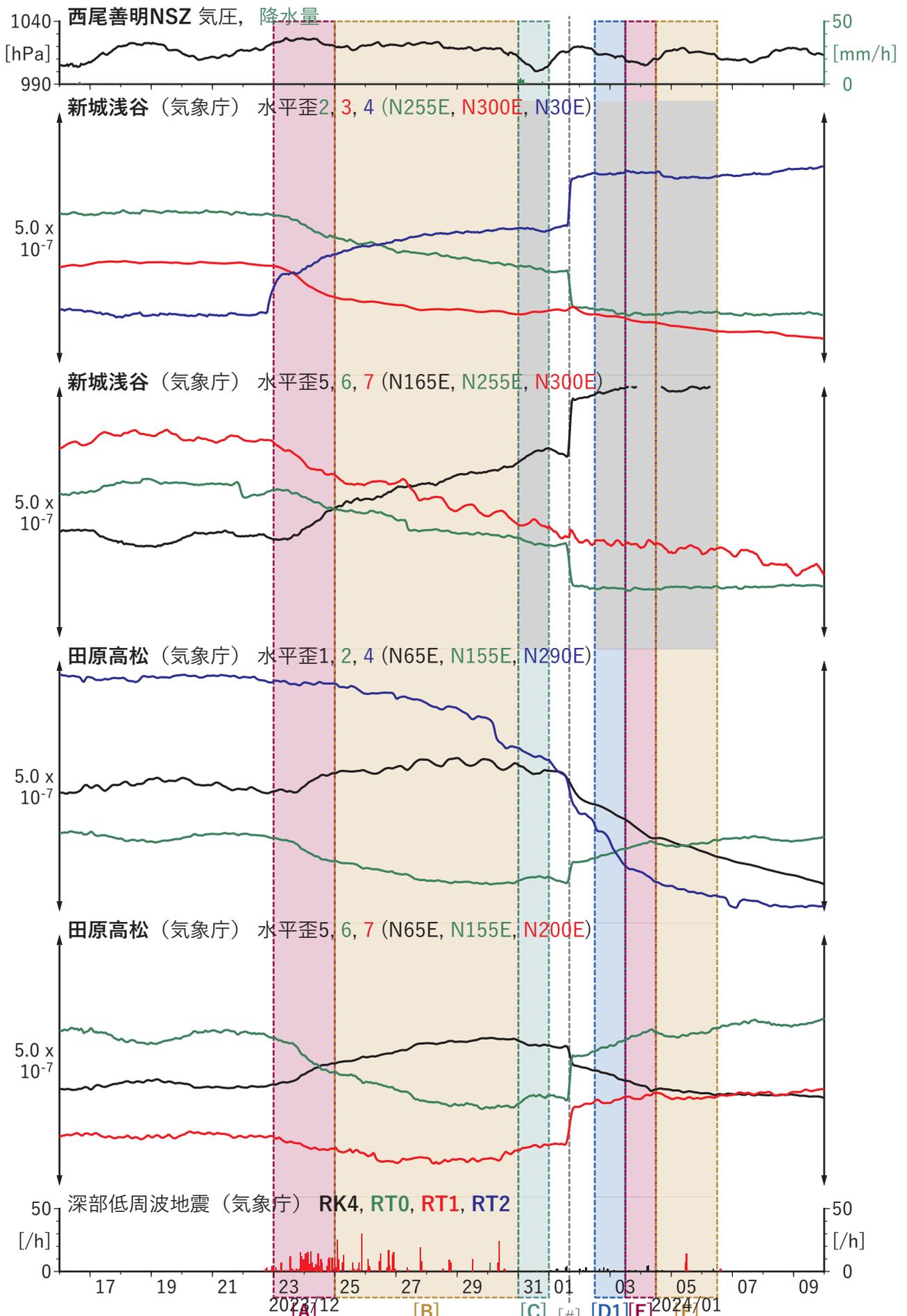
（観測点） TYS: 豊田神殿, TYE: 豊橋多米, NSZ: 西尾善明, ANO: 津安濃, ITA: 松阪飯高, MYM: 紀北海山, ICU: 熊野磯崎, HGM: 田辺本宮, KST: 串本津荷



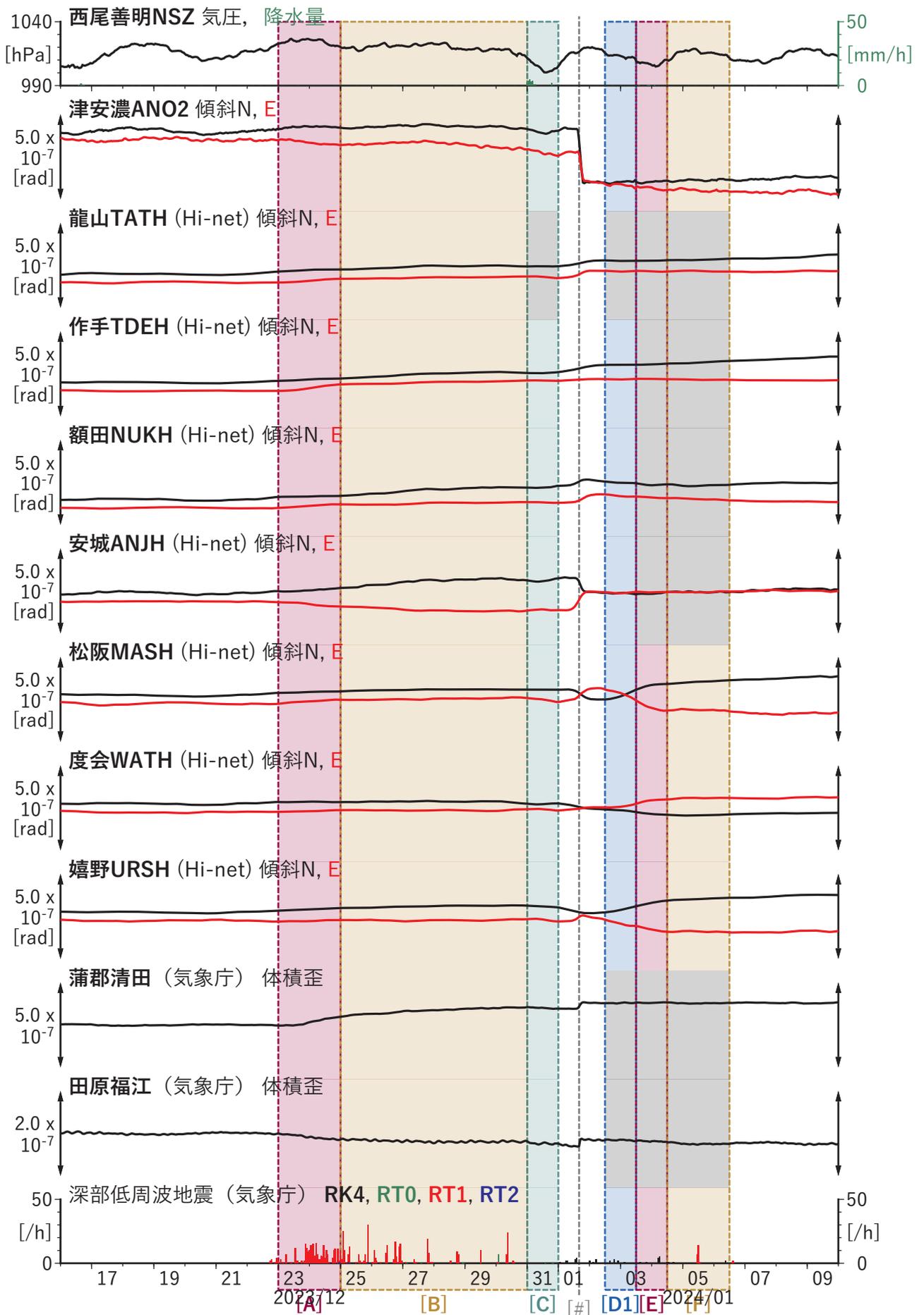
第41図 歪・傾斜の時間変化(1) (2023/12/16 00:00-2024/01/10 00:00 (JST))



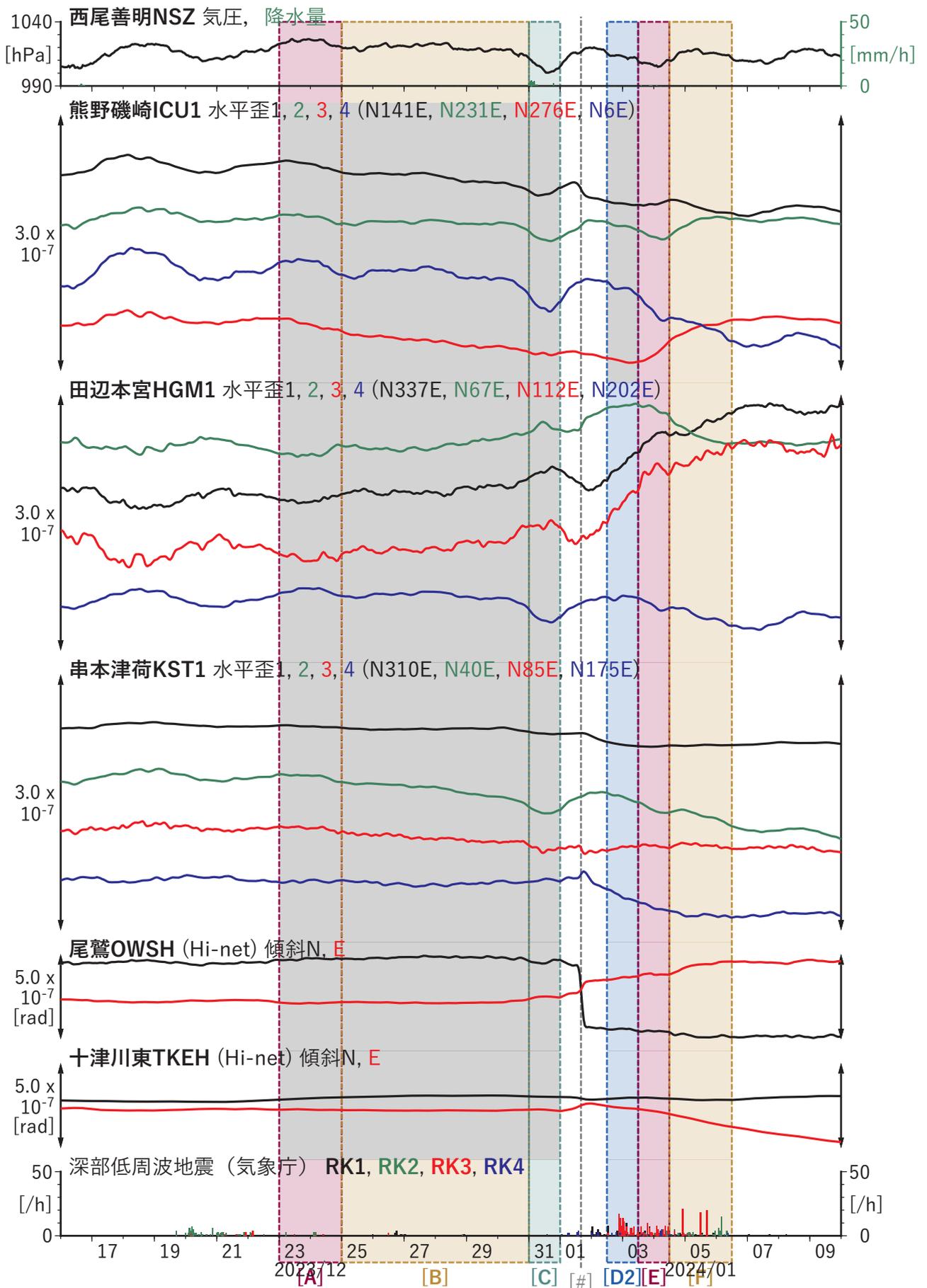
第41図 歪・傾斜の時間変化(2) (2023/12/16 00:00-2024/01/10 00:00 (JST))



第41図 歪・傾斜の時間変化(3) (2023/12/16 00:00-2024/01/10 00:00 (JST))



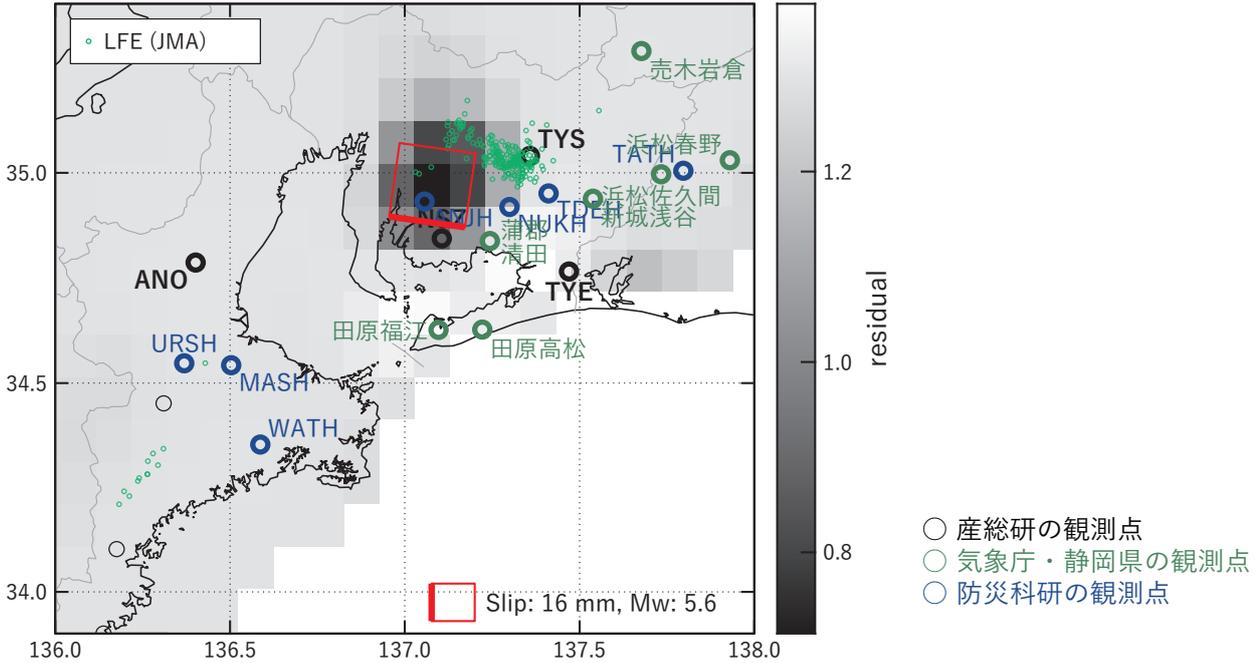
第41図 歪・傾斜の時間変化(4) (2023/12/16 00:00-2024/01/10 00:00 (JST))



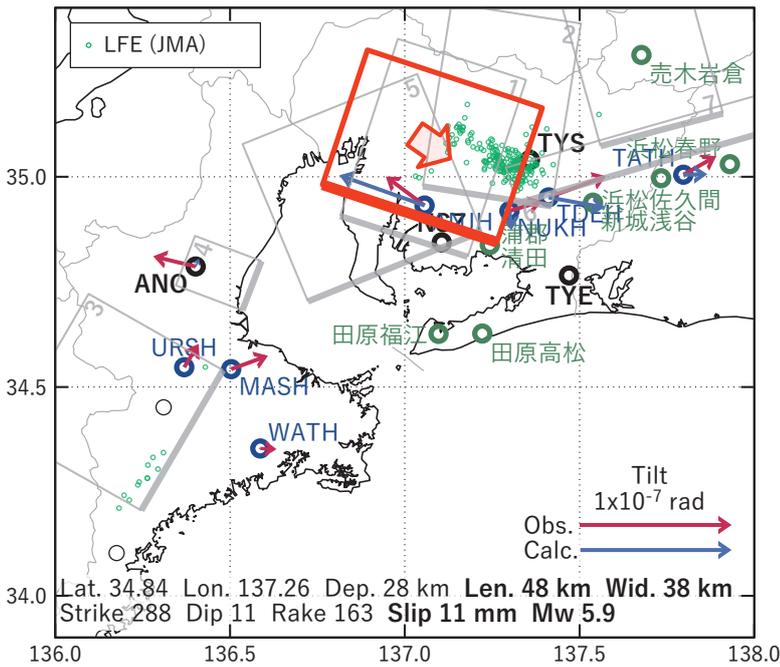
第41図 歪・傾斜の時間変化(5) (2023/12/16 00:00-2024/01/10 00:00 (JST))

[A] 2023/12/23-24

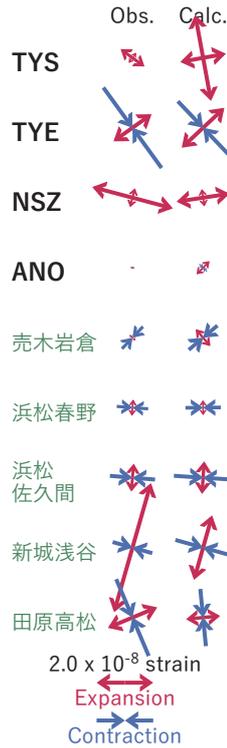
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



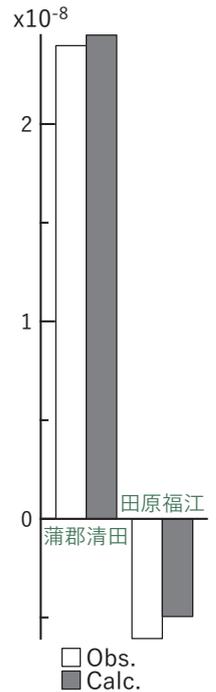
(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



(b3) 体積歪

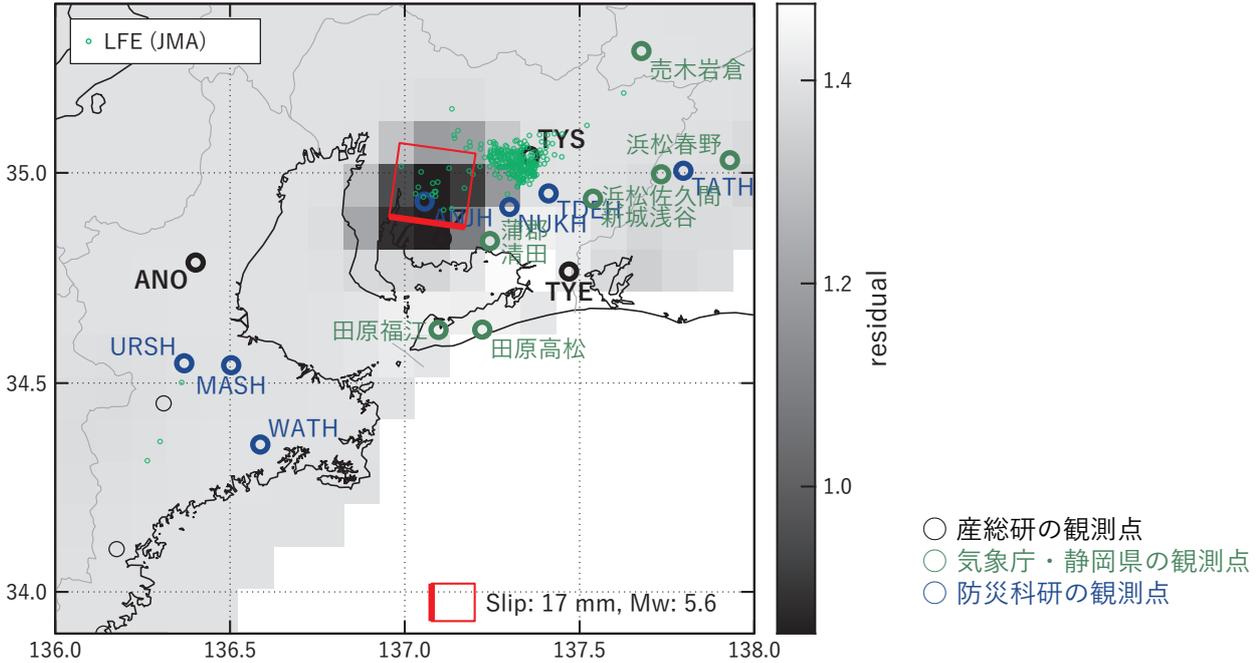


第42図 2023/12/23-24の歪・傾斜変化 (第41図[A]) を説明する断層モデル。

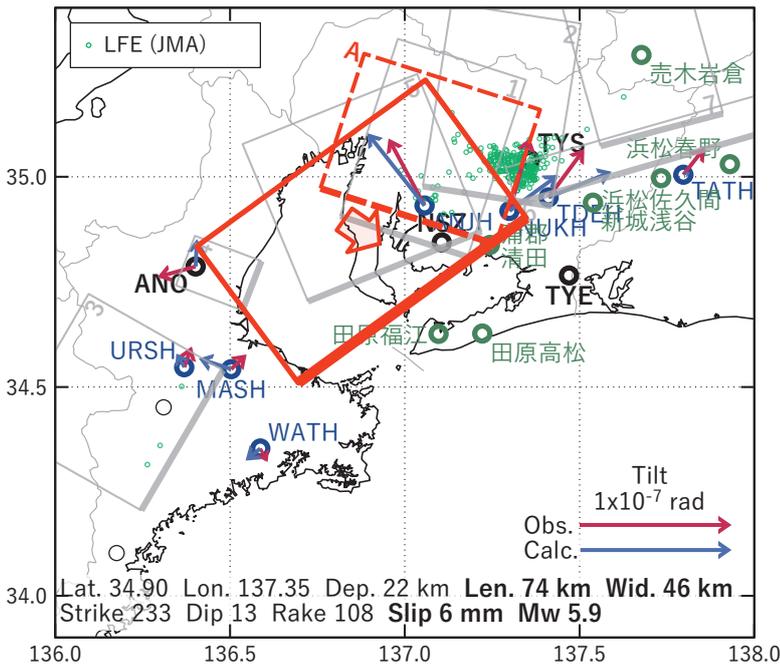
- (a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。
- (b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面 (赤色矩形) と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。
 1: 2022/10/16-18 (Mw 5.8), 2: 2022/10/19-23AM (Mw 5.9), 3: 2023/04/21PM-24AM (Mw 5.7), 4: 2023/08/03-05 (Mw 5.8), 5: 2023/08/23PM-25AM (Mw 5.5), 6: 2023/09/15-17 (Mw 5.8), 7: 2023/10/20PM-23 (Mw 5.8)
- (b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。
- (b3) 体積歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[B] 2023/12/25-30

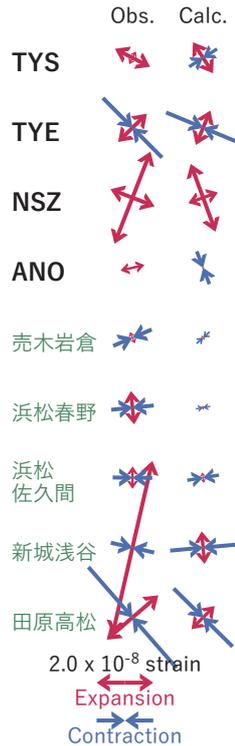
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



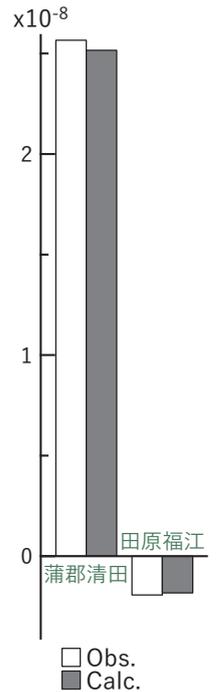
(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



(b3) 体積歪

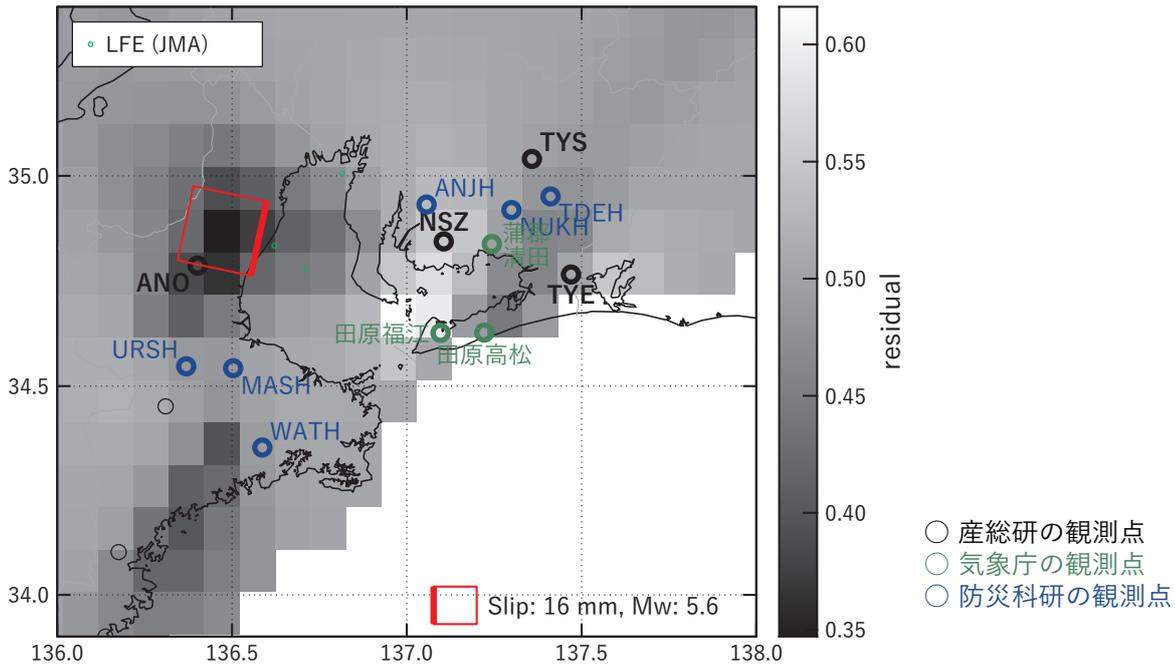


第43図 2023/12/25-30の歪・傾斜変化 (第41図[B]) を説明する断層モデル。

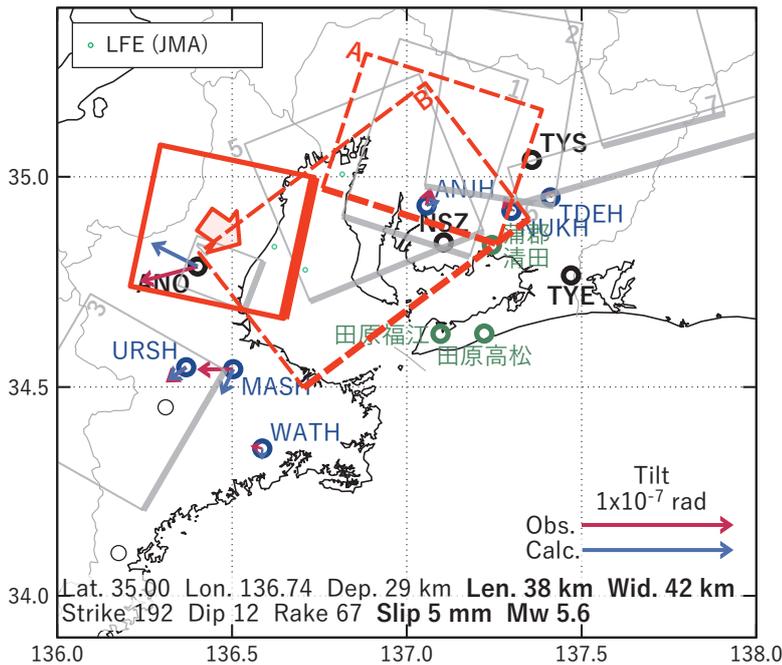
- (a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。
- (b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面 (赤色矩形) と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。赤色破線矩形は今回の一連のイベント。
 1: 2022/10/16-18 (Mw 5.8), 2: 2022/10/19-23AM (Mw 5.9), 3: 2023/04/21PM-24AM (Mw 5.7), 4: 2023/08/03-05 (Mw 5.8),
 5: 2023/08/23PM-25AM (Mw 5.5), 6: 2023/09/15-17 (Mw 5.8), 7: 2023/10/20PM-23 (Mw 5.8), A: 2023/12/23-24 (Mw 5.9)
- (b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。
- (b3) 体積歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[C] 2023/12/31

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



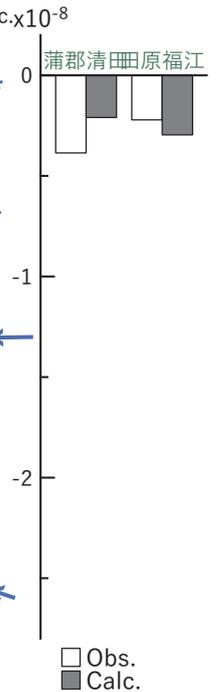
(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



(b3) 体積歪

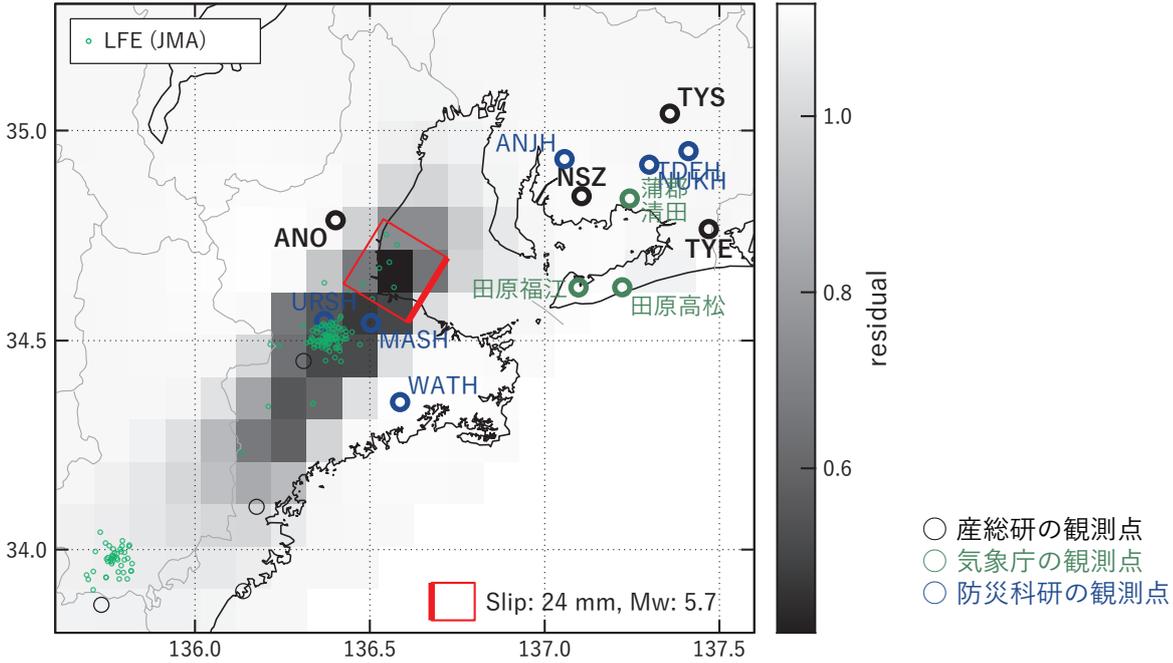


第44図 2023/12/31の歪・傾斜変化 (第41図[C]) を説明する断層モデル。

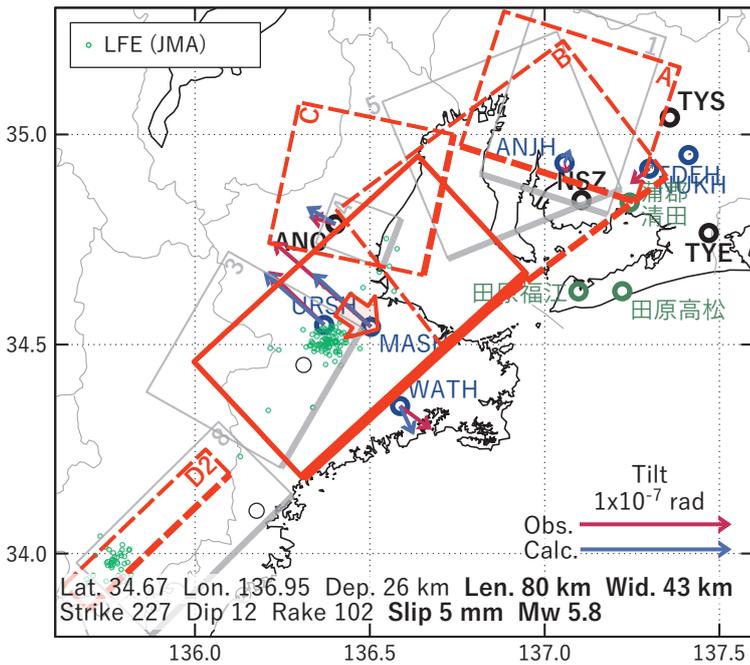
- (a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。
- (b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面 (赤色矩形) と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。赤色破線矩形は今回の一連のイベント。
 1: 2022/10/16-18 (Mw 5.8), 2: 2022/10/19-23AM (Mw 5.9), 3: 2023/04/21PM-24AM (Mw 5.7), 4: 2023/08/03-05 (Mw 5.8),
 5: 2023/08/23PM-25AM (Mw 5.5), 6: 2023/09/15-17 (Mw 5.8), 7: 2023/10/20PM-23 (Mw 5.8), A: 2023/12/23-24 (Mw 5.9),
 B: 2023/12/25-30 (Mw 5.9)
- (b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。
- (b3) 体積歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[D1] (北側) 2024/01/02PM-03AM

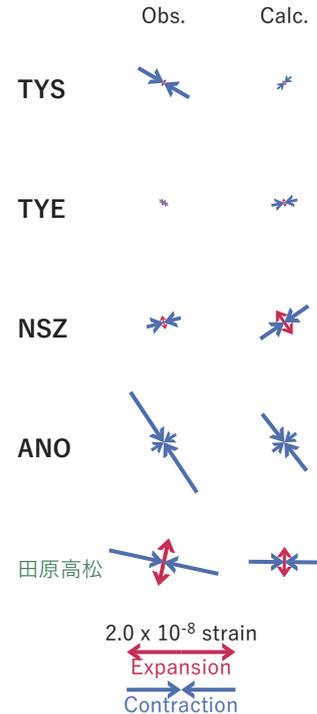
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

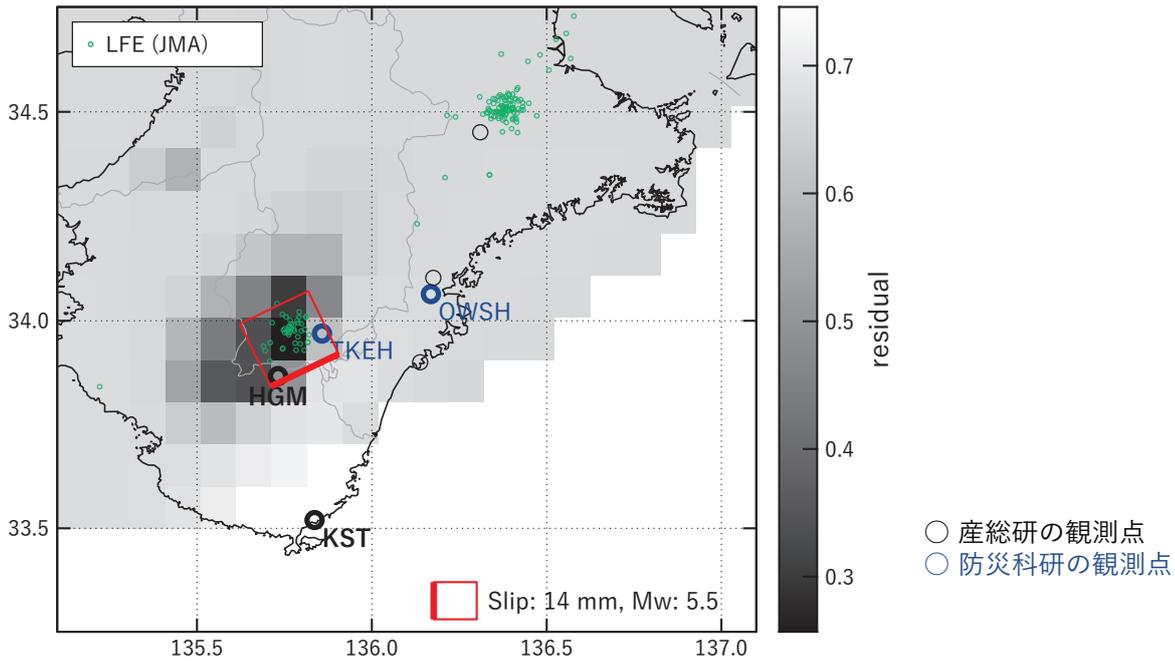


第45図 2024/01/02PM-03AMの歪・傾斜変化(第41図[D1])を説明する断層モデル。

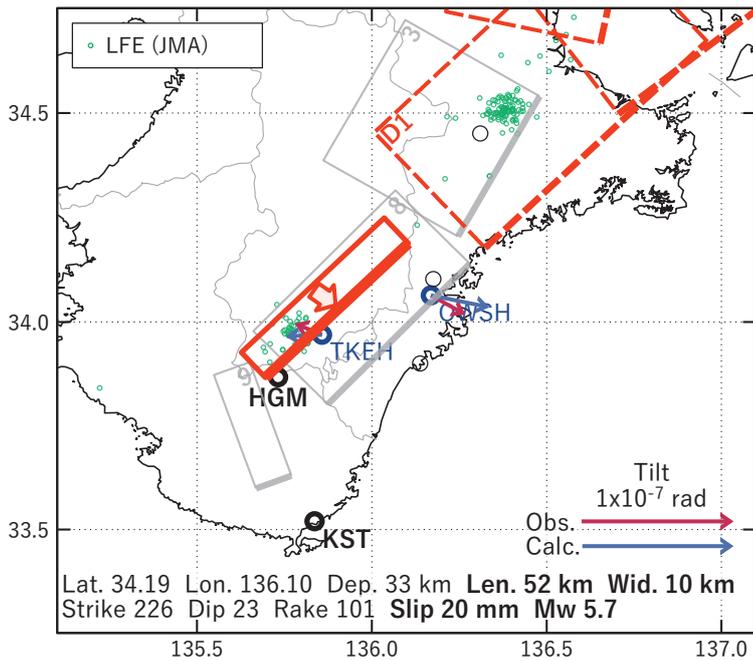
- (a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。
- (b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。赤色破線矩形は今回の一連のイベント。
 1: 2022/10/16-18 (Mw 5.8), 3: 2023/04/21PM-24AM (Mw 5.7), 4: 2023/08/03-05 (Mw 5.8),
 5: 2023/08/23PM-25AM (Mw 5.5), 8: 2022/05/28-30 (Mw 5.8), 9: 2023/10/11-12 (Mw 5.3), A: 2023/12/23-24 (Mw 5.9),
 B: 2023/12/25-30 (Mw 5.9), C: 2023/12/31 (Mw 5.6), D2: 2024/01/02PM-03AM (Mw 5.7)
- (b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[D2] (南側) 2024/01/02PM-03AM

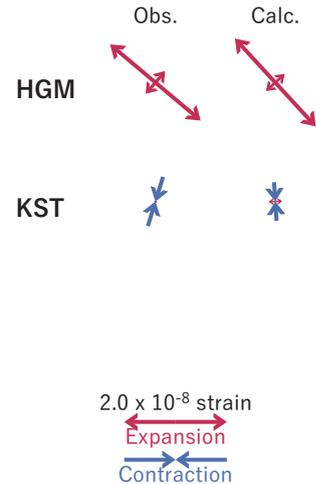
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

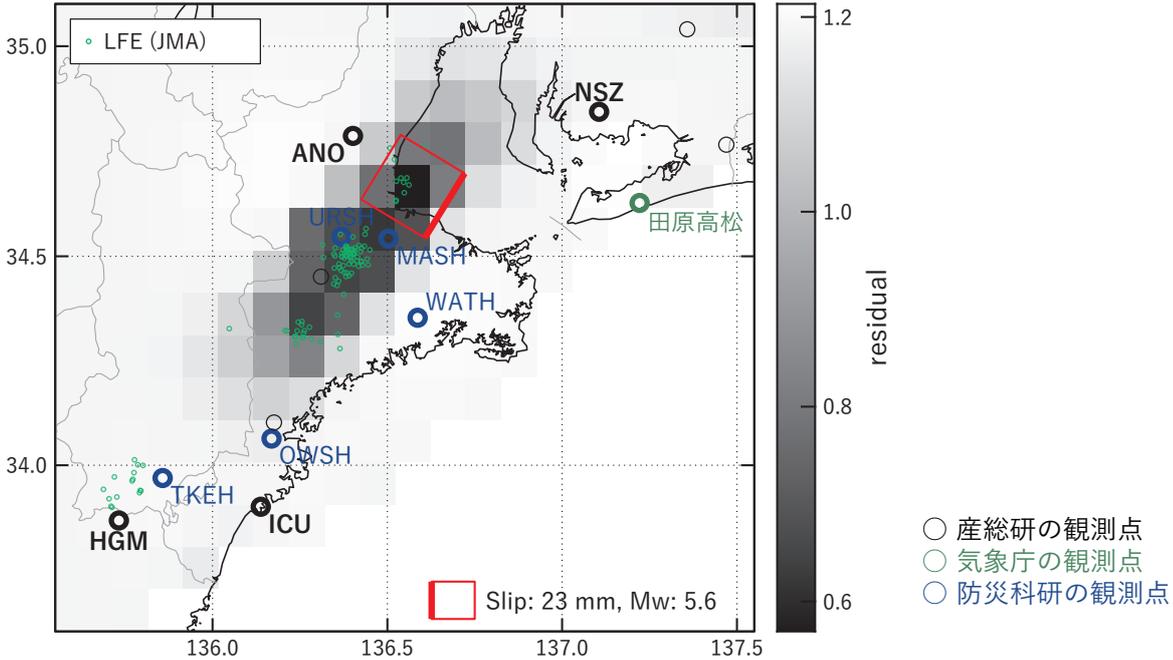


第46図 2024/01/02PM-03AMの歪・傾斜変化(第41図[D2])を説明する断層モデル。

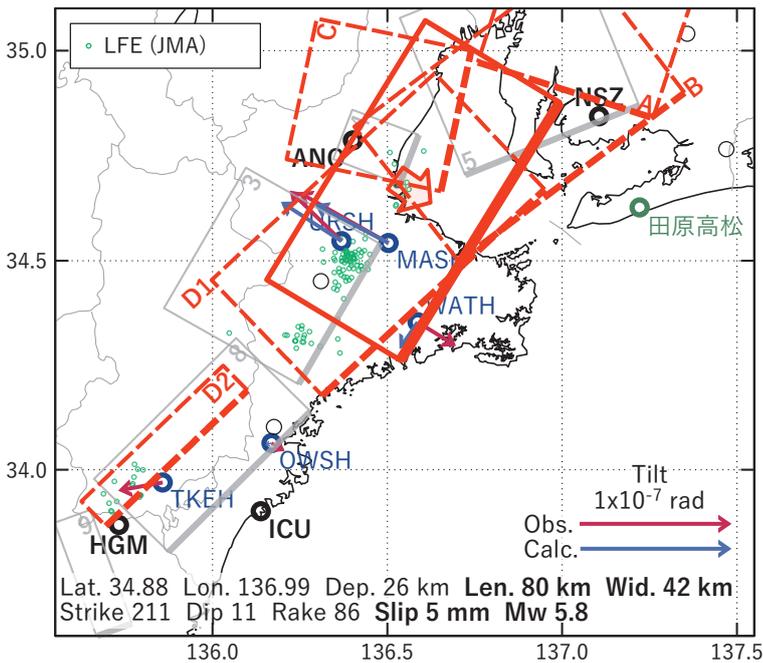
- (a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。
- (b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。赤色破線矩形は今回の一連のイベント。
 3: 2023/04/21PM-24AM (Mw 5.7), 8: 2022/05/28-30 (Mw 5.8), 9: 2023/10/11-12 (Mw 5.3),
D1: 2024/01/02PM-03AM (Mw 5.8)
- (b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[E] 2024/01/03PM-04AM

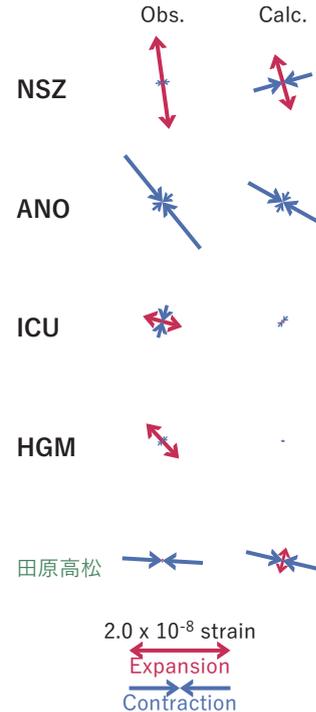
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

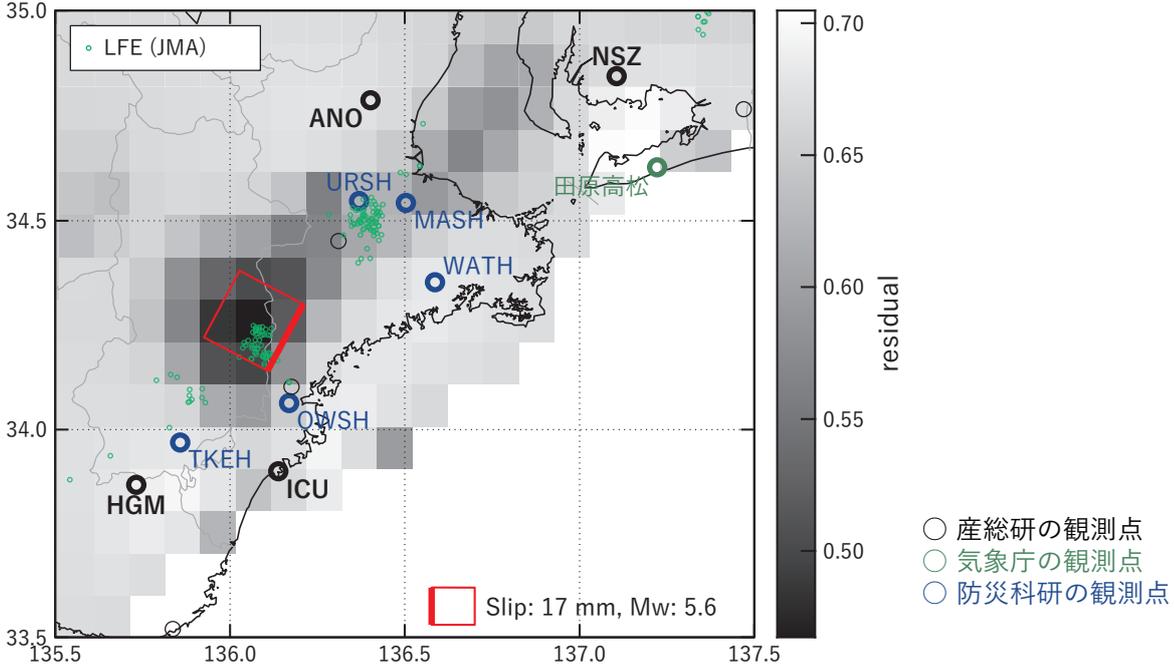


第47図 2024/01/03PM-04AMの歪・傾斜変化（第41図[E]）を説明する断層モデル。

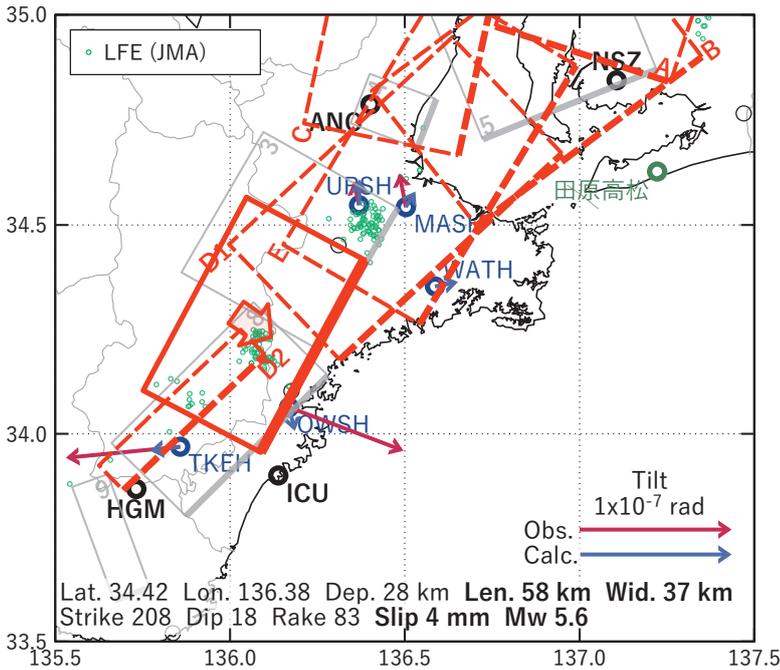
- (a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。
- (b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。赤色破線矩形は今回の一連のイベント。
 3: 2023/04/21PM-24AM (Mw 5.7), 4: 2023/08/03-05 (Mw 5.8), 5: 2023/08/23PM-25AM (Mw 5.5),
 8: 2022/05/28-30 (Mw 5.8), 9: 2023/10/11-12 (Mw 5.3), A: 2023/12/23-24 (Mw 5.9), B: 2023/12/25-30 (Mw 5.9),
 C: 2023/12/31 (Mw 5.6), D1: 2024/01/02PM-03AM (Mw 5.8), D2: 2024/01/02PM-03AM (Mw 5.7)
- (b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[F] 2024/01/04PM-06AM

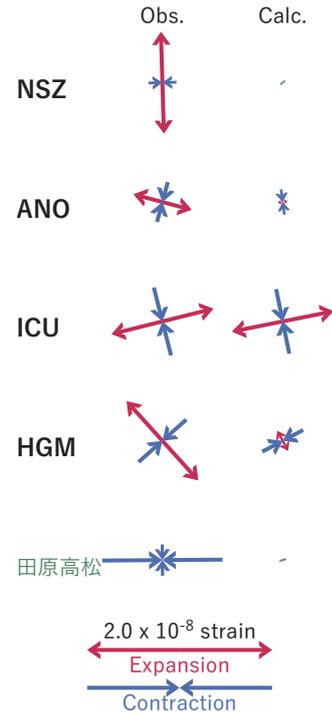
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル

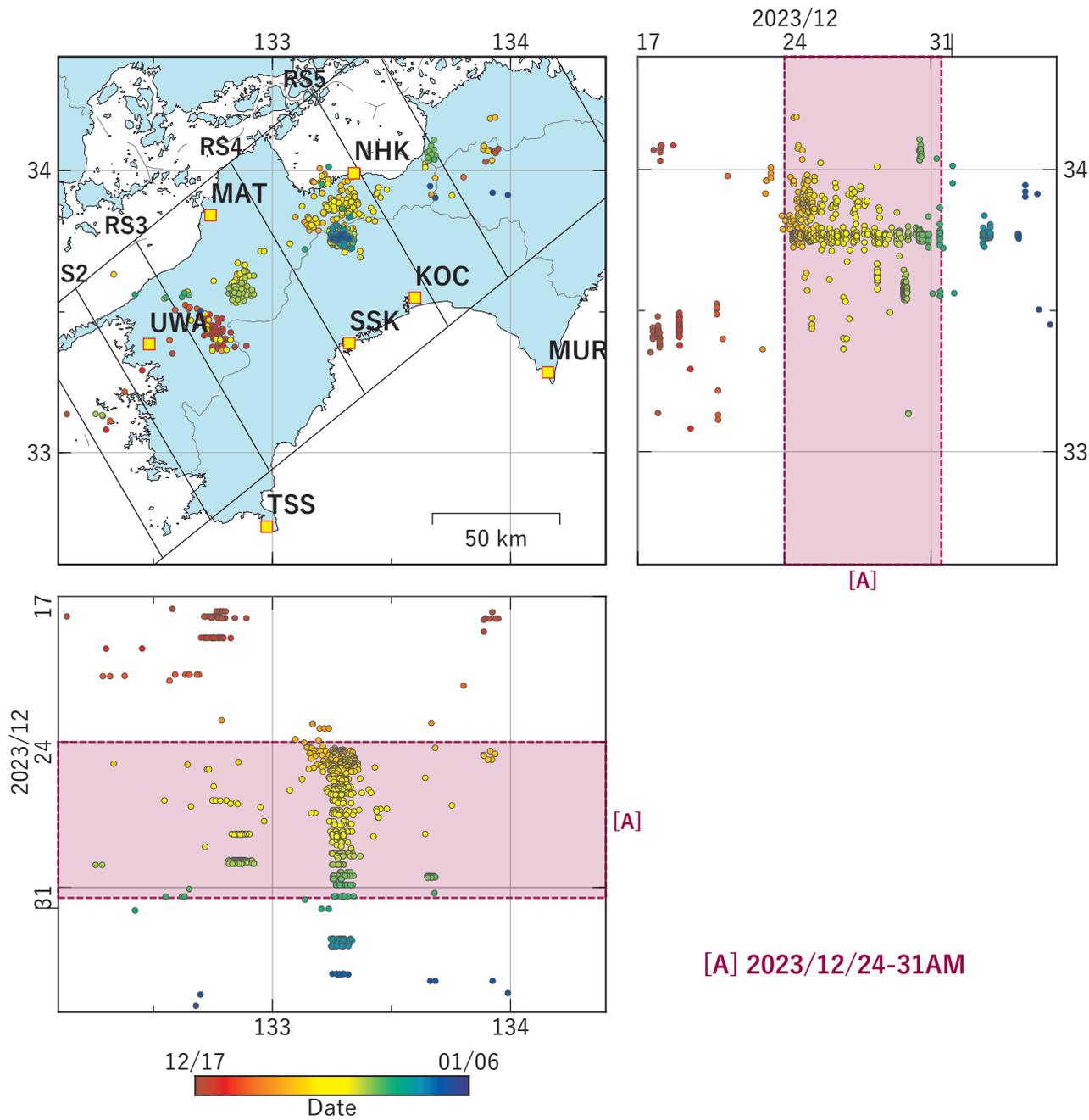


(b2) 主歪



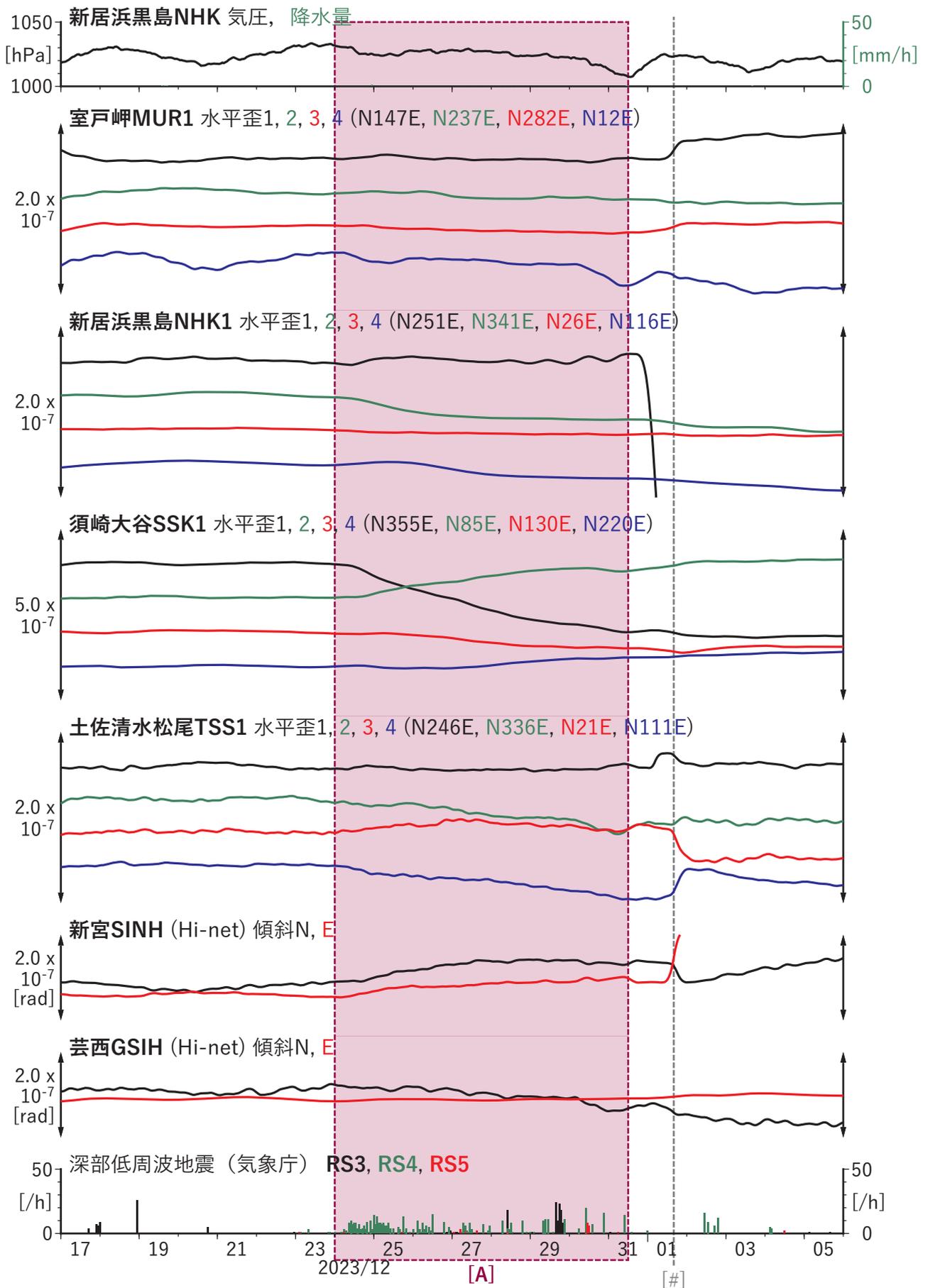
第48図 2024/01/04PM-06AMの歪・傾斜変化(第41図[F])を説明する断層モデル。

- (a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。
- (b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。赤色破線矩形は今回の一連のイベント。
 3: 2023/04/21PM-24AM (Mw 5.7), 4: 2023/08/03-05 (Mw 5.8), 5: 2023/08/23PM-25AM (Mw 5.5),
 8: 2022/05/28-30 (Mw 5.8), 9: 2023/10/11-12 (Mw 5.3), A: 2023/12/23-24 (Mw 5.9), B: 2023/12/25-30 (Mw 5.9),
 C: 2023/12/31 (Mw 5.6), D1: 2024/01/02PM-03AM (Mw 5.8), D2: 2024/01/02PM-03AM (Mw 5.7),
 E: 2024/01/03PM-04AM (Mw 5.8)
- (b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。



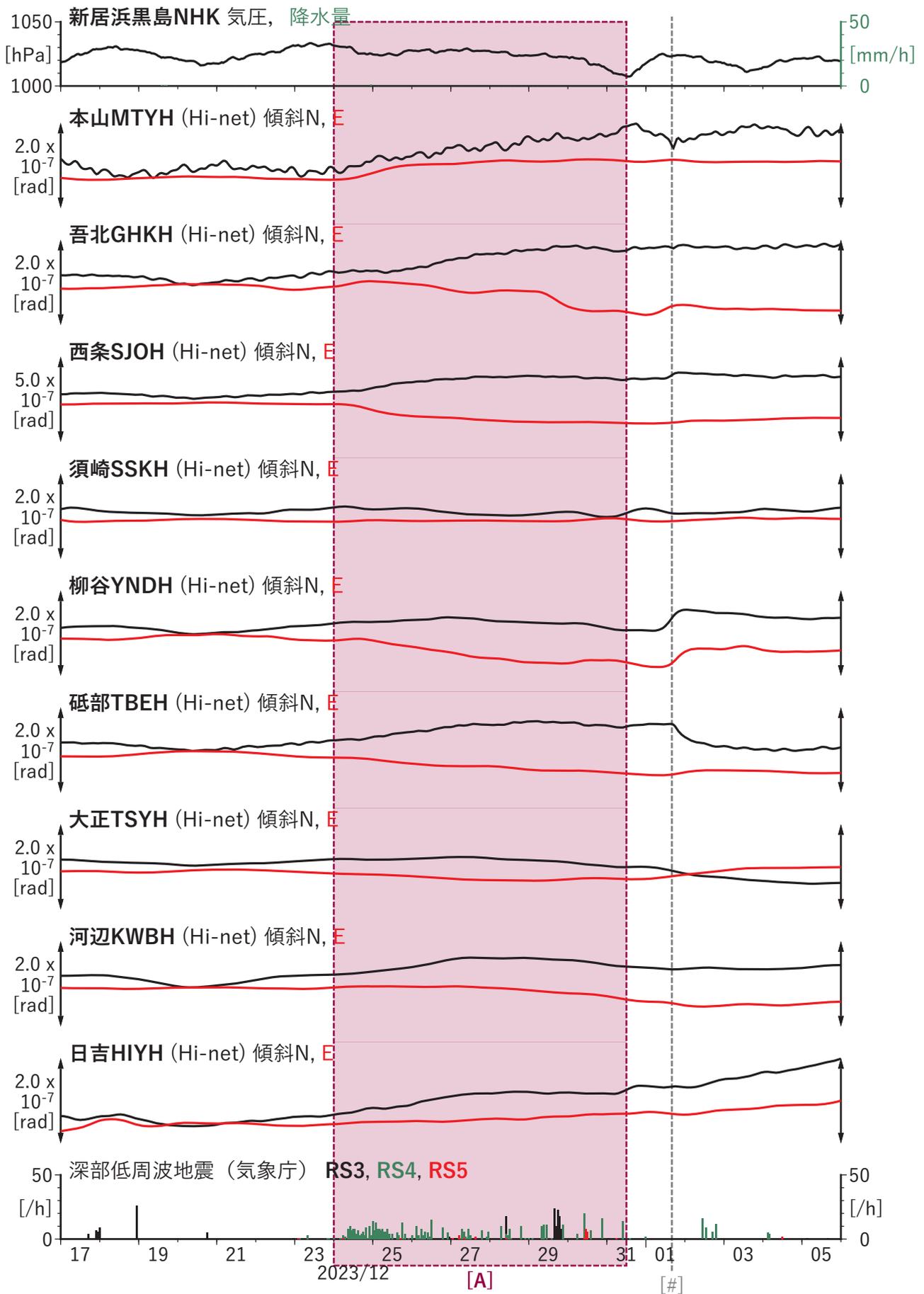
第49図 四国地域における深部低周波地震の時空間分布図（2023/12/17 00:00:00-2024/01/06 00:00:00 (JST)）。気象庁カタログによる。

（観測点） MUR: 室戸岬, NHK: 新居浜黒島, KOC: 高知五台山, SSK: 須崎大谷,
MAT: 松山南江戸, TSS: 土佐清水松尾, UWA: 西予宇和



第50図 歪・傾斜の時間変化(1) (2023/12/17 00:00-2024/01/06 00:00 (JST))

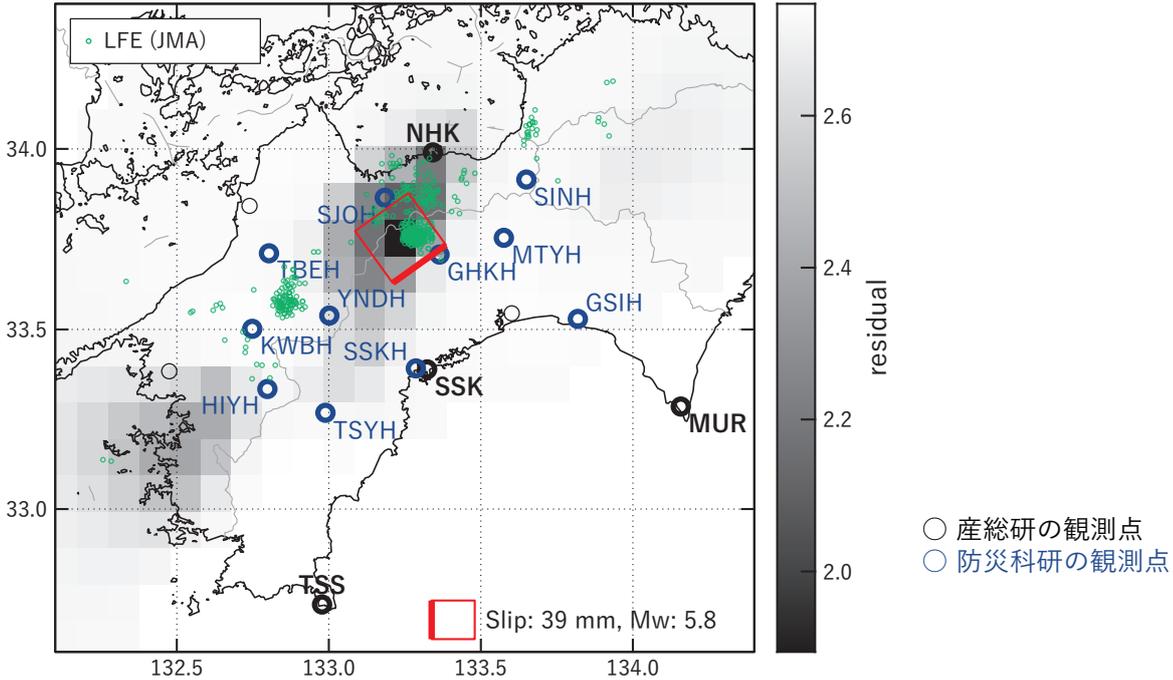
[#]は令和6年能登半島地震の発生時刻。



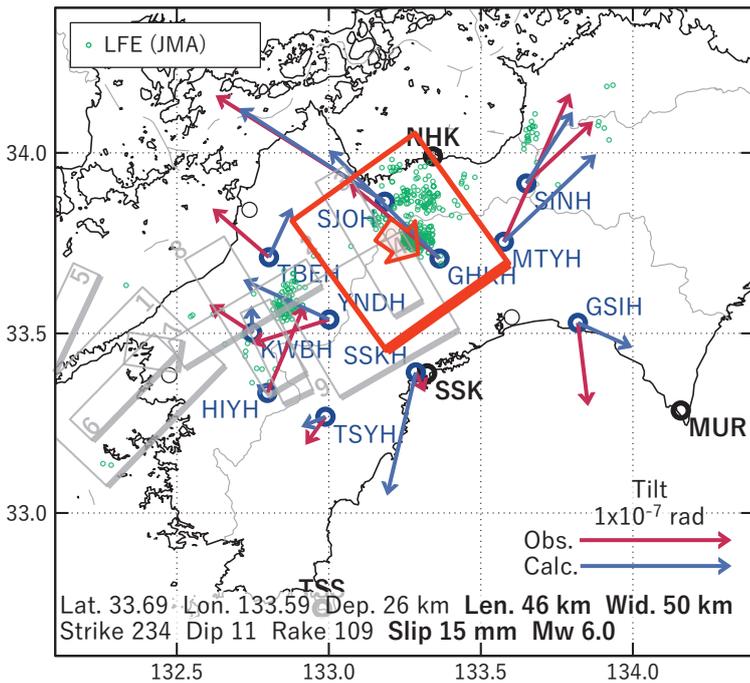
第50図 歪・傾斜の時間変化(2) (2023/12/17 00:00-2024/01/06 00:00 (JST))
 [#]は令和6年能登半島地震の発生時刻。

[A] 2023/12/24-31AM

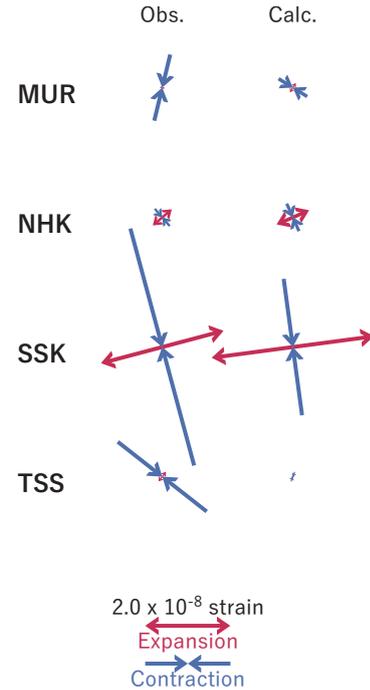
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



第51図 2023/12/24-31AMの歪・傾斜変化(第50図[A])を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。

1: 2023/05/15PM-18AM (Mw 5.9), 2: 2023/05/18PM-21AM (Mw 5.6), 3: 2023/07/01PM-05AM (Mw 5.9),

4: 2023/07/05PM-10AM (Mw 5.8), 5: 2023/08/15-18AM (Mw 6.0), 6: 2023/08/18PM-20 (Mw 5.5),

7: 2023/11/30PM-12/02 (Mw 5.6), 8: 2023/12/03-4 (Mw 5.6), 9: 2023/12/05-06 (Mw 5.5)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

近畿地域の地下水位・歪観測結果（2023年11月～2024年1月）

産業技術総合研究所

2023年11月～2024年1月の近畿地域におけるテレメータによる地下水位およびボアホール型歪計による地殻歪（水平3成分）の観測結果を報告する。観測点は12点（観測井は14井戸）である（第1図）。同期間中に第1図で示す範囲内で、M4以上で深さ30kmより浅い地震は、無かった。

第2～5図には、2023年8月～2024年1月における地下水位1時間値の生データ（上線）と補正值（下線）を示す。ボアホール型歪計が併設してある観測点については、同期間における歪3成分の観測値（生データ）も示す。歪の図において「N120」などと示してあるのは、歪の方向が北から120度東方向に回転していることを示す。水位補正值(corrected)は、潮汐解析プログラムBAYTAP-Gによって、気圧・潮汐・不規則ノイズの影響を除去した結果である。なお、hno・sed・tkz・ysk・yst1・yst2およびyst3は地上より上に水位が来るので、井戸口を密閉して水圧を測定し、それを水位に換算している。

yst1の地下水位の2019年6月27日以降のデータは水位計の異常のためと思われる（第2図）。yst3の地下水位の2021年6月2日以降の故障は水位計本体の故障である（第2図）。tkzの歪の2023年7月3日以降の故障は歪計地上装置の故障と思われる（第3図）。hrbの地下水位の短期的な上下変化は口元から雨が流れ込んだためと思われる（第3図）。gojの地下水位の2020年6月4日以降の故障は水位計本体の故障である（第4図）。

2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震M7.6に伴い、yst2の地下水位、yskの地下水位、tkzの地下水位、hrbの地下水位、tnnの地下水位・歪、kryの地下水位、ohrの地下水位・歪、hnoの地下水位、htsの地下水位に変化が見られた。

これらのデータ(グラフ等)は、<https://www.gsj.jp/wellweb/>で公開されている。

(北川有一・松本則夫・佐藤努・板場智史・落唯史・木口努・矢部優)

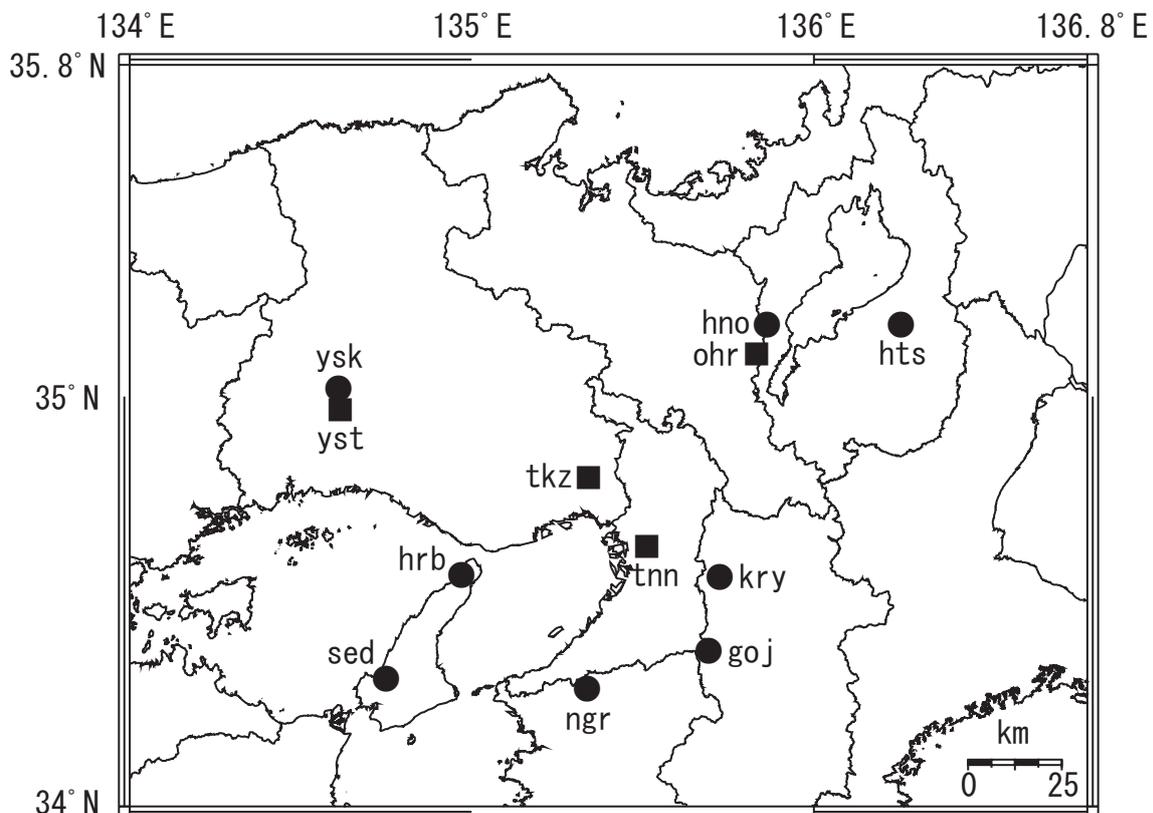


Fig. 1 観測点分布図（●・■）。●は地下水のみの観測点で、■はボアホール型歪計を併設している観測点。

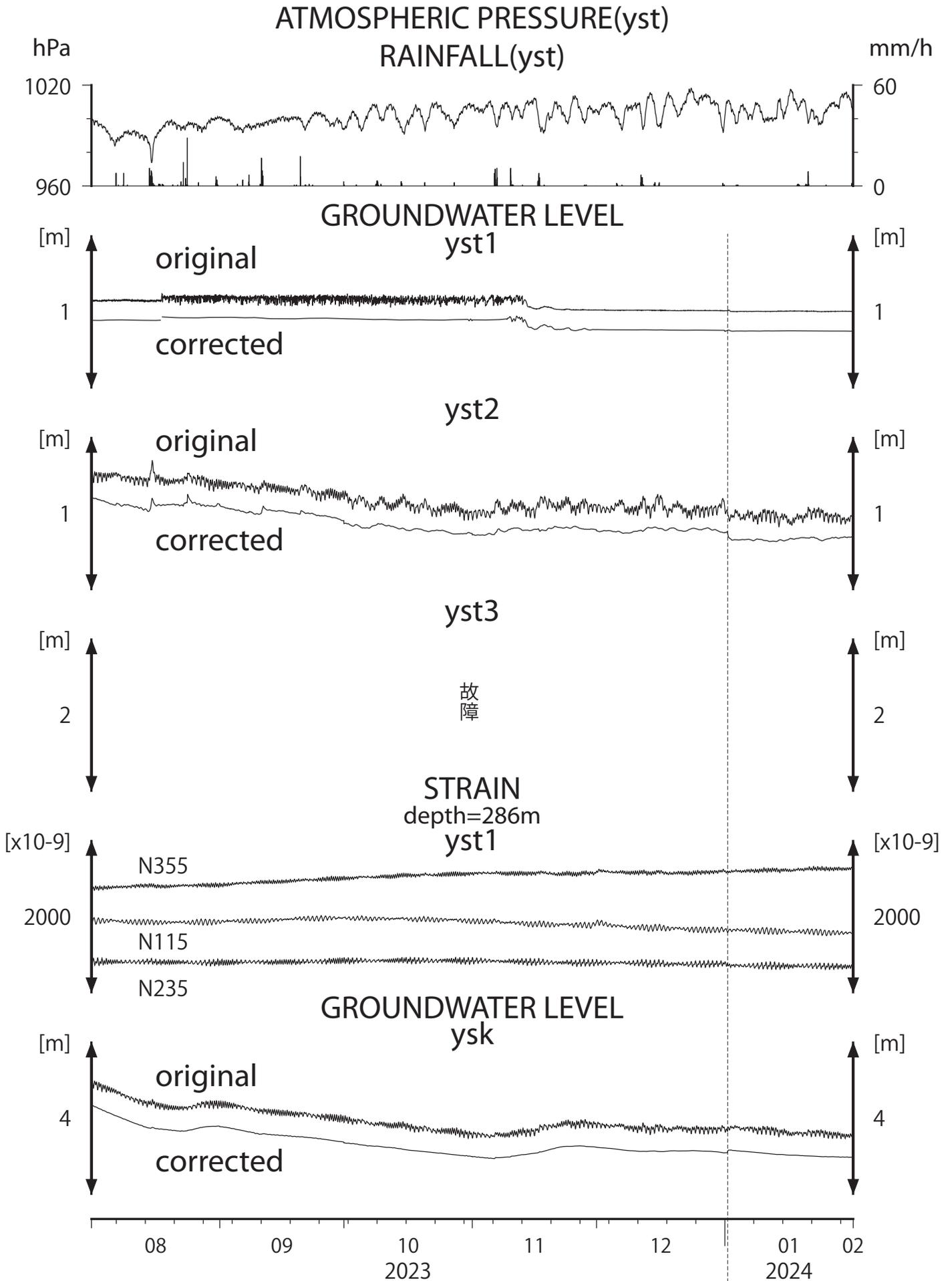


Fig.2

2024/1/1
M7.6

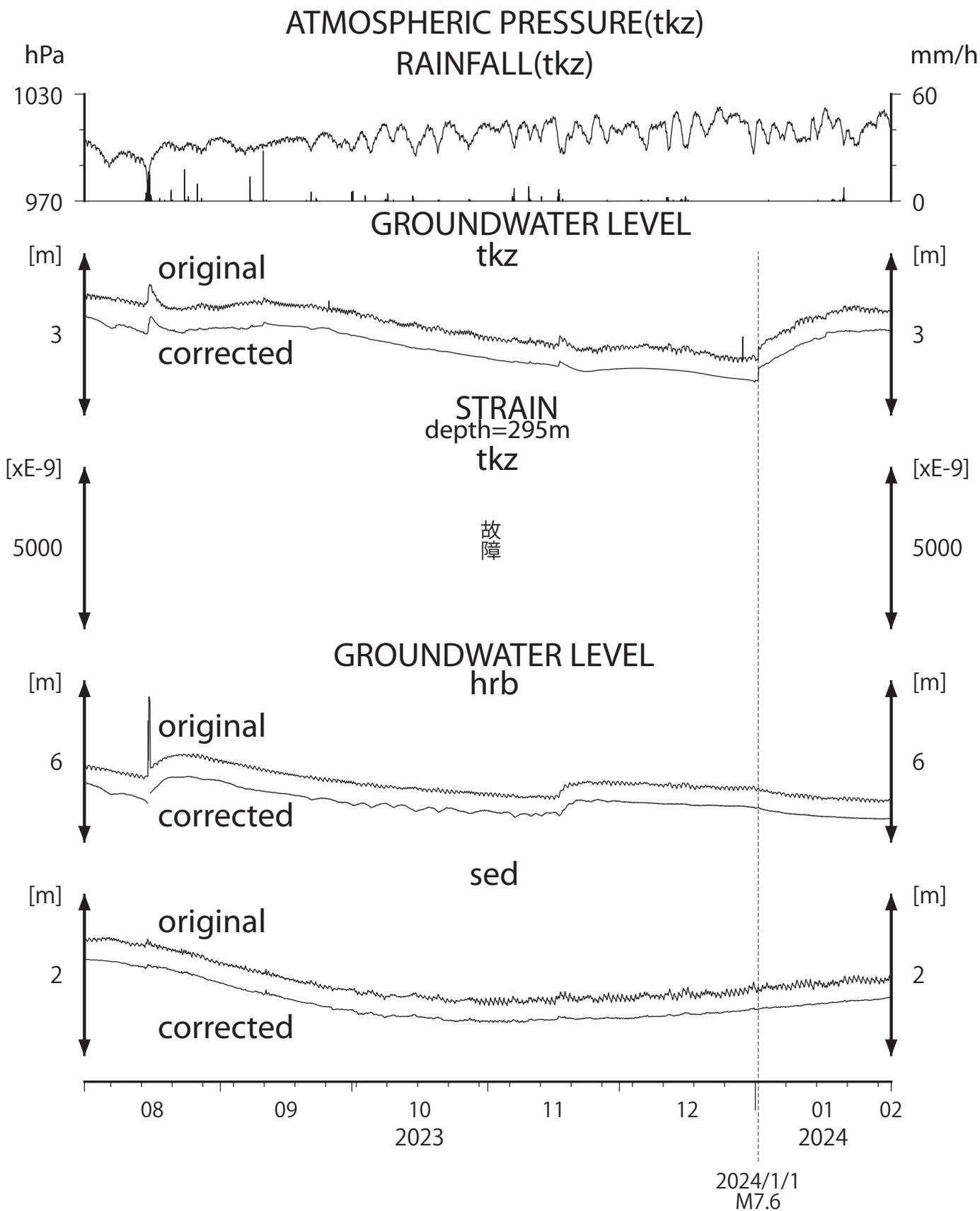
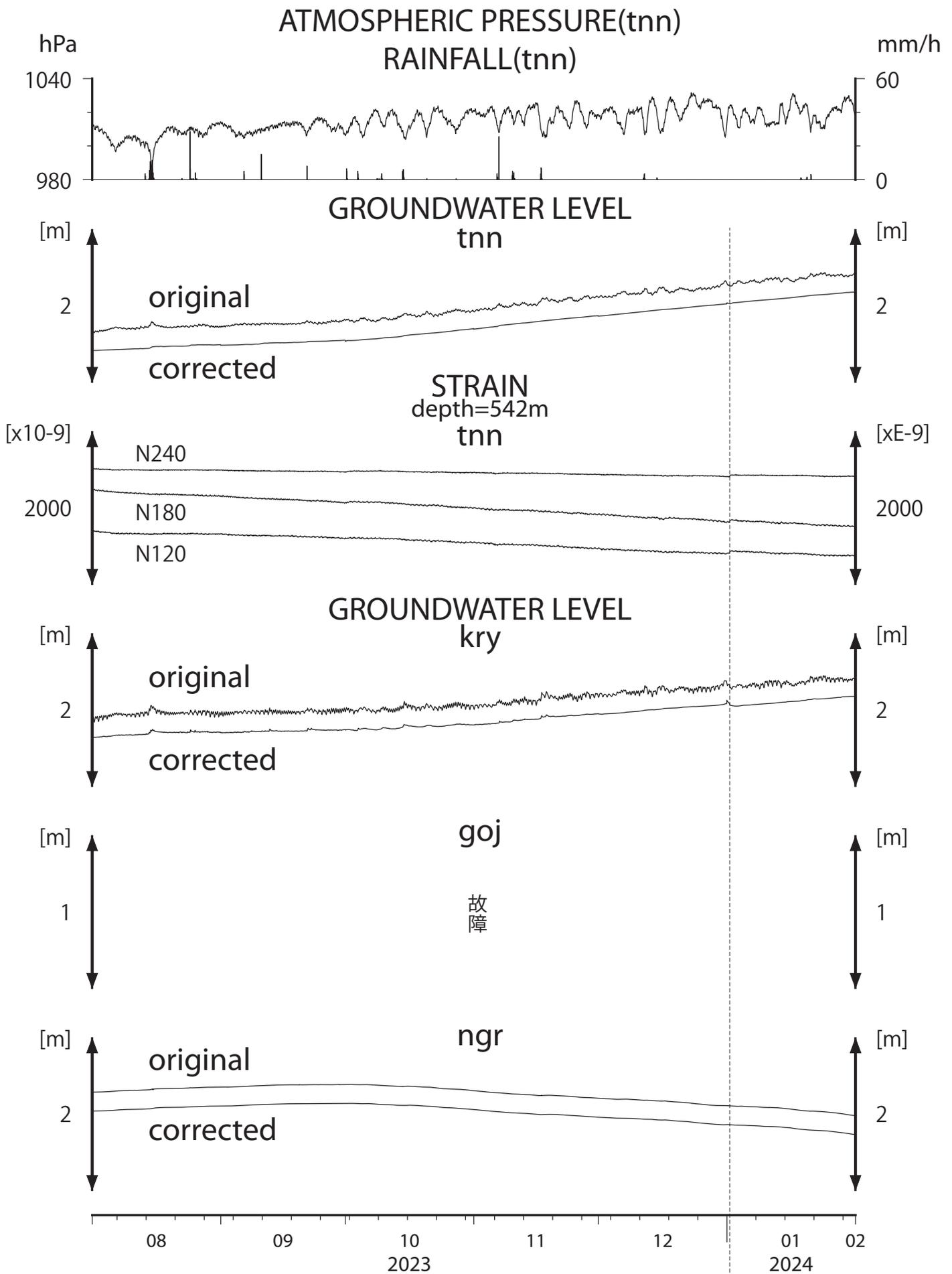


Fig.3



2024/1/1
M7.6

Fig.4

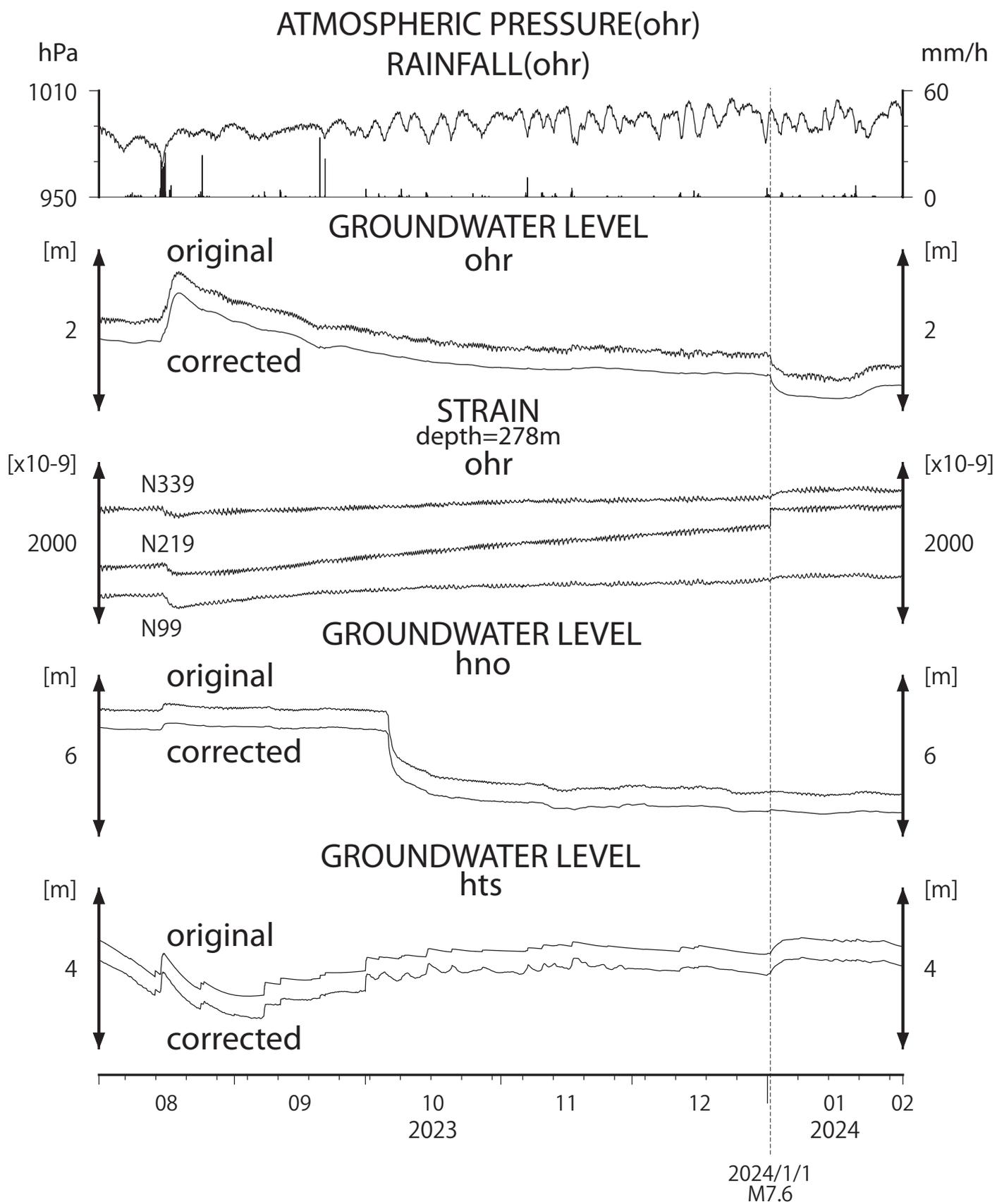


Fig.5

岐阜県東部・長野県西部における地殻活動観測結果 (2023年11月～2024年1月)

Observation of Tectonic Activities in Eastern Gifu and Western Nagano Regions (November, 2023～January, 2024)

産業技術総合研究所

Geological Survey of Japan, AIST

1. 観測概要

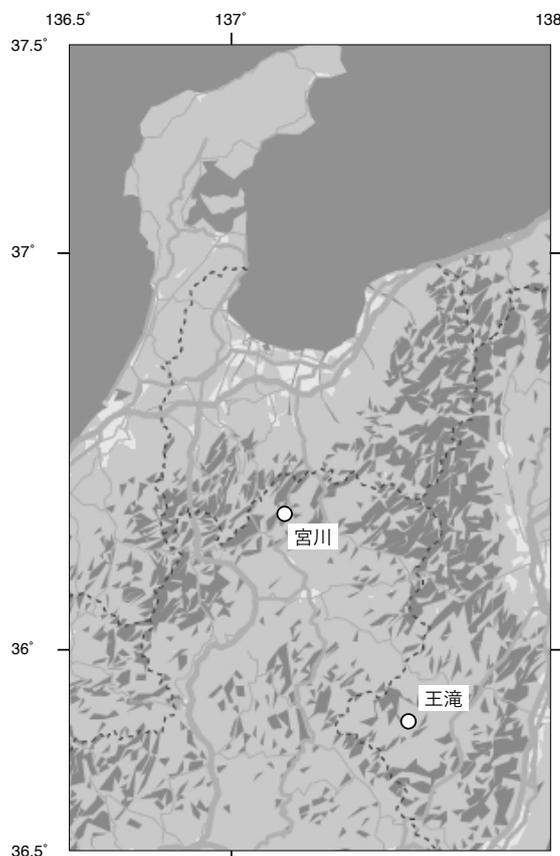
産業技術総合研究所は岐阜県東部の宮川及び長野県西部の王滝において地殻活動総合観測設備を設置している（第1図）。宮川では深度約300mの孔井を掘削し、深度256.78～267.66mの滞水層の地下水位の計測を行っており、王滝では深度約815mの孔井を掘削し、深度645.24～663.35mの滞水層の地下水位の計測を行なっている。

2. 観測結果概要

宮川・王滝の水位（第2図、第3図）：

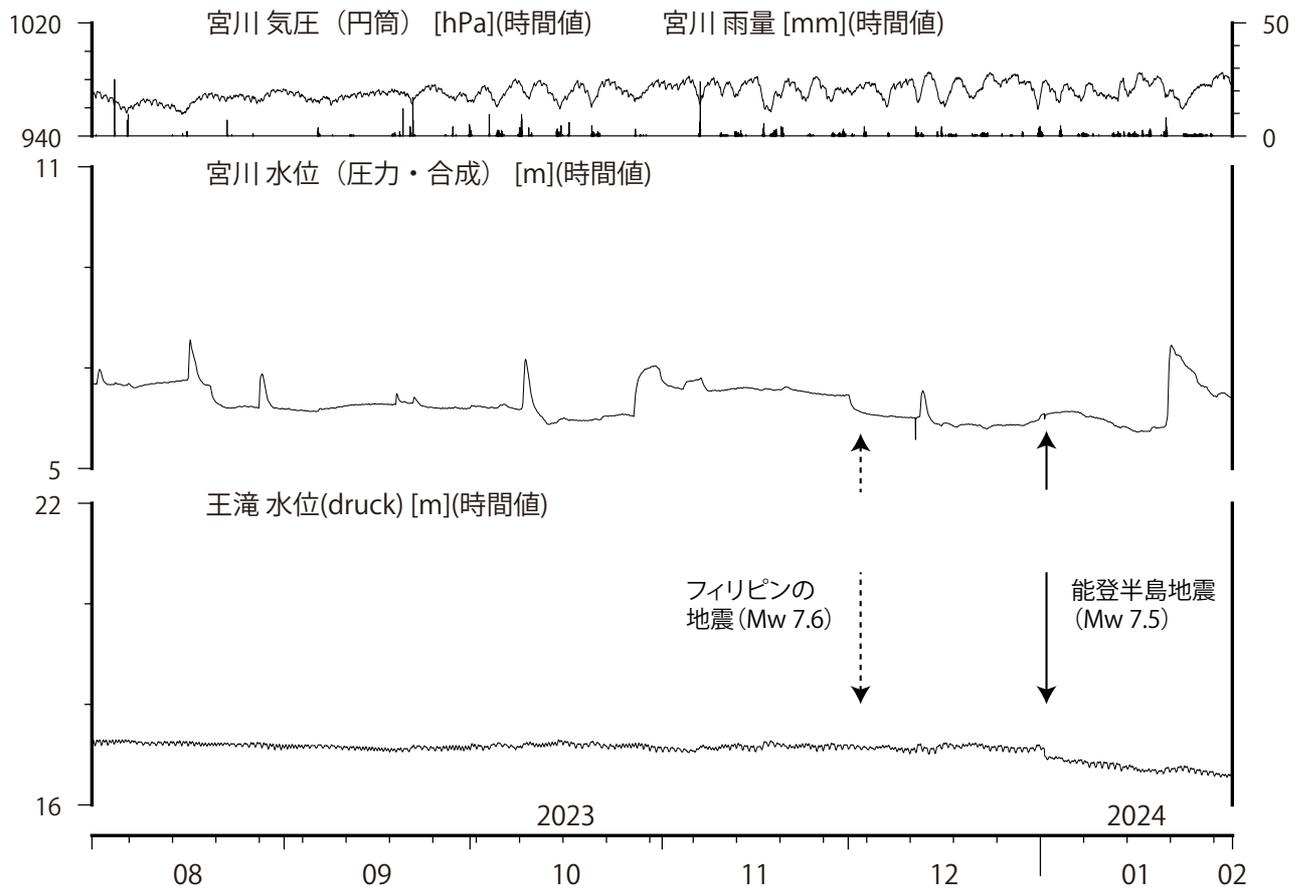
潮汐変化を書く。宮川では降雨の影響が大きい。2023年12月2日フィリピンの地震 Mw7.6 で地下水位の変化は見られない。2024年1月1日令和6年能登半島地震 Mw7.5 では、宮川の地下水位が地震後20分で約12cm低下し、約半日後におよそ元の水位に戻り、王滝の地下水位が地震後15分で約9cm低下し、その後も低下の傾向となり1月18日に地震前から約44cm低下した。

(木口努・今西和俊・松本則夫)



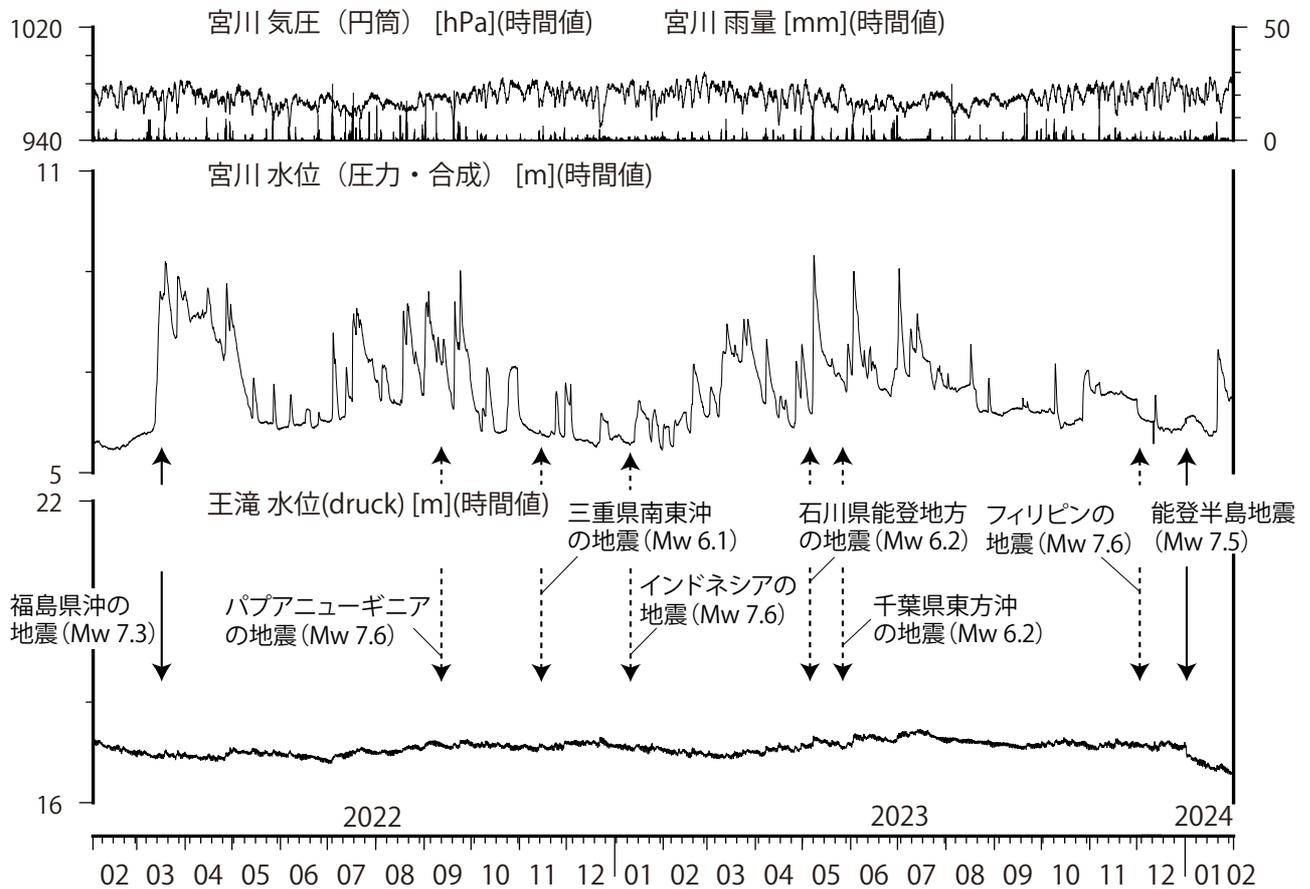
第1図 岐阜県東部の宮川及び長野県西部の王滝の観測点位置

Fig.1 Location map of the observation boreholes at Miyagawa and Outaki.



第2図 宮川と王滝における水位観測結果(6ヶ月間)

Fig.2 Results of groundwater levels at Miyagawa and Outaki (for 6 months).



第3図 宮川と王滝における水位観測結果(2年間)

Fig.3 Results of groundwater levels at Miyagawa and Outaki (for 2 years).

神奈川県西部地域の地下水位観測（2023年11月～2024年1月）

神奈川県温泉地学研究所・産業技術総合研究所

1. はじめに

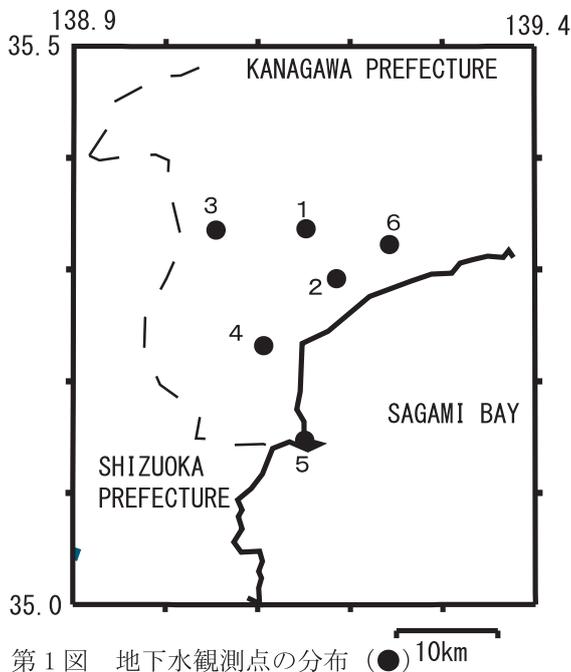
神奈川県温泉地学研究所では、神奈川県西部地震の予知研究の一環として、第1図・第1表に示した6ヶ所に地下水位観測施設を整備し地下水位の連続観測を行っている。2023年11月～2024年1月の期間に重点を置いた観測結果を報告する。

2. 観測

第1図の6ヶ所の観測点では、地下水位の他、気圧・降水量が1秒サンプリングで観測され、神奈川県温泉地学研究所にリアルタイム送信されている。通常の解析には、これをもとに作成した1分値や1時間値を用いている。

3. 結果

結果を第2図（原則1時間値、真鶴・二宮のみ24時間平均値）と第3図（原則0時の瞬時値）に示す。第1図の範囲内（北緯35～35.5度、東経138.9～139.4度）では、2023年11月～2024年1月に深さ30km以下でM4以上の地震はない。同期間中に観測点で震度2以上の揺れをもたらした可能性がある地震は第2表に示した2個である。同期間では、1月1日の能登半島地震（M7.6）の際に大井観測点で約7cmの水位の上昇が、小田原・南足柄・二宮観測点でそれぞれ約2cm、約1cm、約1cmの水位の低下が観測された。第4図に各観測点での水位変化の詳細を示した。



(板寺一洋・松本則夫)

参考論文

横山尚秀・他, 1995, 神奈川県西部地震予知のための地下水位観測施設と地下水位解析, 温泉地学研究所報告, 26, 21-36.

第1表 観測点の情報

観測点	標高 (m)	井戸深さ (m)	スクリーン深さ (m)	センサー深度 (m)
大井	47	300	270-300	15
小田原	22	300	270-300	15
南足柄	143	150	120-150	32
湯本	67	300	250-300	20
真鶴	40	300	250-300	43
二宮	51	500	450-500	13

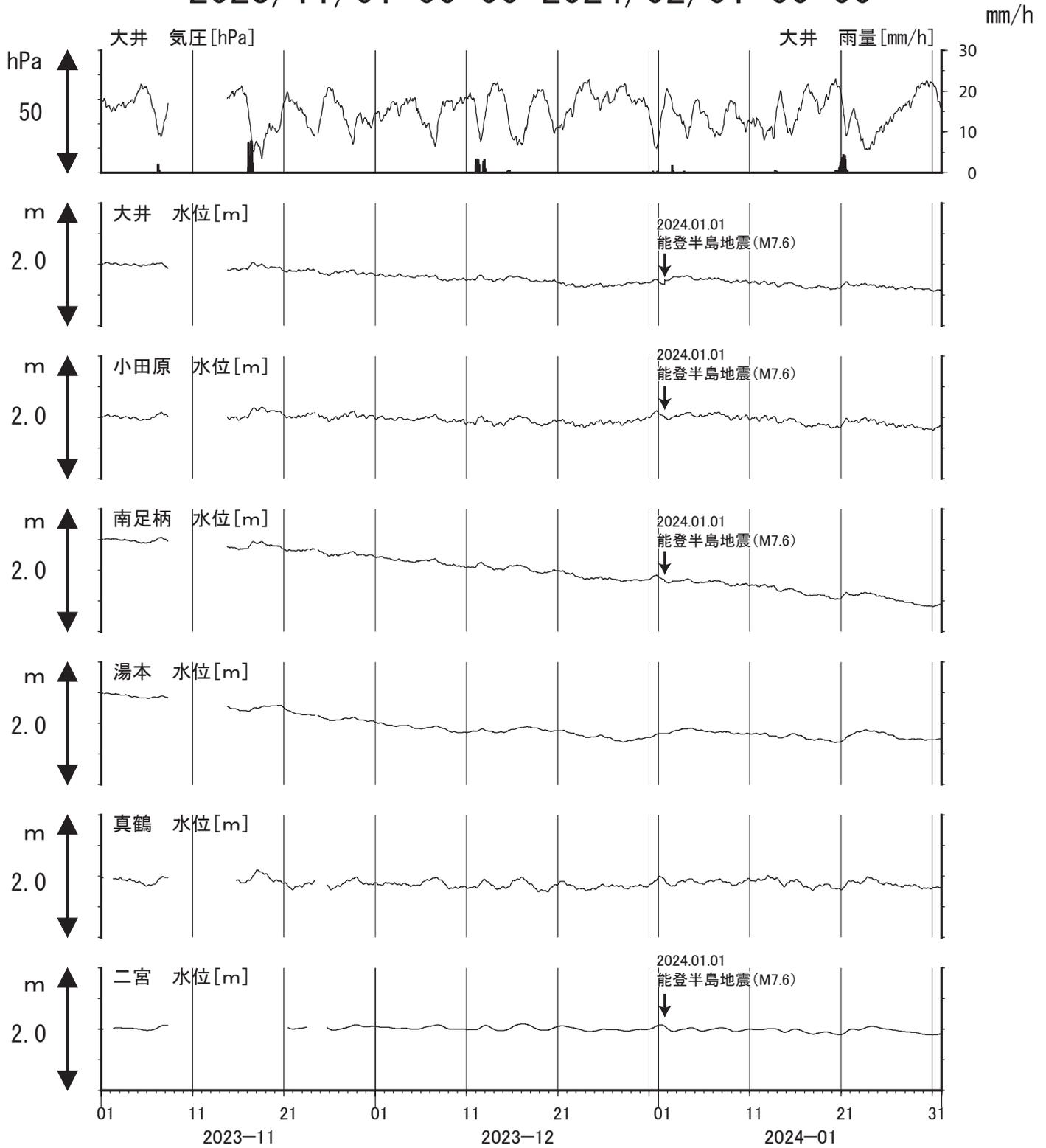
- 1: 大井, ●2: 小田原, ●3: 南足柄, ●4: 湯本,
- 5: 真鶴, ●6: 二宮.

第2表 観測点に震度2以上の揺れを与えたと推定される地震

No.	地震発生日時	震央地名	M	深さ	観測点最大震度
1	2024/1/1 16:10	石川県能登地方	7.6	16 km	震度3
2	2024/1/28 8:59	東京湾	4.7	73 km	震度2

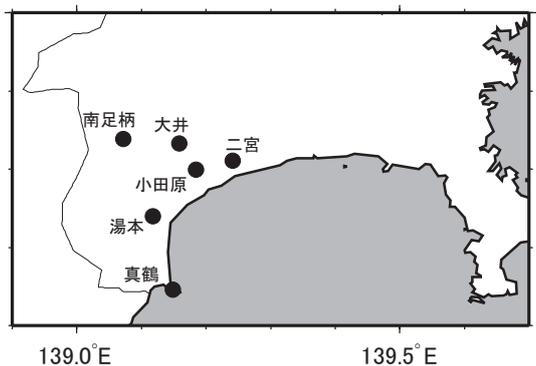
神奈川県西部地域の地下水位観測 中期(時間値)

2023/11/01 00:00-2024/02/01 00:00



コメント：収録サーバーの不具合により、2023年11月中旬ごろにデータが表示されていない期間がある。

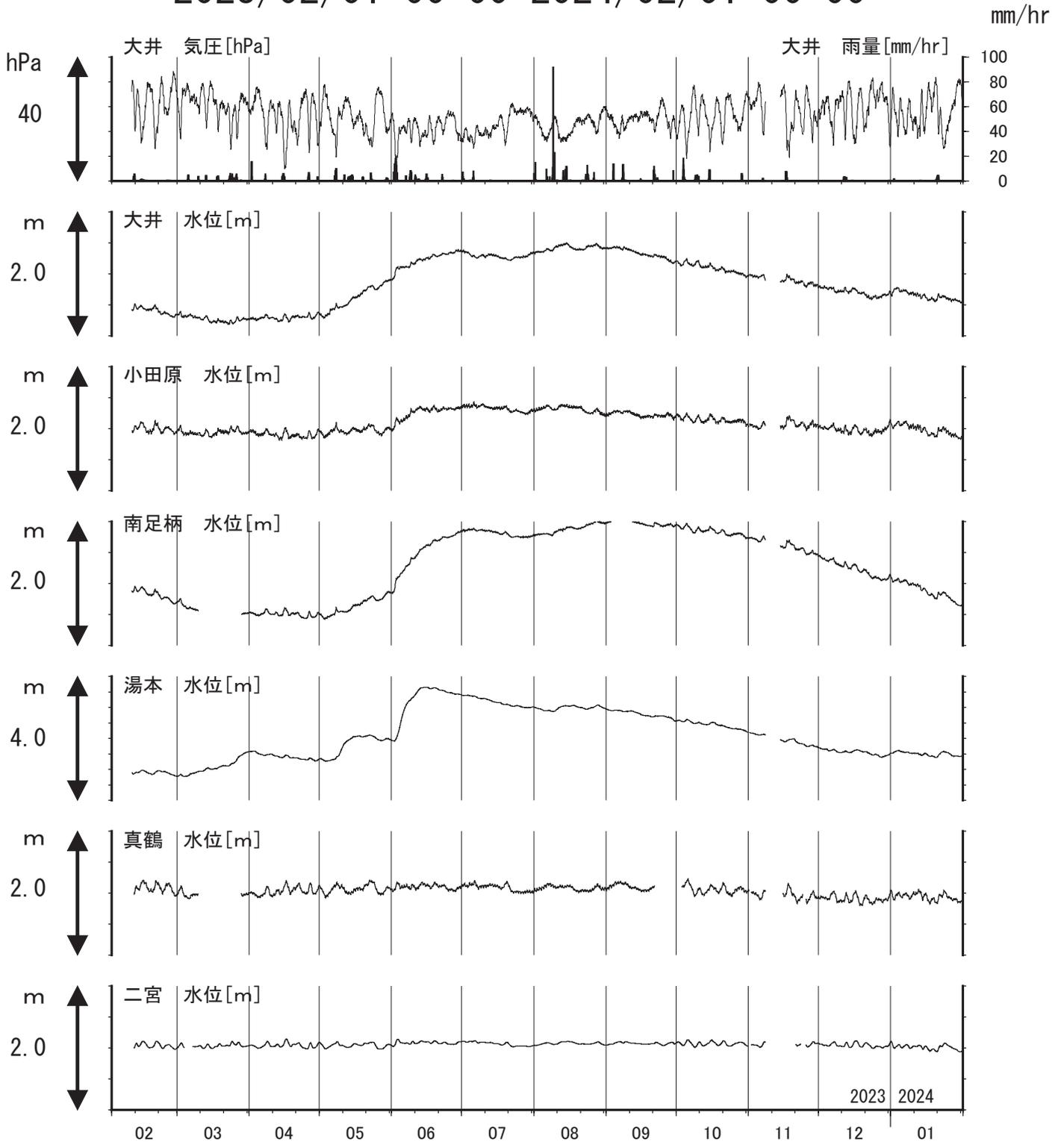
※真鶴・二宮は潮汐の影響が大きいため日平均値を示している。他は一時間値(生データ)



第2図

神奈川県西部地域の地下水位観測 長期

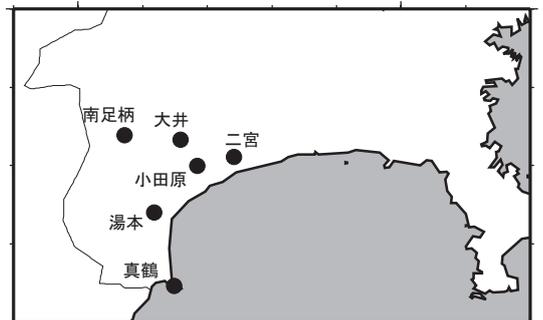
2023/02/01 00:00-2024/02/01 00:00



コメント：収録サーバーの不具合により、2023年2月～3月や11月中旬にデータが表示されていない期間がある。また、真鶴で2023年9月21日～10月1日にかけて落雷の影響による欠測がある。

※真鶴・二宮以外は毎正時の瞬時値を示している。

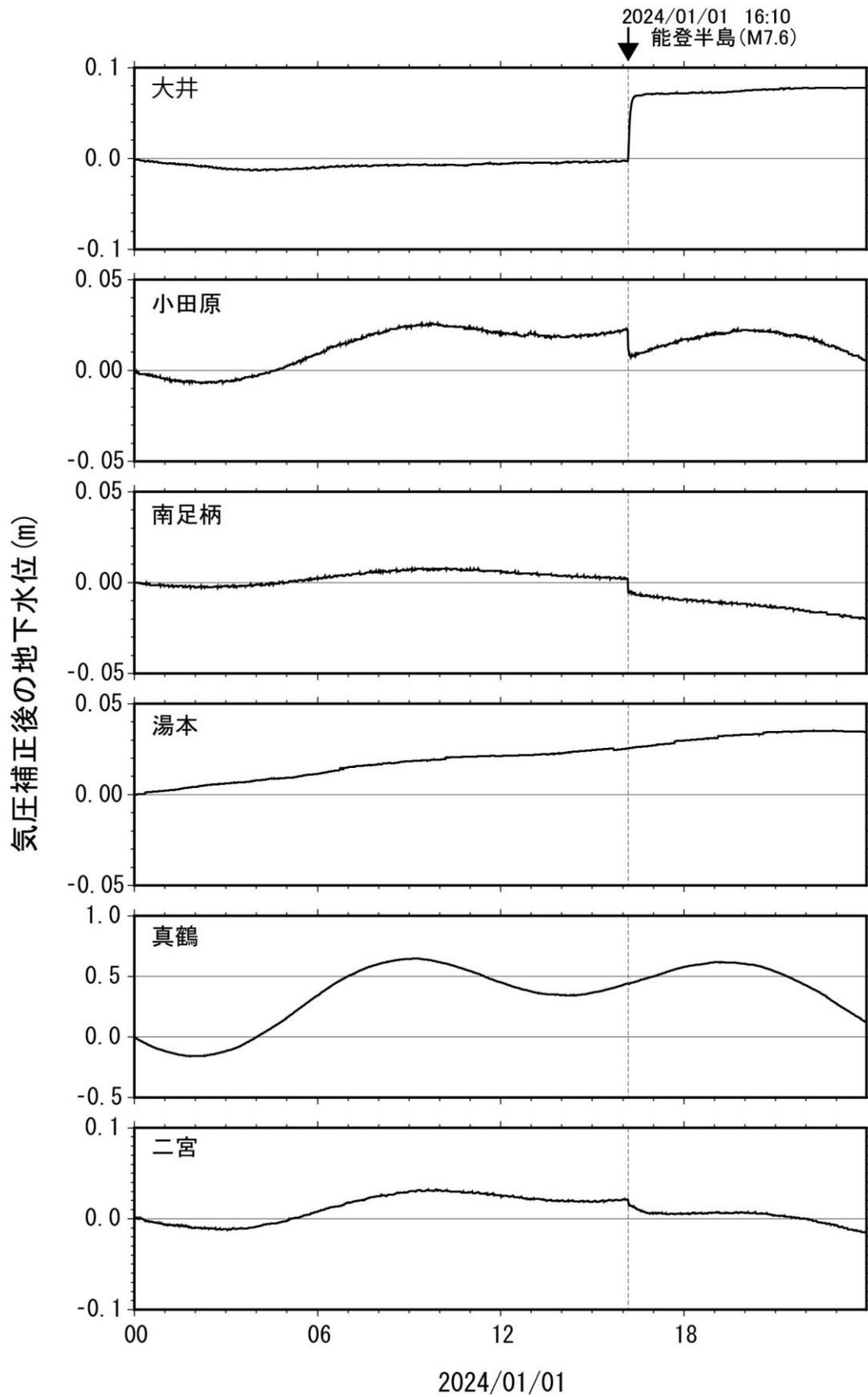
35.5°N



139.0°E

139.5°E

第3図



第4図 コサイスミックな地下水位の変化(2024年1月1日)

第4図

鳥取県における温泉水・地下水変化（2023年8月～2024年1月）

鳥取大学工学部・産業技術総合研究所

1. はじめに

鳥取県・島根県・岡山県は温泉が多く、その所在も地震活動と関連していると考えられる。この地方の特徴を生かし、国際ロータリー第2690地区、鳥取県西部地震義援金事業の一環として、温泉水観測網を山陰地方（鳥取県西部地震周辺及び鳥取県東部・岡山県北部地域）に整備し、地震活動と温泉水変化との関連を調べている。

2. 観測

現在観測を行っている地点は3点である（第1図）。観測方法としては、温泉井に水位計や温度計（分解能：1/100℃）を設置し、測定値をデータロガーに収録、定期的に現地集録して、鳥取大学工学部でデータ処理し、温泉データと地震データ等との比較により関係を調べる。解析の結果は、速報として観測センターのホームページで公開している（<https://onsen-network.tank.jp/>）。2020年秋から新しいURLへ変更した。

水位・水温の測定インターバルは10秒で1分間の平均値を記録している。温度センサーは、事前の温度検層により、湯谷温泉等を除いて、最も温度変化の大きい位置（深さ）に設置している（鳥取温泉175m、岩井温泉150m）。なお、湯谷（第1図の6）では2012年度から、その他の点では2016年6月からデータをテレメーター集録から現地集録に切り替えている。

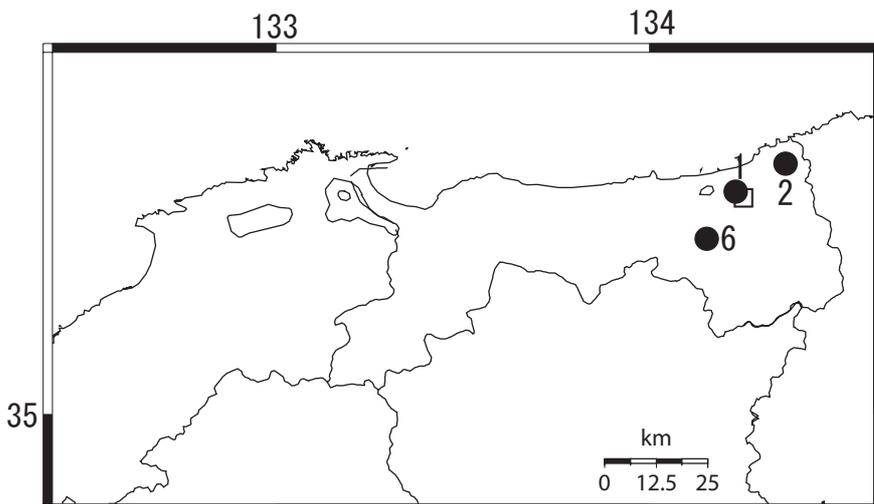
3. 結果（第2図）

結果（原則として1時間値）を第2図に示す。気圧や気温の記録は、鳥取の気象台の測定値を用いている。鳥取温泉の水位は2022年5月以降測定範囲の上限まで度々上昇したため、2023年8月3日に水位計の位置を1m上げた。湯谷温泉では、機器のトラブルのため、2023年11月7日から2024年2月1日までのデータを回収できていない。

2023年8月～2024年1月の間に、第1図の範囲内（北緯34.8～35.8度、東経132.4～134.6度）で深さ30km以浅でM4以上の地震は、なかった。M4未満で観測点周辺に震度2以上の揺れをもたらした地震は、なかった。

2024年1月1日の令和6年能登半島地震（M7.6）の後、鳥取温泉の水位上昇および岩井温泉の水位低下と水温上昇が観測された。

（野口竜也・香川敬生・西田良平・北川有一）



第1図

鳥取気象台（□）と温泉水・地下水観測点（●）の分布。

1：鳥取温泉， 2：岩井温泉，
6：湯谷温泉

